



Informatica® MDM Multidomain Edition
10.2 HotFix 2

リリースガイド

Informatica MDM Multidomain Edition リリースガイド

10.2 HotFix 2

2018 年 3 月

© 著作権 Informatica LLC 2012, 2019

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、および ActiveVOS は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2019-05-28

目次

序文	11
Informatica のリソース.....	11
Informatica Network.....	11
Informatica ナレッジベース.....	11
Informatica マニュアル.....	11
Informatica 製品可用性マトリックス.....	12
Informatica Velocity.....	12
Informatica Marketplace.....	12
Informatica グローバルカスタマサポート.....	12
 第 I 部 : バージョン 10.2	13
 第 1 章 : 新機能と変更 (10.2 HotFix 2)	14
新機能 (10.2 HF2)	14
Oracle WebLogic Server 12.2.1.3 のサポート.....	14
Oracle WebLogic T3S プロトコルのサポート.....	14
プロセスサーバーのプロパティ.....	14
Hub サーバーのプロパティ.....	15
Hub サーバーとプロセスサーバーのグループ化.....	15
グローバルプロパティ.....	16
保存ハンドラのユーザーイグジットの機能拡張.....	16
日付形式の機能拡張.....	16
[開始] ワークスペースの拡張.....	17
設定自動化ツールの機能拡張.....	17
変更内容 (10.2 HotFix 2)	17
ユーザーイグジットの機能拡張.....	17
Hub 状態インジケータが PUT 可能でない.....	17
 第 2 章 : 新機能と変更 (10.2 HotFix 1)	18
新機能 (10.2 HF1)	18
履歴ビューの改良点.....	18
ビジネスエンティティへのアクセスの制限.....	18
外部キーカラムへのデータの取り込み.....	19
SearchQuery 要求のパフォーマンス最適化.....	19
バッチグループのジョブ履歴.....	19
メッセージキューのポーリングの無効化.....	19
グローバルプロパティ.....	20
MDM サポートツール.....	20
バッチマージ解除ジョブのパフォーマンスの最適化.....	21
検索結果から 1 つのレコードをエクスポートするオプション.....	21

ビジネスエンティティサービスの改良点.	21
レガシー XML JMS メッセージのメッセージ ID.	22
WebSphere アプリケーションサーバー V8.5.5 Fix Pack 11 のサポート.	22
Informatica AddressDoctor バージョン 5.10.	22
インターネットプロトコルバージョン 6.	22
変更 (10.2 HotFix 1)	22
プロキシロール.	22
リソースキットから削除された Jaspersoft	22
[NULL の更新を許可する] プロパティ.	22
BeMDMWorkflow ActiveVOS プロジェクト.	23
プロセスサーバーの廃止されたプロパティ.	23

第 3 章 : 新機能と変更点 (10.2) 24

新機能 (10.2)	24
Informatica Data Director の Hub サーバーのプロパティ.	24
パスワードのハッシュ化.	24
セキュリティ設定ユーティリティ.	25
プロビジョニングツールでの機能拡張.	25
レイアウトデザイナー.	25
DaaS プロバイダコンポーネント.	25
Data as a Service プロバイダとの統合.	25
多対多のリレーション.	26
ビジネスエンティティサービス用の外部コールアウト.	26
[相互参照レコード] ビュー.	26
履歴ビュー.	26
[一致するレコード] ビュー.	27
タイムラインビュー.	27
DaaS 用のビジネスエンティティサービス.	27
リレーション管理用のビジネスエンティティサービス.	28
ビジネスエンティティサービスの機能拡張.	28
BVT バージョンの抽出.	29
未処理インデックスインジケータ.	29
検索結果のソート.	29
WebSphere アプリケーションサーバー V8.5.5 Fix Pack 8 のサポート.	29
Oracle GoldenGate 12 のサポート.	29
ActiveVOS データベース接続の詳細.	30
リソースキット.	30
マニュアル.	30
Informatica プラットフォームログ.	31
変更点 (10.2)	31
ライセンスファイル.	31
MDM Hub ユーザーの電子メールアドレス.	31
ソースシステムキーの保持.	31

メタデータキャッシュ.....	32
レイアウトエディタ.....	32
マージ解除.....	32
マージタスク.....	32
トランスフォーメーション.....	32
リソースキット.....	33
保留状態のビジネスエンティティ.....	33
iPad および iPhone 用の MDM アプリの廃止.....	33
ビジネスエンティティスキーマの生成.....	33
プロキシロール.....	33
第 II 部 : バージョン 10.1.....	34
第 4 章 : 新機能と改良点 (10.1 HotFix 5)	35
新機能 (10.1 HotFix 5)	35
Informatica MDM Hub.	35
Informatica Data Director.	36
変更内容 (10.1 HotFix 5)	37
プロキシロール.....	37
ユーザーイグジットの機能拡張.....	37
ガイドへの変更.....	37
第 5 章 : 新機能と変更 (10.1 HotFix 4)	39
新機能 (10.1 HotFix 4)	39
Informatica MDM Hub.	39
Informatica Data Director.	39
変更 (10.1 HotFix 4)	40
第 6 章 : 新機能と変更 (10.1 HotFix 3)	41
新機能 (10.1 HotFix 3)	41
Informatica MDM Hub.	41
Informatica Data Director.	41
変更 (10.1 HotFix 3)	42
BeMDMWorkflow ActiveVOS プロジェクト.....	42
第 7 章 : 新機能と変更 (10.1 HotFix 2)	44
新機能 (10.1 HotFix 2)	44
Informatica MDM Hub.	44
Informatica Data Director.	44
変更 (10.1 HotFix 2)	45
[NULL の更新を許可する] プロパティ.....	45
廃止されたプロパティ.....	45
Hub 状態インジケータが PUT 可能でない.....	46

第 8 章 : 新機能と変更 (10.1 HotFix 1)	47
新機能 (10.1 HotFix 1)	47
Informatica MDM Hub.	47
Informatica Data Director.	48
変更内容 (10.1 HotFix 1)	49
SAM 特権.	49
ギャップを埋める.	49
ソースシステムキーの保持.	49
INFA_MDM.zip ファイルの削除.	49
タスクマネージャの機能拡張.	49
マージタスクの機能拡張.	50
一致ビューの機能拡張.	50
ビジネスエンティティスキーマ.	50
第 9 章 : 新機能と変更点 (10.1)	51
新機能 (10.1)	51
プロビジョニングツール.	51
Informatica Data Director のバージョン間の差異.	52
ビジネスエンティティビューおよびトランスフォーメーション.	53
REST API ビジネスエンティティサービス呼び出し.	53
リソースキット.	53
トークン化と一致プロセスのための Hub サーバーのプロパティ.	54
トークン化と一致プロセスのためのプロセスサーバーのプロパティ.	54
Informatica Data Director の新機能.	54
Zero Downtime を使用したアップグレード.	56
ActiveVOS タスク移行スクリプト.	56
[提案元] REST API.	56
[ビジネスエンティティの検索] REST API の機能拡張.	56
IBM DB2 用の予約キーワード.	56
変更内容 (10.1)	57
Informatica LLC.	57
用語の変更.	57
プロセスサーバーと Hub サーバー間の保護された接続.	57
トークン化プロセス.	57
検索可能なフィールドのプロパティ.	58
Informatica Data Director の変更点.	58
複数一致インデックス.	60
スキーマの変更の検証.	60
Hub サーバーの廃止されたプロパティ.	60

第 III 部 : バージョン 10.0.0	61
第 10 章 : 新機能と変更 (10.0.0 HotFix 5)	62
新機能 (10.0.0 HotFix 5)	62
Informatica MDM Hub.	62
Informatica Data Director.	63
変更内容 (10.0.0 HotFix 5)	64
プロキシロール.	64
ユーザーイグジットの機能拡張.	64
ガイドへの変更.	64
第 11 章 : 新機能と改良点 (10.0.0 HotFix 4)	66
新機能 (10.0.0 HotFix 4)	66
Informatica MDM Hub.	66
Informatica Data Director.	66
変更内容 (10.0.0 HotFix 4)	67
第 12 章 : 新機能と改良点 (10.0.0 HotFix 3)	68
新機能 (10.0.0 HotFix 3)	68
Informatica MDM Hub.	68
プロビジョニングツール.	71
Informatica Data Director.	72
変更内容 (10.0.0 HotFix 3)	76
Informatica LLC.	76
用語の変更.	77
ビジネスエンティティサービスガイド.	77
メニューの変更点.	77
エンティティビューのナビゲーションメニュー.	78
エンティティビューのセクションのフォームビュー.	78
サービス URL.	78
階層キャンバス.	79
BeMDMWorkflow ActiveVOS プロジェクト.	79
[NULL の更新を許可する] プロパティ.	79
廃止されたプロパティ.	80
SAM 特権.	80
ギャップを埋めるプロパティ.	80
ソースシステムキーの保持.	81
INFA_MDM.zip ファイルの削除.	81
タスクマネージャの機能拡張.	81
マージタスクの機能拡張.	81
一致ビューの機能拡張.	81
ビジネスエンティティスキーマ.	81

プロセスサーバーと Hub サーバー間の保護された接続.	81
トークン化プロセス.	82
検索可能なフィールドのプロパティ.	82
複数一致インデックス.	82
スキーマの変更の検証.	82
第 13 章 : 新機能と改良点 (10.0.0 HotFix 2)	83
新機能 (10.0.0 HotFix 2)	83
Informatica MDM Hub.	83
Informatica Data Director.	84
ActiveVOS.	86
Resource Kit.	89
変更内容 (10.0.0 HotFix 2)	90
スキーマツールユーザーインターフェイス.	90
エンティティ 360 のデフォルト設定.	90
承認のために送信.	91
ActiveVOS.	91
スマート検索.	93
アップグレード.	93
廃止された SIF API.	93
リリースタスク (10.0.0 HotFix 2)	93
エンティティ 360.	94
ActiveVOS.	94
第 14 章 : 新機能、変更点、リリースタスク (10.0.0 HotFix 1)	96
新機能 (10.0.0 HotFix 1)	96
Informatica MDM Hub.	96
Informatica Data Director.	97
第 15 章 : 新機能、変更点、リリースタスク (10.0.0)	99
新機能 (10.0.0)	99
Informatica MDM Hub.	99
Informatica Data Director.	100
Resource Kit.	101
変更内容 (10.0.0)	101
Informatica MDM Hub.	102
タスクの解放 (10.0.0)	102
Informatica MDM Hub.	102
Informatica Data Director.	104

第Ⅳ部：バージョン 9.7.1	105
第 16 章：新機能と改良点（9.7.1）	106
バージョン 9.7.1 HotFix 8.	106
Informatica MDM Hub.	106
Informatica Data Director.	107
バージョン 9.7.1 HotFix 7.	108
Informatica MDM Hub.	108
Informatica Data Director.	108
バージョン 9.7.1 HotFix 6.	109
Informatica Data Director.	109
バージョン 9.7.1 HotFix 5.	109
Informatica MDM Hub.	109
Informatica Data Director.	110
バージョン 9.7.1 HotFix 4.	111
Informatica MDM Hub.	111
Informatica Data Director.	112
リソースキット.	113
バージョン 9.7.1 HotFix 3.	113
Informatica MDM Hub.	113
Informatica Data Director.	114
バージョン 9.7.1 HotFix 2.	114
Informatica MDM Hub.	114
Informatica Data Director.	116
バージョン 9.7.1 HotFix 1.	116
Informatica Data Director.	116
バージョン 9.7.1.	118
Informatica MDM Hub.	118
Informatica Data Director.	119
第 17 章：Informatica MDM Hub の変更点（9.7.1）	120
BeMDMWorkflow ActiveVOS プロジェクト.	121
[NULL の更新を許可する] プロパティ.	121
プロセスサーバーの廃止されたプロパティ.	122
MDM Multidomain Edition 用の iPad アプリの廃止.	122
ギャップを埋める.	122
AddressDoctor フィールド [都道府県項目 1 ISO]	122
ソースシステムキーの保持.	123
[NULL の更新を許可する] プロパティ.	123
INFA_MDM.zip ファイルの削除.	123
廃止された SIF API.	123
トークン化およびマージプロセス最適化のプロパティ.	123

DiscoveryIQ.	124
MDM の PowerCenter のカスタムトランスフォーム.	124
データベースプロキシロール.	124
プロキシロール.	125
SIF の API.	125
ステージングテーブルのシステムカラム.	125
バッチマージ解除.	125
IBM DB2 セットアップ.	126
SIF マネージャのユーザーインタフェース.	126
ユーザーイグジットサービス統合フレームワーク API.	126
アドレスフィールドのあいまい一致.	126
マージ後ユーザーイグジット.	126
マージ解除前ユーザーイグジット.	127
マージ解除後ユーザーイグジット.	127
WebSphere 用 Secure Sockets Layer プロトコル.	127
PUT 要求での検証.	127
第 18 章 : Informatica Data Director の変更点 (9.7.1)	128
有効期間の更新.	128
タスクの詳細の編集.	128
MDM Hub Sample for ActiveVOS Workflow	129
タスクの引き受け.	129
ActiveVOS の統合.	129
Informatica Data Director のユーザーインタフェース.	130
有効日フィールド.	130
一致比較パネル.	130
索引.	131

序文

『Informatica MDM Multidomain Edition リリースガイド』では、新機能と拡張機能、バージョン間での動作の変更、および以前のバージョンからアップグレードした後に実行する必要があるタスクについて説明しています。『Informatica MDM Multidomain Edition リリースガイド』は、Informatica[®]MDM Multidomain Edition のユーザーを対象にしています。このガイドは、読者が使用する機能について知識があることを前提としています。

Informatica のリソース

Informatica Network

Informatica Network は、Informatica グローバルカスタマサポート、Informatica ナレッジベースなどの製品リソースをホストします。Informatica Network には、<https://network.informatica.com> からアクセスしてください。

メンバーは以下の操作を行うことができます。

- 1 つの場所からすべての Informatica のリソースにアクセスできます。
- ドキュメント、FAQ、ベストプラクティスなどの製品リソースをナレッジベースで検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- 自分のサポート事例を確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica ナレッジベース

ドキュメント、ハウツー記事、ベストプラクティス、PAM などの製品リソースを Informatica Network で検索するには、Informatica ナレッジベースを使用します。

ナレッジベースには、<https://kb.informatica.com> からアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica マニュアル

使用している製品の最新のドキュメントを取得するには、https://kb.informatica.com/_layouts/ProductDocumentation/Page/ProductDocumentSearch.aspx にある Informatica ナレッジベースを参照してください。

このマニュアルに関する質問、コメント、ご意見の電子メールの送付先は、Informatica マニュアルチーム (info_documentation@informatica.com) です。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス (PAM) には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica Network メンバである場合は、PAM (<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices>) にアクセスできます。

Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスによって開発されたヒントおよびベストプラクティスのコレクションです。数多くのデータ管理プロジェクトの経験から開発された Informatica Velocity には、世界中の組織と協力して優れたデータ管理ソリューションの計画、開発、展開、および維持を行ってきた弊社コンサルタントの知識が集約されています。

Informatica Network メンバである場合は、Informatica Velocity リソース (<http://velocity.informatica.com>) にアクセスできます。

Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を強化したり拡張したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Informatica の開発者およびパートナーの何百ものソリューションを利用して、プロジェクトで実装にかかる時間を短縮したり、生産性を向上させたりできます。Informatica Marketplace には、<https://marketplace.informatica.com> からアクセスできます。

Informatica グローバルカスタマサポート

Informatica Network の電話またはオンラインサポートからグローバルカスタマサポートに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<http://www.informatica.com/us/services-and-training/support-services/global-support-centers>) を参照してください。

Informatica Network メンバである場合は、オンラインサポート (<http://network.informatica.com>) を使用できます。

パート I: バージョン 10.2

この部には、以下の章があります。

- [新機能と変更 \(10.2 HotFix 2\) , 14 ページ](#)
- [新機能と変更 \(10.2 HotFix 1\) , 18 ページ](#)
- [新機能と変更点 \(10.2\) , 24 ページ](#)

第 1 章

新機能と変更（10.2 HotFix 2）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.2 HF2）, 14 ページ](#)
- [変更内容（10.2 HotFix 2）, 17 ページ](#)

新機能（10.2 HF2）

Oracle WebLogic Server 12.2.1.3 のサポート

Oracle WebLogic Server 12.2.1.3 に MDM Multidomain Edition をデプロイできます。

Oracle WebLogic T3S プロトコルのサポート

WebLogic と MDM Multidomain Edition 間の通信には、Oracle WebLogic T3S プロトコルを使用できます。

WebLogic T3S の設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.2 HotFix 2 Security Guide*』を参照してください。

プロセスサーバーのプロパティ

次の Process サーバードプロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

cmxcleanse.properties ファイルの Process サーバードプロパティを設定します。

cmx.server.stripDML.useDeleteInsertLock

ベースオブジェクトに多数のレコードがある場合に、一致ジョブまたはトークン化 API 呼び出しの一部としてトークン化を実行します。

cmx.server.load.nonsmos.sourcesystem.enddate.like.smos

状態管理オーバーライドシステム（SMOS）ではないシステムのリレーション終了日を SMOS と同じ日に設定します。

Hub サーバードプロパティの設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 2 設定ガイド*』を参照してください。

Hub サーバーのプロパティ

次の Hub サーバープロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

cmxserver.properties ファイルの Hub サーバープロパティを設定します。

cmx.server.selective.bvt.enabled

デフォルトでは、Put または Cleanse Put 呼び出しは、SIF 要求で指定されたフィールドのみを更新するのではなく、レコード内のすべてのフィールドに BVT 計算を適用します。MDM Hub が SIF 要求の一部であるフィールドにのみ BVT 計算を適用するように指定するには、このプロパティを true に設定します。デフォルトは false です。

com.informatica.mdm.message.queue.max.bytes.threshold

メッセージキューに送信されるメッセージの上限を作成できます。メッセージキューに送信されるメッセージの最大サイズをバイト単位で指定するには、このプロパティを設定します。メッセージが指定されたサイズを超えた場合、メッセージは送信されず、メッセージのステータスは [失敗] に設定されます。

cmx.server.load.nonsmos.sourcesystem.enddate.like.smos

状態管理オーバーライドシステム (SMOS) ではないシステムのリレーション終了日を SMOS と同じ日に設定します。

cmx.server.override_orstitle

Informatica Data Director (IDD) にログインすると、現在のユーザーのタスクがあるすべてのサブジェクト領域の長いタイトルがダッシュボードに表示されます。IDD にログインするときに優先するデフォルトのタイトルを表示するには、cmxserver.properties ファイルで cmx.server.override_orstitle プロパティを優先するタイトルに設定します。

例えば、プロパティを [すべてのサブジェクト領域] に設定した場合、画面上のタイトルは **【すべてのサブジェクト領域のタスク】** として表示されます。

cmx.server.task.grouppotentialmergebyruleid

複数の一致が生成される手動一致タスクで同じ ROWID を持つ複数のタスクエントリを作成するかどうかを指定します。プロパティを false に設定すると、一致エントリごとに 1 つのタスクを作成できます。

cmx.web.console.session.download.timeout

ユーザー認証後に Hub コンソールを起動できる時間を分単位で指定します。デフォルトは 5 です。Hub コンソールが必要とする Java ネットワーク起動プロトコル (JNLP) リソースは、指定時間内にダウンロードする必要があります。指定時間内での JNLP リソースのダウンロードに失敗した場合は、ユーザーは JNLP リソースのダウンロードを再認証する必要があります。

Hub サーバープロパティの設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 2 設定ガイド*』を参照してください。

Hub サーバーとプロセスサーバーのグループ化

Java 仮想マシン (JVM) をグループ化することにより、Hub サーバーとプロセスサーバーの論理グループを作成できます。Hub サーバーとプロセスサーバーのアプリケーションを JVM グループにデプロイすると、アプリケーション間の通信はすべてグループ内にとどまります。JVM をグループ化するには、MDM Hub 環境の各 JVM にグループ ID を割り当てます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.2 HotFix 2 Installation Guide*』を参照してください。

グローバルプロパティ

次のグローバルプロパティを使用して Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を制御することができます。

`deleteMovedRelInExplorerView`

階層マネージャのエクスプローラビューで新しいリレーションを作成するときに古いリレーションを削除するかどうかを決定します。リレーションに終了日を指定するには、`false` に設定します。

`enableSaveForPeriodDialogForHmRel`

IDD で階層マネージャが有効なレコードを更新するときに表示される有効期間のダイアログボックスを有効にします。有効期間のダイアログボックスを無効にするには、`false` に設定します。

`enableTaskAttachments`

従来のビューと Informatica BPM (ActiveVOS) サブジェクト領域ワークフローを Data Director で使用する場合に、ユーザーがタスクにファイルを添付できるかどうかを指定します。`true` に設定すると、添付ファイルが有効になり、**【タスクの詳細】** ダイアログボックスおよび **【タスクの作成】** ダイアログボックスの **【ファイル添付】** セクションが表示されます。

`hideSystemColumnsInResult`

検索結果にシステムカラムを表示するかどうかを指定します。IDD 検索結果でシステムカラムを非表示にするには、`true` に設定します。

`overrideTextAreaColumnOrder`

カラムをサブジェクト領域のテキスト領域として設定すると、テキスト領域カラムはカラムの順序に関係なく常にレイアウトの下部に表示されます。

レイアウト内でテキスト領域のカラムが指定された順序で表示されるようにするには、`false` に設定します。サブジェクト領域のテキスト領域のカラムがカラムの順序に関係なくレイアウトの下部に表示されるようにするには、`true` に設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 2 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

保存ハンドラのユーザーイグジットの機能拡張

保存ハンドラのユーザーイグジットでは、`getChangedChildren` メソッドを使用して、指定したベースオブジェクト内の変更または追加された子レコードまたは孫レコードを返すことができます。

ユーザーイグジットは、追加、削除、または更新されたすべてのレコードを返します。ユーザーイグジットによって返される変更のタイプを選択できます。例えば、削除された子レコードと更新された子レコードの組み合わせを返すようにユーザーイグジットに要求することができます。

日付形式の機能拡張

エンティティ 360 フレームワークでは、カレンダーで使用するデフォルトの日付形式を変更できます。

デフォルトの日付形式を変更するには、テキストエディタを使用して、プロパティ `DATE_TIME_LONG_FORMAT` を含む `bundleE360.properties` ファイルを作成します。次に、`bundleE360.properties` ファイルを以下の場所に追加します。

```
<distribution directory>\hub\server\resources\entityE360
```

注: 存在しない場合は、`entityE360` ディレクトリを作成します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 2 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

【開始】 ワークスペースの拡張

タスクの優先順位を付けるために、【開始】 ワークスペースには、タスクが作成された日付を表示する【作成日】 カラムがあります。【開始】 ワークスペースには、タスクの現在の所有者を表示する【所有者】 カラムもあります。

設定自動化ツールの機能拡張

MDM Hub マスタデータベース内の 1 人のユーザーを削除し、LDAP サーバー内の 1 人のユーザーを MDM Hub ロールと同期させることができます。

次のプロパティを使用して、ユーザー管理を自動化できます。

プロパティ	説明
MDM.new.user.email<n>	作成するユーザーの電子メールアドレス。
LDAP.attribute_name.for.user.email	ユーザーの電子メールアドレスを LDAP サーバーからオペレーショナルリファレンスストアに同期します。
LDAP.attribute_name.for.username	共通名またはユーザー ID 以外の属性を LDAP サーバーからオペレーショナルリファレンスストアに同期します。
LDAP.strip_slashes_from_usernames	Boyd\などのユーザー名からスラッシュを削除して、同期プロセスを動作させます。
LDAP.cleanup.before.sync	ユーザーをロールと同期する前に、オペレーショナルリファレンスストアに割り当てられているユーザーを削除します。

変更内容（10.2 HotFix 2）

ユーザーイグジットの機能拡張

バージョン 10.2 HotFix 2 では、階層マネージャのユーザーイグジットで有効期間を設定できます。

以前は、保存ハンドラのユーザーイグジットでのみ有効期間を設定できました。

Hub 状態インジケータが PUT 可能でない

バージョン 10.1 HF2 では、システムカラム HUB_STATE_IND を PUT 可能として設定することはできません。この変更は、そのリリースで発表されませんでした。

『*Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.2 HF2 Configuration Guide*』では、プロパティ Putable の例外の一覧が HUB_STATE_IND を含むように更新されています。

第 2 章

新機能と変更（10.2 HotFix 1）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.2 HF1）, 18 ページ](#)
- [変更（10.2 HotFix 1）, 22 ページ](#)

新機能（10.2 HF1）

履歴ビューの改良点

次のレコードフィールドの追加により、履歴ビューのユーザビリティが向上しました。

最終更新日

レコードが最後に更新された日付が表示されます。

更新者

レコードを更新したユーザーの名前が表示されます。

また、履歴ビューの変更の詳細には、変更を行ったユーザーの姓と名が含まれます。

以前は、Hub コンソールで設定されたユーザー名のみが変更の詳細に表示されていました。変更の詳細にわかりやすい名前を表示するには、Hub コンソールを起動し、ユーザー定義を更新して姓と名を含めます。

ユーザーの設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

ビジネスエンティティへのアクセスの制限

プロビジョニングツールでは、Entity 360 フレームワーク内のすべてのユーザーに対して表示されないビジネスエンティティを含むように、IDD アプリケーションを設定できます。セキュリティ上の理由から特定のビジネスエンティティを非表示にする場合は、IDD アプリケーションでビジネスエンティティを設定するときに、**[表示可能]** チェックボックスをオフにします。

以前は、IDD アプリケーションのすべてのビジネスエンティティが Entity 360 フレームワーク内のすべてのユーザーに表示されていました。

IDD アプリケーションの設定に関する詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

外部キーカラムへのデータの取り込み

ビジネスエンティティの外部キーカラムでは、関連するビジネスエンティティの一覧から関連するビジネスエンティティを参照および選択できます。選択したビジネスエンティティは検索可能である必要があります。

以前は、外部キーカラムにビジネスエンティティの ROWID を手動で入力する必要がありました。

また、ビジネスエンティティスキーマを生成すると、プロビジョニングツールによって、ビジネスエンティティルックアップフィールドが生成されます。

ルックアップに関する詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

SearchQuery 要求のパフォーマンス最適化

SearchQuery 要求は、保留中のデータ変更を含む結果を基本オブジェクトに返すことができます。

以前は、基本オブジェクトに保留中の変更が含まれている場合に、クエリ結果がタイムアウトしました。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 サービス統合フレームワークガイド*』を参照してください。

バッチグループのジョブ履歴

Hub コンソールの [バッチグループ] ツールでは、バッチグループジョブログに対して処理する履歴の日数を指定できます。デフォルトでは、バッチジョブのログはすべての履歴を考慮しますが、考慮する日数を減らすことができます。

バッチグループジョブログに対して処理する履歴の日数を指定するには、cmxserver.properties ファイルに cmx.server.jobControl.noOfDays プロパティを設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

メッセージキューのポーリングの無効化

マルチノード環境では、個々のノードに対してメッセージキューのポーリングを無効にできます。メッセージキューのポーリングを無効にするには、cmxserver.properties ファイルと cmxcleanse.properties ファイル内で、mq.data.change.monitor.thread.start プロパティを false に設定します。

DEBUG モードでは、メッセージキューのポーリングの操作を確認できます。

- mq.data.change.monitor.thread.start の値が false であるノードでは、メッセージ **Monitoring is disabled** がログに表示されます。
- mq.data.change.monitor.thread.start の値が true であるノードでは、メッセージ **Data changes monitoring started** がログに表示されます。

デフォルトでは、メッセージキューのポーリングは、MDM Hub EAR ファイルがデプロイされているすべての Java 仮想マシン上で有効になっています。データ変更の監視とメッセージのパブリッシュに複数のポーラースレッドを使用していると、メッセージが正しい順序でパブリッシュされない場合があります。メッセージのパブリッシュ順序を制御するには、単一のポーラースレッドを使用します。

グローバルプロパティ

次のグローバルプロパティを使用して Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を制御することができます。

bulkexportloadsize

Microsoft Excel ファイルにデータをエクスポートするときの、各スレッドのロードの最大レコード数を設定します。

exportusingmultithread

Microsoft Excel ファイルにデータをエクスポートするためのマルチスレッドを有効にします。

CompositePagerTotalRecords

Informatica Data Director がソートする ActiveVOS タスクの最大数。デフォルトでは、Informatica Data Director は、大文字小文字を区別しない ActiveVOS タスクをソートします。ソート対象が CompositePagerTotalRecords の値よりも多い場合、大文字小文字を区別するソートはデータベース依存です。データベースが Microsoft SQL Server である場合、ソートは大文字小文字を区別しません。データベースが Oracle または IBM DB2 の場合、ソートは大文字小文字を区別します。

convert2DigitYearTo4Digit

2 桁の年のエントリを 4 桁の年のエントリに調整できるようにします。

enableCreateBEMenuGrouping

ビジネスエンティティの【作成】メニューのサブジェクト領域に基づいて論理グループを定義できるかどうかを指定します。このプロパティは、多数のサブジェクト領域がある場合に必要です。

expandDropDownListShowFullValue

ルックアップレコードの【検索】タブでドロップダウンリストを展開できるようにします。

qrytaskidfromprocessidtotalretry

Informatica Data Director が ActiveVOS タスクの再ロードを試行する回数。

qrytaskidfromprocessidwaitintrvlmillis

Informatica Data Director が ActiveVOS タスクの再ロードを試行するまでに待機するミリ秒数。

proactiveMatchResultSort

一致候補が Informatica Data Director アプリケーションに表示されるソート順を設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

MDM サポートツール

MDM サポートツールは、Hub コンソールのツールのコレクションです。このツールを使用して、設定情報の収集、ユーザー設定の追跡、問題のレプリケート、システムのヘルスチェックの実行、および一致のシミュレートを行います。

MDM サポートツールには、次のツールが含まれています。

Configuration Support Manager (CSM) ツール

Configuration Support Manager (CSM) ツールを使用すると、CSM レポートを生成できます。レポートは、Hub サーバー、プロセスサーバー、およびデータベースサーバーから設定情報を収集し、問題のトラブルシューティングに役立ちます。

ユーザー移行ツール

ユーザー移行ツールを使用すると、複数の MDM Hub ユーザーアカウントを作成または更新できます。また、ユーザーアカウントとユーザーのロールへの割り当てを、MDM Hub 環境間で移行することもできます。

照合分析ツール

照合分析ツールは、MDM Hub のトークン化に関連する問題を評価します。このツールは、MDM Hub 環境のヘルスチェックも提供します。

照合シミュレーターツール

照合シミュレーターツールは、MDM Hub の一致不足および一致過多シナリオをテストします。このツールを使用すると、照合問題のトラブルシューティングに関係する手作業が軽減されます。

MDM Support ツールの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 リソースキットガイド*』を参照してください。

バッチマージ解除ジョブのパフォーマンスの最適化

マージ解除バッチジョブ時に、MDM Hub は子の外部キーレコードの BVT 計算を制限することによって、バッチジョブのパフォーマンスを最適化します。

以前は、大量の相互参照レコードと複数の子レコードを持つ基本オブジェクトのマージ解除バッチジョブにより、メモリ不足エラーメッセージが出されて失敗することがありました。

検索結果から 1 つのレコードをエクスポートするオプション

Informatica Data Director の検索結果ページから 1 つのレコードのみをエクスポートできるようにロールの特権を設定できます。

低レベルのユーザーが一度に 1 つのレコードのみをエクスポートするように制限すると、データセット全体が不注意でエクスポートされるのを防ぐことができます。1 つのレコードのエクスポートに特権を制限するには、Hub コンソールの [セキュリティアクセスマネージャ] の [ロール] ツールを使用します。選択したロールに対して特権 EXPORT_PROFILE/ExecuteSingleRow を有効にします。

以前は、選択した行とすべての行のいずれかのエクスポートを許可するようにロールの特権を設定できました。

ロールとユーザーの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

ビジネスエンティティサービスの改良点

次のビジネスエンティティサービスが追加され、保留中のマージタスクの管理に役立てることができます。

PendingMerge

BPM ワークフローで保留中のマージタスクを作成します。保留中のマージタスクから _MTCH レコードを追加または削除します。保留中のマージタスクを更新するために使用します。

PromoteMerge

BPM ワークフローのタスクデータに基づいて、保留中のマージタスクを昇格させます。特定のインタラクション ID のすべての保留中のマージタスクを検索するために使用します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

レガシー XML JMS メッセージのメッセージ ID

レガシー XML 形式の JMS メッセージには、MESSAGE_ID 属性が含まれています。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

WebSphere アプリケーションサーバー V8.5.5 Fix Pack 11 のサポート

WebSphere アプリケーションサーバー V8.5.5 Fix Pack 11 に MDM Multidomain Edition をデプロイできます。

Informatica AddressDoctor バージョン 5.10

Informatica MDM Multidomain Edition は Informatica AddressDoctor バージョン 5.10 をサポートしています。

インターネットプロトコルバージョン 6

Informatica MDM Multidomain Edition はインターネットプロトコルバージョン 6 (IPv6) をサポートしています。

変更 (10.2 HotFix 1)

プロキシロール

バージョン 10.2 HotFix 1 から、作成するオペレーショナルリファレンスストアには、プロキシロールが含まれます。

以前は、プロキシロールは廃止されていました。要求に応じて、プロキシロールは使用が再開されました。

リソースキットから削除された Jaspersoft

バージョン 10.2 HotFix 1 から、Jaspersoft は、MDM Multidomain Edition リソースキットには含まれていません。

ダッシュボードを Informatica Data Director に統合することを希望するお客様は、企業の最適なビジネスインテリジェンスツールを使用するか、Highcharts や他のチャートツールを使用することをお勧めします。iFrame に埋め込むことができるレポートであれば、Informatica Data Director のスタートページまたはエンティティ 360 ページに埋め込むことができます。

[NULL の更新を許可する] プロパティ

バージョン 10.2 HotFix 1 では、ベストバージョンオプトルースを計算するすべてのプロセスが同じ方法で NULL 値を処理します。以前は、プロセスによっては、ステージングテーブルの **[NULL の更新を許可する]**

プロパティを無視して、ベースオブジェクトテーブルの【NULL 値を適用する】プロパティを使用するものがありました。

ソースシステムがカラムに NULL 値を提供すると、プロセスは、ステージングテーブルにあるそのカラムの【NULL の更新を許可する】プロパティの設定を参照します。

- カラムで【NULL の更新を許可する】プロパティが有効の場合、プロセスは、ベースオブジェクトレコードに NULL 値を書き込むことができます。
- カラムで【NULL の更新を許可する】プロパティが無効の場合、プロセスは、NULL 値の信頼をダウングレードします。
- ステージングテーブルの【NULL の更新を許可する】プロパティの設定を解決できない場合、プロセスは、ベースオブジェクトテーブルの【NULL 値を適用する】プロパティの設定を使用します。

【NULL の更新を許可する】プロパティの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

BeMDMWorkflow ActiveVOS プロジェクト

バージョン 10.2 HotFix 1 から、リソースキットの BeMDMWorkflow プロジェクトは、タスクインボックスのフィルタリングに関する問題を解決するために変更されました。

以前は、リソースキットの BeMDMWorkflow プロジェクトによって、タスクインボックスのフィルタリングに問題が発生しました。

以前のバージョンからアップグレードする場合は、アップグレード後に BeMDMWorkflow プロジェクトを再デプロイします。ワークフローをカスタマイズした場合は、ActiveVOS Designer を使用して、cs.wsdl ファイルの TaskFilter 複合型内に次のコードを追加します。

```
<xsd:element minOccurs="0" name="overdueOnly" type="xsd:boolean" />
```

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.2 HotFix 1 アップグレードガイド*』を参照してください。

プロセスサーバーの廃止されたプロパティ

バージョン 10.2 HotFix 1 では、プロセスサーバーの次のプロパティが廃止されています。

廃止されたプロパティ	バージョン 10.2 HotFix 1 の動作の変更点
com.informatica.mdm.overrideNullable	ソースシステムが NULL 値を提供した場合、最も信頼できる値をプロセスが計算する方法を上書きできません。NULL 値を処理する際にプロセスが使用する方法が変更されました。詳細については、 「【NULL の更新を許可する】プロパティ」 (ページ 22) を参照してください。
com.informatica.mdm.promoteNullable	カラムに NULL 値を提供するソースシステムが複数のステージングテーブルを持っている場合、プロセスは、すべてのステージングテーブルの【NULL の更新を許可する】プロパティを無視します。代わりにプロセスは、ベースオブジェクトレコードの【NULL 値を適用する】プロパティの設定を使用します。

アップグレード後に、廃止されたプロパティがプロパティファイルに残っていても無視されます。廃止されたプロパティは、ファイルから削除しても問題ありません。

第 3 章

新機能と変更点（10.2）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.2）, 24 ページ](#)
- [変更点（10.2）, 31 ページ](#)

新機能（10.2）

Informatica Data Director の Hub サーバーのプロパティ

cmxserver.properties ファイルに次のプロパティを追加して、Informatica Data Director を設定できます。

cmx.e360.match_xref.view.enabled

エンティティ 360 フレームワークの [一致するレコード] ビューと [相互参照] ビューを表示するかどうかを決定します。true の場合は、エンティティ 360 フレームワークのビューが表示されます。false の場合は、従来のビューが表示されます。インストール時のデフォルトは、true です。既存のソフトウェアのアップグレード時のデフォルトは、false です。

注: エンティティ 360 フレームワークの [相互参照] ビューでは、ツリーマージ解除がサポートされます。線形マージ解除のサポートが必要な場合は、引き続き従来の [相互参照] ビューを使用してください。

パスワードのハッシュ化

MDM Hub は、パスワードのハッシュ化方式を使用して、ユーザーのパスワードを保護します。MDM Hub マスタデータベースには、ユーザーのパスワードがハッシュ化された形式で保存されています。MDM Hub へのログイン時、ユーザーの要求は暗号化されますが、これには、パブリックキーとプライベートキーのペアが利用されます。ユーザーを認証する際、MDM Hub は、ユーザーの要求を復号化し、その値とマスタデータベースから取得したハッシュ値とを比較します。

ハッシュアルゴリズムでは、パスワード文字列とランダムに生成された複数の値が連結されます。パスワードのハッシュ化に使用されるデフォルトのアルゴリズムは、SHA3 です。ただし、カスタムハッシュアルゴリズムを設定することもできます。ハッシュ実装クラスは、MDM Hub のインストール時に設定します。cmxserver.properties ファイルの Hub サーバーのプロパティを通じて設定することもできます。

MDM Hub では、パスワードのハッシュ化が Blowfish 暗号化に代わって使用されています。

パスワードのハッシュ化の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 セキュリティガイド*』および『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 設定ガイド*』を参照してください。

セキュリティ設定ユーティリティ

セキュリティ設定ユーティリティでは、MDM Hub 実装のセキュリティ設定のいくつかを管理できます。このユーティリティを使用すると、MDM Hub ユーザーのパスワードをリセットしたり、MDM Hub で使用されるハッシュアルゴリズムを変更したり、証明書プロバイダを変更したりできます。また、ハッシュアルゴリズムの作成に使用されるお客様のハッシュキーを更新することもできます。

セキュリティ設定ユーティリティを入手するには、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

プロビジョニングツールでの機能拡張

プロビジョニングツールのユーザーインターフェースが改良され、より使いやすくなりました。このユーザーインターフェースには、複雑な XML 設定に代わって、シンプルなユーザー入力フィールドが組み込まれています。

プロビジョニングツールの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

レイアウトデザイナー

プロビジョニングツールのレイアウトデザイナーを使用すると、Informatica Data Director のスタートページとエンティティビューのレイアウトを設計できます。レイアウトを設計するには、レイアウトデザイナーでレイアウトテンプレートを選択し、レイアウトに必要なコンポーネントをドラッグして編成します。

レイアウトデザイナーの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

DaaS プロバイダコンポーネント

DaaS プロバイダコンポーネントは、ビジネスエンティティに関する情報を外部データサービスで検索する場合に使用します。サービスプロバイダとしてのサードパーティデータとの既存のリレーションが必要です。

Data as a Service プロバイダとの統合

サードパーティデータプロバイダからのデータを使用して、ビジネスエンティティデータを充実および拡張できます。MDM Hub と Data as a Service (DaaS) プロバイダを統合し、信頼性があり、正確かつ完全なデータにアクセスできます。

DaaS プロバイダとの統合を設定するには、プロビジョニングツールを使用します。DaaS プロバイダからのデータを入力する、ビジネスエンティティフィールドを指定できます。

Informatica Data Director で、DaaS プロバイダコンポーネントを使用して、DaaS プロバイダにデータを要求します。レコードを検索し、結果を比較し、ビジネスエンティティレコードに変換してマージするエンティティを選択できます。

DaaS プロバイダとの統合を設定する方法の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

多対多のリレーション

ビジネスエンティティ間で多対多のリレーションを設定するには、プロビジョニングツールを使用します。ビジネスエンティティリレーションに関連付けられた属性をさらに追加することが可能です。

ビジネスエンティティのリレーションを追加、編集、および削除するには、Informatica Data Director の関連レコードコンポーネントを使用します。

多対多のリレーションの設定方法の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.2 プロビジョニングツールガイド』を参照してください。

ビジネスエンティティサービス用の外部コールアウト

ビジネスエンティティデータに対してカスタムロジック、検証、およびトランスフォーメーションを実行するように、ビジネスエンティティサービス用の外部コールアウトを設定できます。ビジネスエンティティサービスの特定のステップ用のコールアウトを設定できます。

外部コールアウトの設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.2 プロビジョニングツールガイド』を参照してください。

[相互参照レコード] ビュー

[相互参照レコード] ビューは、ビジネスエンティティのベストバージョンオブトゥールズを確立する場合に使用します。このビューは、エンティティ 360 フレームワークをベースに作成されています。

データスチュワードは、[相互参照レコード] ビューを使用して、すべての子エンティティを含む、ビジネスエンティティ全体のリネージュを検査できます。また、子レコードのマージ解除もできるようになりました。これにより、データスチュワードは、マスタレコードが確実にベストバージョンオブトゥールズを表すように調整を行うことができます。

MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 をインストールした場合、このビューは、デフォルトで有効になります。以前のバージョンからアップグレードした場合、このビューを有効にするには、`cmx.e360.match_xref.view.enabled` プロパティ（`cmxserver.properties` ファイル内）を `true` に設定します。このビューでは、ツリーマージ解除がサポートされています。線形マージ解除のサポートが必要な場合は、引き続き [IDD XREF] ビューを使用してください。インストール時のこのプロパティのデフォルト設定は、`true` です。既存のソフトウェアのアップグレード時のデフォルト設定は、`false` です。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.2 Informatica Data Director ユーザーガイド』を参照してください。

履歴ビュー

[履歴] ビューは、データに対する変更を時系列順に確認する場合に使用します。このビューは、エンティティ 360 フレームワークをベースに作成されています。

[履歴] ビューには、ビジネスエンティティの存続期間にわたってデータがどのように変化したかが時系列で表示されます。ビジネスエンティティ内に存在した、任意の時点のデータを表示できます。データイベント前後のデータを表示し、イベントによってデータが不適切に変更されていないかどうかを確認します。データイベントとは、編集操作、マージ操作など、ビジネスエンティティのデータを変更する何らかのアクションです。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.2 Informatica Data Director ユーザーガイド』を参照してください。

【一致するレコード】ビュー

【一致するレコード】ビューは、レコードの重複を識別して、解決する場合に使用します。このビューは、エンティティ 360 フレームワークをベースに作成されています。

デフォルトでは、【一致するレコード】ビューには、ターゲットビジネスエンティティのほかに、一致ルールを満たしたビジネスエンティティが含まれます。一致ルールを満たさなかったビジネスエンティティを検索して、ビューに追加することもできます。

類似するビジネスエンティティのルートレコードを比較し、重複していると思われるものを選択します。次に、ビジネスエンティティの子レコードと子孫レコードを比較します。いずれかのレベルで兄弟レコードの重複が見つかった場合は、そのレコードを選択して、マージプロセスに含めることができます。マージプロセスを開始する前に、マージされるビジネスエンティティをプレビューできます。

注: 値を上書きする必要がある場合は、【相互参照レコード】ビューでビジネスエンティティを編集してください。【一致するレコード】ビューでは、上書きを行うことができません。

MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 をインストールした場合、このビューは、デフォルトで有効になります。以前のバージョンからアップグレードした場合、このビューを有効にするには、`cmx.e360.match_xref.view.enabled` プロパティ（`cmxserver.properties` ファイル内）を `true` に設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 Informatica Data Director ユーザーガイド*』を参照してください。

子孫レコードのマージカスケード

ビジネスエンティティモデルを使用する場合は、マージプロセスにより、子レコードと子孫レコードでマージカスケードが実行されます。

- ルートレベルでは、マージプロセスによってビジネスエンティティのルートレコードのデータがマージされます。
- 子レベルで、親対子のリレーションが 1 対 1 のリレーションの場合、マージプロセスによって、兄弟の子レコードがマージされます。マージプロセスで子レコードを処理したら、同じマージストラテジを使用して各レベルの子孫レコードをマージしようと試みます。
- いずれかのレベルで、親対子のリレーションが 1 対多のリレーションの場合は、【一致するレコード】ビューで兄弟レコードを選択して、マージできます。

マージされたビジネスエンティティには、マージされたルートレコード、マージされた兄弟レコード、およびマージされなかったすべての子レコードと子孫レコードが含まれます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 Informatica Data Director ユーザーガイド*』のマージプロセスの説明を参照してください。

タイムラインビュー

【タイムライン】ビューを使用して、一定期間のデータに対する変更を表示します。【タイムライン】ビューは、サブジェクト領域モデルからビジネスエンティティモデルにアップグレードしたお客様のみ使用できます。

【タイムライン】ビューの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 Informatica Data Director ユーザーガイド*』の「有効期間内のデータ変更イベントの調査」を参照してください。

DaaS 用のビジネスエンティティサービス

ビジネスエンティティサービスを使用すると、DaaS プロバイダのデータを要求したり、ビジネスエンティティレコードを作成したりできます。また、ビジネスエンティティデータをインポートしたり、ビジネスエンテ

ィティデータに対する変更を更新したりもできます。ビジネスエンティティデータの読み取り、検索、インポート、および更新を行うには、REST API を使用します。

DaaS 用の REST API の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

リレーション管理用のビジネスエンティティサービス

ビジネスエンティティサービスを使用すると、ビジネスエンティティのリレーションを管理できます。ビジネスエンティティ間のリレーションを作成、読み取り、更新、および削除するには、REST API を使用します。

リレーションを管理する REST API の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

ビジネスエンティティサービスの機能拡張

エンティティ 360 フレームワークをベースにした新しいビューの導入に伴い、ビジネスエンティティサービスは、これらのビューと新しい機能をサポートするように強化されました。

次の表は、ビジネスエンティティサービスで改良された機能をまとめたものです。

ビジネスエンティティサービス	要素および属性	要求	応答
MergeBE	<ul style="list-style-type: none">- MERGE 要素- contentMetadata=MERGE- contentMetadata=BVT	<ul style="list-style-type: none">- 子孫レコードがマージする方法を制御する- 子孫レコードをマージする方法を指定する- マージで優先するレコードを指定する	
PreviewMergeBE	<ul style="list-style-type: none">- contentMetadata=[MERGE BVT]- MERGE 要素	<ul style="list-style-type: none">- 子孫レコードをいつ照合するかを制御する	
ReadBE	<ul style="list-style-type: none">- contentMetadata=BVT- historyDate	<ul style="list-style-type: none">- マージで優先するレコードを指定する- 履歴データを取得する日付を指定する	<ul style="list-style-type: none">- 指定した日付のビジネスエンティティデータ
WriteBE	<ul style="list-style-type: none">- MATCH 要素- MERGE 要素	<ul style="list-style-type: none">- 子孫レコードをいつ照合するかを制御する- 子孫レコードをいつマージするかを制御する	
GetRelated	<ul style="list-style-type: none">- entityLabel- relationshipLabel- entityType- relationshipType	<ul style="list-style-type: none">- エンティティラベルでフィルタ- リレーションラベルでフィルタ- エンティティのカンマ区切りリストでフィルタ- リレーションのカンマ区切りリストでフィルタ	<ul style="list-style-type: none">- 設定したリレーションと適用したフィルタに基づく、指定されたルートレコードの関連レコードのリスト

ビジネスエンティティサービス	要素および属性	要求	応答
ListHistoryEvents	<ul style="list-style-type: none"> - historyPeriod - granularity 	<ul style="list-style-type: none"> - データを取得する日付範囲を指定する - グループ履歴の詳細レベルを指定する 	<ul style="list-style-type: none"> - 指定した日付のビジネスエンティティデータ - 履歴イベントのグループ
GetHistoryEventDetails	<ul style="list-style-type: none"> - eventID 	<ul style="list-style-type: none"> - 履歴イベントの ID を指定する 	<ul style="list-style-type: none"> - 履歴イベントの詳細

BVT バージョンの抽出

ベストバージョンオブトゥールズは、タイムラインが有効なベースオブジェクトの有効期間の範囲で取得できます。MDM Hub コンソールのバッチビューアツールで「BVT バージョンの抽出」バッチジョブを実行するか、または executeBatchExtractBVTVersions SIF API を実行します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Configuration Guide*』を参照してください。

未処理インデックスインジケータ

検索可能なフィールドのプロパティを更新すると、一部のインデックスが古くなり、未処理になる場合があります。「スマート検索データの初期インデックス処理」バッチジョブを実行すると、古くなったインデックスをクリーンアップできます。ノードで再インデックスが必要になると、MDM Hub コンソールのバッチビューアツールに、子ビジネスエンティティノードへの警告アイコンが表示されます。

警告アイコンの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Configuration Guide*』を参照してください。

検索結果のソート

[ビジネスエンティティの検索] REST Web サービスを使用すると、検索結果を複数のフィールドで昇順または降順にソートできます。

[ビジネスエンティティの検索] REST Web サービスの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

WebSphere アプリケーションサーバー V8.5.5 Fix Pack 8 のサポート

WebSphere アプリケーションサーバー V8.5.5 Fix Pack 8 に MDM Multidomain Edition をデプロイできます。

Oracle GoldenGate 12 のサポート

Oracle GoldenGate バージョン 12.1.2.1 は、MDM Multidomain Edition とともに使用します。

Oracle 環境があって、9.0.1 または 9.1.0 からより新しいバージョンの MDM Multidomain Edition にアップグレードする場合は、Oracle GoldenGate ソフトウェアを更新する必要があります。詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 7 Zero Downtime を使用したアップグレードガイド*』を参照してください。

ActiveVOS データベース接続の詳細

埋め込み ActiveVOS をインストールまたはアップグレードするときに、ActiveVOS^(R)データベース接続が検証されます。

MDM Multidomain Edition のインストールまたはアップグレード中に、埋め込み ActiveVOS をインストールまたはアップグレードすると、ActiveVOS データベース接続の情報が build.properties ファイルに保存されます。

IBM DB2 環境では、アップグレード前に、ActiveVOS データベース接続プロパティを <MDM Hub installation directory> MDM Hub のインストールディレクトリ >/hub/server/bin の build.properties ファイルに追加します。

次のサンプルは、サンプルエントリが含まれる ActiveVOS データベース接続プロパティを示しています。

```
activevos.db.type=db2
activevos.db.server=localhost
activevos.db.port=50000
activevos.db.user=AVOS
activevos.db.dbname=INFA102
activevos.db.schemaname=AVOS
activevos.db.jdbc.url=jdbc:db2://localhost:50000/INFA102
activevos.b4p.url=http://localhost:9080/active-bpel/services/AeB4PTaskClient-taskOperations
```

リソースキット

BESExternalCall フォルダには、ビジネスエンティティサービスのカスタムロジックと検証を実装するためのサンプル Java コードが含まれています。ビジネスエンティティ実行ロジックの特定のステップ用の外部コールアウトを設定することが可能です。外部コールアウトを使用するには、bes-external-call.ear ファイルを作成して、アプリケーションサーバーにデプロイする必要があります。

BESExternalCall フォルダには、サンプルの custom-logic-service.wsdl ファイルが含まれています。このファイルには、外部コールアウト用の XML スキーマ定義 (XSD) が記述されています。外部サービス、操作、メソッドと、サービスメソッドが交換するデータ型を理解するには、WSDL ファイルを使用します。BESExternalCall フォルダ内にある Ant のビルドファイル (build.xml) を使用して、bes-external-call.ear ファイルを作成します。

外部 Web サービスの設定とデプロイの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition プロビジョニングツールガイド*』および『*Informatica MDM Multidomain Edition ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

マニュアル

この節では、バージョン 10.2 の MDM Multidomain Edition ドキュメントセットの重要な変更点について説明します。

Informatica MDM Multidomain Edition インフラストラクチャ計画ガイド-新規

『*Informatica MDM Multidomain Edition インフラストラクチャ計画ガイド*』には、MDM Hub 環境のインフラストラクチャとアーキテクチャの計画に必要な情報が記載されています。また、インストールポロジの理解と決定に役立つ、インストールポロジの例も記載されています。このガイドの対象読者は、インフラストラクチャの計画者、マスタデータ管理ソリューションの設計者、およびビジネスマネージャです。

Informatica MDM Multidomain Edition Informatica Data Director ユーザーガイド-再構成

このガイドには、次の 2 つのバージョンがあります。

- 新規のお客様向けの『*Informatica MDM Multidomain Edition Informatica Data Director ユーザーガイド*』。このガイドには、エンティティ 360 フレームワークおよびビジネスエンティティデータモデルをベースにしたビューに関する説明が記載されています。

- 製品をアップグレードするお客様向けの『*Informatica MDM Multidomain Edition Informatica Data Director ユーザーガイド (従来のビューの説明を含む)*』。このガイドには、『*Informatica MDM Multidomain Edition Informatica Data Director ユーザーガイド*』のすべての内容に加えて、サブジェクト領域データモデルをベースにした従来の IDD ビューに関する内容が記載されています。

Informatica MDM Multidomain Edition Informatica エンティティ 360 フレームワークガイド-廃止

『*Informatica MDM Multidomain Edition Informatica エンティティ 360 フレームワークガイド*』は廃止されました。このガイドで説明されていた機能に関する情報は、『*Informatica MDM Multidomain Edition プロビジョニングツールガイド*』に記載されています。

Informatica プラットフォームログ

MDM Hub では、Informatica プラットフォームプロセスの設定ログメッセージを保存する `informatica-mdm-platform.log` を生成します。

`informatica-mdm-platform.log` は次のディレクトリにあります。

<MDM Hub installation directory: MDM Hub のインストールディレクトリ>/hub/server/logs

変更点 (10.2)

ライセンスファイル

バージョン 10.2 では、MDM Multidomain Edition のライセンスファイルが更新されました。

注: アップグレードする場合、MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 のソフトウェアを要求するときに、最新のライセンスファイルを要求してください。

MDM Hub ユーザーの電子メールアドレス

バージョン 10.2 では、MDM Hub ユーザーは、有効な電子メールアドレスを指定する必要があります。以前は、電子メールアドレスの指定は任意でした。

注: アップグレードを行う場合は、以前 Hub コンソールで作成したユーザーに有効な電子メールアドレスが関連付けられていることを確認してください。

ユーザーの補足情報を編集する方法の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 セキュリティガイド*』を参照してください。

ソースシステムキーの保持

バージョン 10.2 では、ソースシステムキーを保持するオプションが有効な場合、初期データロードと次回以降のすべてのデータロードでソースシステムキーが保持されます。

以前は、ソースシステムキーを保持するオプションが有効な場合、初期データロードのみでソースシステムキーが保持されていました。

メタデータキャッシュ

バージョン 10.2 では、MDM Hub は、Infinispan を使用してメタデータキャッシュを実行します。

以前は、MDM Hub は、JBoss Cache を使用してメタデータキャッシュを実行していました。

レイアウトエディタ

バージョン 10.2 では、プロビジョニングツールのレイアウトエディタが、レイアウトデザイナーに置き換えられています。

レイアウトデザイナーの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

マージ解除

バージョン 10.2 では、タスクをトリガするようにロールを設定し、同じロールでそのタスクを処理するように設定すると、エラーが発生し、タスクが処理されません。

マージタスク

バージョン 10.2 から、新しい [一致するレコード] ビューは、ビジネスエンティティベースを使用するマージタスクを処理するために使用できます。

サブジェクト領域ベースの ActiveVOS ワークフローアダプタを使用する場合は、レガシーの [一致] ビューとレガシーの [XREF] ビューを使用します。これらのレガシービューを使用してタスクを作成するには、`cmx.e360.match_xref.view.enabled` を `false` に設定します。バージョン 10.2 にアップグレードすると、`cmx.e360.match_xref.view.enabled` はデフォルトで `false` になります。

バージョン 10.2 より前に作成されたすべてのマージタスクは、`cmx.e360.match_xref.view.enabled` 設定に関係なく、レガシーの [一致] ビューで開きます。エンティティ 360 フレームワークを有効にすると、バージョン 10.2 で作成されたマージタスクは、エンティティ 360 フレームワークの [一致するレコード] ビューで開きます。

バージョン 10.2 より前に作成されたすべてのマージタスクは、レガシーの [一致] ビューで開きます。エンティティ 360 フレームワークを有効にすると、バージョン 10.2 で作成されたマージタスクは、エンティティ 360 フレームワークの [一致するレコード] ビューで開きます。

トランスフォーメーション

バージョン 10.2 では、ビジネスエンティティのデータをクレンジング、標準化、検証するようにプラットフォームトランスフォーメーションを設定できません。

以前は、ビジネスエンティティのデータをクレンジング、標準化、検証するようにプラットフォームトランスフォーメーションを設定できました。

以前のバージョンからアップグレードする場合、設定済みのプラットフォームトランスフォーメーションを使用するには、MDM Hub コンソールのクレンジング関数ツールで、IDQ ライブラリを追加します。これにより、プラットフォームトランスフォーメーションの代わりに、ライブラリ内のクレンジング関数を使用できます。IDQ ライブラリ内のクレンジング関数は、プラットフォームトランスフォーメーションに関連付けられた Web サービスを呼び出すことができます。

リソースキット

バージョン 10.2 では、カスタム Web サービスおよびワークフローを簡単に作成できるように、リソースキット内に次のファイルが追加されています。

- `informatica-bpm-adapter.jar` ファイルおよび `siperian-server-pkiutil.jar` ファイル。追加の `SiperianClient` ライブラリクラスです。これらのファイルを使用して、MDM Hub と対話するカスタム Web サービスを作成できます。
- `avossdk.zip` ファイル。このファイルには、ActiveVOS Orchestration プロジェクトと関連ライブラリが含まれています。MDM Hub のワークフローを作成する場合は、Orchestration プロジェクトを ActiveVOS Designer にインポートします。これにより、カスタムワークフローを実装できる、テンプレートワークフロープロジェクトが作成されます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.2 リソースキットガイド*』を参照してください。

保留状態のビジネスエンティティ

バージョン 10.2 では、スマート検索を実行すると、その結果に保留状態のレコードを持つビジネスエンティティが含まれます。保留状態とは、以前行われた変更に対する確認と承認プロセスが進行中であることを意味します。

IDD の検索結果では、ビジネスエンティティに保留中の変更がある場合は、その [説明] フィールドに [保留中] というプレフィックスが付いています。保留中のビジネスエンティティをビューで開くと、そのビジネスエンティティ名の近くに、保留中を示すアイコンが表示されます。保留状態のビジネスエンティティを更新することはできません。

iPad および iPhone 用の MDM アプリの廃止

Informatica MDM Mobile Multidomain Edition for Apple^(R) デバイス (MDM アプリとも呼ばれる) は、廃止されました。デバイスが多様化する中で、お客様やパートナー様がモバイル MDM サイトまたはアプリを容易に作成できるようにするために、Informatica では、HTML5、Angular.js、Bootstrap などの最新の Web 標準に準拠した、応答性の良いインターフェースを開発しています。

ビジネスエンティティスキーマの生成

バージョン 10.2 では、プロビジョニングツールの [パブリッシュ] ボタンをクリックすると、ビジネスエンティティスキーマが生成されます。

以前は、[BES の生成] ボタンをクリックしてビジネスエンティティスキーマを生成してから、[パブリッシュ] ボタンをクリックする必要がありました。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

プロキシロール

プロキシロールは、バージョン 10.2 ではサポートされていません。プロキシロールは、プロキシユーザーを設定するために使用できる定義済みのロールです。プロキシロールには読み取り特権と実行特権があります。これらの特権は変更できません。

プロキシロールが必要な場合は、10.2 EBF 2 または 3 を適用するか、10.2 HotFix 1 にアップグレードする必要があります。

パート II: バージョン 10.1

この部には、以下の章があります。

- [新機能と改良点 \(10.1 HotFix 5\) , 35 ページ](#)
- [新機能と変更 \(10.1 HotFix 4\) , 39 ページ](#)
- [新機能と変更 \(10.1 HotFix 3\) , 41 ページ](#)
- [新機能と変更 \(10.1 HotFix 2\) , 44 ページ](#)
- [新機能と変更 \(10.1 HotFix 1\) , 47 ページ](#)
- [新機能と変更点 \(10.1\) , 51 ページ](#)

第 4 章

新機能と改良点（10.1 HotFix 5）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.1 HotFix 5）, 35 ページ](#)
- [変更内容（10.1 HotFix 5）, 37 ページ](#)

新機能（10.1 HotFix 5）

ここでは、バージョン 10.1 HotFix 5 の新しい機能について説明します。

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

Hub サーバーとプロセスサーバーのグループ化

Hub サーバーとプロセスサーバーの論理グループを設定できます。一連の Hub サーバーとプロセスサーバーをまとめてグループ化すると、サーバー間の通信がすべてグループ内にとどまります。Hub サーバーとプロセスサーバーをまとめてグループ化するには、MDM Hub 実装で各 Java 仮想マシンにグループ ID を割り当てます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Installation Guide*』と『*Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Upgrade Guide*』を参照してください。

Informatica ActiveVOS バージョン 9.2.4.3

Informatica MDM バージョン 10.0.0 HotFix 5 では、Informatica ActiveVOS バージョン 9.2.4.3 がサポートされています。

Hub サーバーのプロパティ

次の Hub サーバープロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

cmxserver.properties ファイルの Hub サーバープロパティを設定します。

cmx.bes.write.alwaystokenize

デフォルトでは、MDM Hub は次のシナリオで更新されたレコードをトークン化しません。

- 完全一致カラムの親レコードまたは子レコードを更新する場合。

- 親テーブルの完全一致カラムとして設定されている子カラムを更新する場合。

これらのシナリオで MDM Hub が更新されたレコードを常にトークン化するように指定するには、このプロパティを true に設定します。デフォルトは false です。

`cmx.server.selective.bvt.enabled`

デフォルトでは、Put または Cleanse Put 呼び出しは、SIF 要求で指定されたフィールドのみを更新するのではなく、レコード内のすべてのフィールドに BVT 計算を適用します。MDM Hub が SIF 要求の一部であるフィールドにのみ BVT 計算を適用するように指定するには、このプロパティを true に設定します。デフォルトは false です。

`com.informatica.mdm.message.queue.max.bytes.threshold`

メッセージキューに送信されるメッセージの上限を作成できます。メッセージキューに送信されるメッセージの最大サイズをバイト単位で指定するには、このプロパティを設定します。メッセージが指定されたサイズを超えた場合、メッセージは送信されず、メッセージのステータスは [失敗] に設定されます。

Hub サーバプロパティの設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 5 設定ガイド*』を参照してください。

トークン化と一致ジョブのためのプロセスサーバーのプロパティ

多数のレコードに対して一致ジョブまたはトークン化 API 呼び出しがある場合に、MDM Hub がトークン化を実行するように指定できます。多数のレコードの一致ジョブ中にトークン化を実行するように `cmx.server.stripDML.useDeleteInsertLock` プロセスサーバプロパティを設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 5 設定ガイド*』を参照してください。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

保存ハンドラのユーザーイグジットの機能拡張

保存ハンドラのユーザーイグジットでは、`getChangedChildren` メソッドを使用して、指定したベースオブジェクト内の変更または追加された子レコードまたは孫レコードを返すことができます。

ユーザーイグジットは、追加、削除、または更新されたすべてのレコードを返します。ユーザーイグジットによって返される変更のタイプを選択できます。例えば、削除された子レコードと更新された子レコードの組み合わせを返すようにユーザーイグジットに要求することができます。

グローバルプロパティ

次のグローバルプロパティを使用して Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を制御することができます。

`deleteMovedRelInExplorerView`

階層マネージャのエクスプローラビューで新しいリレーションを作成するときに古いリレーションを削除するかどうかを決定します。リレーションに終了日を指定するには、false に設定します。

`enableSaveForPeriodDialogForHmRel`

IDD で階層マネージャが有効なレコードを更新するときに表示される有効期間のダイアログボックスを有効にします。有効期間のダイアログボックスを無効にするには、false に設定します。

hideSystemColumnsInResult

検索結果にシステムカラムを表示するかどうかを指定します。IDD 検索結果でシステムカラムを非表示にするには、true に設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 5 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

日付形式の機能拡張

エンティティ 360 フレームワークでは、カレンダーで使用するデフォルトの日付形式を変更できます。

デフォルトの日付形式を変更するには、テキストエディタを使用して、プロパティ DATE_TIME_LONG_FORMAT を含む bundleE360.properties ファイルを作成します。次に、bundleE360.properties ファイルを以下の場所に追加します。

```
<distribution directory>\hub\server\resources\entityE360
```

注: 存在しない場合は、entityE360 ディレクトリを作成します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Informatica Provisioning Tool Guide*』を参照してください。

変更内容 (10.1 HotFix 5)

ここでは、バージョン 10.1 HotFix 5 の変更内容について説明します。

プロキシロール

バージョン 10.0.0 HotFix 5 から、作成するオペレーショナルリファレンスストアには、プロキシロールが含まれます。

以前は、プロキシロールは廃止されていました。要求に応じて、プロキシロールは使用が再開されました。

ユーザーイグジットの機能拡張

バージョン 10.0.0 HotFix 5 では、階層マネージャのユーザーイグジットで有効期間を設定できます。

以前は、保存ハンドラのユーザーイグジットでのみ有効期間を設定できました。

ガイドへの変更

バージョン 10.0.0 HotFix 5 で、Informatica^(R) MDM Multidomain Edition ドキュメントセットのすべてのガイドには新しい Informatica ブランドが反映され、更新された著作権ページがあります。

以下のガイドには、このリリースの新機能と変更された機能に関連するコンテンツが含まれます。

- *Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Release Notes*
- *Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Release Guide*
- *Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Installation Guide*
- *Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Upgrade Guide*
- *Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 5 設定ガイド*

- *Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Provisioning Tool Guide*
- *Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 5 Informatica Data Director 実装ガイド*
- *Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Resource Kit Guide*

ドキュメントセットの残りのガイドは以前のリリースから変更されず、バージョン番号が維持されています。

第 5 章

新機能と変更（10.1 HotFix 4）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.1 HotFix 4）, 39 ページ](#)
- [変更（10.1 HotFix 4）, 40 ページ](#)

新機能（10.1 HotFix 4）

ここでは、バージョン 10.1 HotFix 4 の新しい機能について説明します。

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

バッチグループのジョブ履歴

Hub コンソールの [バッチグループ] ツールでは、バッチグループジョブログに対して処理する履歴の日数を指定できます。デフォルトでは、バッチジョブのログはすべての履歴を考慮しますが、考慮する日数を減らすことができます。

バッチグループジョブログに対して処理する履歴の日数を指定するには、`cmxserver.properties` ファイルに `cmx.server.jobControl.noOfDays` プロパティを設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 4 設定ガイド*』を参照してください。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

グローバルプロパティ

次のグローバルプロパティを使用して Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を制御することができます。

CompositePagerTotalRecords

Informatica Data Director が大文字小文字を区別せずにソートする ActiveVOS タスクの最大数。デフォルトでは、Informatica Data Director は ActiveVOS タスクケースをソートします。ソート対象が `CompositePagerTotalRecords` の値よりも多い場合、大文字小文字を区別するソートはデータベース依存です。

データベースが Microsoft SQL Server である場合、ソートは大文字小文字を区別します。データベースが Oracle または IBM DB2 の場合、ソートは大文字小文字を区別します。

convert2DigitYearTo4Digit

2 桁の年のエントリを 4 桁の年のエントリに調整できるようにします。

expandDropDownListShowFullValue

ルックアップレコードの **【検索】** タブでドロップダウンリストを展開できるようにします。

qrytaskidfromprocessidtotalretry

Informatica Data Director が ActiveVOS タスクの再ロードを試行する回数。

qrytaskidfromprocessidwaitintrvlmillis

Informatica Data Director が ActiveVOS タスクの再ロードを試行するまでに待機するミリ秒数。

proactiveMatchResultSort

一致候補が Informatica Data Director アプリケーションに表示されるソート順を設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 4 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

履歴ビューの改良点

レコードへの次のフィールドの追加により、履歴ビューのユーザビリティが向上しました。

最終更新日

レコードが最後に更新された日付が表示されます。

更新者

レコードを更新したユーザーの名前が表示されます。

[開始] ワークスペースの拡張

タスクの優先順位を付けるために、[開始] ワークスペースには、タスクが作成された日付を表示する **【作成日】** カラムがあります。[開始] ワークスペースには、タスクの現在の所有者を表示する **【所有者】** カラムもあります。

変更 (10.1 HotFix 4)

バージョン 10.1 HotFix 4 の他の変更はありません。

第 6 章

新機能と変更（10.1 HotFix 3）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.1 HotFix 3）, 41 ページ](#)
- [変更（10.1 HotFix 3）, 42 ページ](#)

新機能（10.1 HotFix 3）

ここでは、バージョン 10.1 HotFix 3 の新しい機能について説明します。

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

タイムライン抽出ジョブ

タイムライン抽出ジョブは、拒否されたレコードの履歴を保持できます。タイムライン抽出ジョブを実行すると、MDM Hub は拒否されたレコードを拒否テーブルに送信します。拒否されたレコードを処理するには、タイムライン抽出ジョブを再度実行します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 HotFix 3 設定ガイド*』の「タイムライン抽出の使用」を参照してください。

クラウドデプロイメント用の Hub サーバプロパティ

クラウドデプロイメントで MDM Hub コンソールを起動する、Java ネットワーク起動プロトコル（JNLP）ファイルで使用する通信プロトコルを指定できます。通信プロトコルを指定するには、`cmx.appserver.jnlp.protocol` Hub サーバプロパティを設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 HotFix 3 設定ガイド*』を参照してください。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

言語表示

Informatica Data Director は、[その他のアクション] メニューにカスタムアクション名がローカライズされた言語で表示されるように設定できます。カスタムアクション名をローカライズするには、カスタムアクション名とローカライズされた値のペアを国際化メッセージバンドルに追加します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 HotFix 3 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

グローバルプロパティ

次のグローバルプロパティを使用して Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を制御することができます。

bulkexportloadsize

Microsoft Excel ファイルにデータをエクスポートするときの、各スレッドのロードの最大サイズを設定します。

exportusingmultithread

Microsoft Excel ファイルにデータをエクスポートするためのマルチスレッドを有効にします。

enableCreateBEMenuGrouping

ビジネスエンティティの [作成] メニューのサブジェクト領域に基づいて論理グループを定義できるかどうかを指定します。このプロパティは、多数のサブジェクト領域がある場合に必要です。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 HotFix 3 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

複数のタスクアクションのサポート

ActiveVOS ワークフローは、確認者が [タスク] タブを閉じずにタスクに対して複数のアクションを実行できるように設定できます。[タスク] タブを閉じずに複数のアクションをサポートする各タスクアクションに対して、closeTaskViewproperty を false に設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 HotFix 3 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

変更 (10.1 HotFix 3)

ここでは、バージョン 10.1 HotFix 3 の変更内容について説明します。

BeMDMWorkflow ActiveVOS プロジェクト

バージョン 10.1 HotFix 3 から、リソースキットの BeMDMWorkflow プロジェクトは、タスクインボックスのフィルタリングに関する問題を解決するために変更されました。

以前は、リソースキットの BeMDMWorkflow プロジェクトによって、タスクインボックスのフィルタリングに問題が発生しました。

以前のバージョンからアップグレードする場合は、アップグレード後に BeMDMWorkflow プロジェクトを再デプロイします。ワークフローをカスタマイズした場合は、ActiveVOS Designer を使用して、cs.wsd ファイルの TaskFilter 複合型内に次のコードを追加します。

```
<xsd:element minOccurs="0" name="overdueOnly" type="xsd:boolean" />
```

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.1 HotFix 3* アップグレードガイド』を参照してください。

第 7 章

新機能と変更（10.1 HotFix 2）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.1 HotFix 2）, 44 ページ](#)
- [変更（10.1 HotFix 2）, 45 ページ](#)

新機能（10.1 HotFix 2）

ここでは、バージョン 10.1 HotFix 2 の新しい機能について説明します。

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

物理削除の検出用のプライマリキーカラムの指定

複数のソースカラムからの値を連結して一意のプライマリキーを作成するときは、物理削除の検出（HDD）プロセスによって、関数への入力が参照され、すべての入力ソースカラムが監視されます。この動作は、物理削除の検出リポジトリテーブルで監視するカラムをリストすることにより、オーバーライドできるようになりました。

例えば、多くの入力を持つカスタム関数を作成します。カスタム関数内では、ソースカラムの一部は、一意のプライマリキーを作成する連結関数への入力です。その他のソースカラムは、カスタム関数を変更せずにパススルーします。HDD プロセスは、カスタム関数内で何が実行されているかを認識できません。したがって、HDD プロセスは、カスタム関数へのすべての入力を監視します。HDD プロセスには、プライマリキーに寄与するソースカラムのみを監視させることができます。

HDD プロセスをプライマリキーに寄与するソースカラムのサブセットに集中させるには、C_REPOS_EXT_HARD_DEL_DETECT リポジトリテーブルを設定します。HDD_LANDING_PKEY_COLUMNS カラムを追加し、カラム名のカンマ区切りのリストを挿入します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 HotFix 2 設定ガイド*』の「物理削除の検出用のプライマリキーカラムの指定」を参照してください。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

検索クエリ

検索クエリを作成して、サブジェクト領域の一部ではないパッケージカラムを含めることができます。検索結果には、クエリの作成に使用するすべてのパッケージカラムを表示できます。

変更 (10.1 HotFix 2)

ここでは、バージョン 10.1 HotFix 2 の変更内容について説明します。

[NULL の更新を許可する] プロパティ

バージョン 10.1 HotFix 2 では、ベストバージョンオブトゥルースを計算するすべてのプロセスが同じ方法で NULL 値を処理します。以前は、プロセスによっては、ステージングテーブルの **[NULL の更新を許可する]** プロパティを無視して、ベースオブジェクトテーブルの **[NULL 値を適用する]** プロパティを使用するものがありました。

ソースシステムがカラムに NULL 値を提供すると、プロセスは、ステージングテーブルにあるそのカラムの **[NULL の更新を許可する]** プロパティの設定を参照します。

- カラムで **[NULL の更新を許可する]** プロパティが有効の場合、プロセスは、ベースオブジェクトレコードに NULL 値を書き込むことができます。
- カラムで **[NULL の更新を許可する]** プロパティが無効の場合、プロセスは、NULL 値の信頼をダウングレードします。
- ステージングテーブルの **[NULL の更新を許可する]** プロパティの設定を解決できない場合、プロセスは、ベースオブジェクトテーブルの **[NULL 値を適用する]** プロパティの設定を使用します。

[NULL の更新を許可する] プロパティの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 HotFix 2 設定ガイド*』を参照してください。

廃止されたプロパティ

バージョン 10.1 HotFix 2 では、Hub サーバーの次のプロパティが廃止されています。

廃止されたプロパティ	バージョン 10.1 HotFix 2 の動作の変更点
cmx.server.batch.load.analyze_threshold_rate	このバージョンには相当するものではありません。

バージョン 10.1 HotFix 2 では、プロセスサーバーの次のプロパティが廃止されています。

廃止されたプロパティ	バージョン 10.1 HotFix 2 の動作の変更点
com.informatica.mdm.overrideNullable	ソースシステムが NULL 値を提供した場合、最も信頼できる値をプロセスが計算する方法を上書きできません。NULL 値を処理する際にプロセスが使用する方法が変更されました。詳細については、 「[NULL の更新を許可する] プロパティ」 (ページ 45) を参照してください。
com.informatica.mdm.promoteNullable	カラムに NULL 値を提供するソースシステムが複数のステージングテーブルを持っている場合、プロセスは、すべてのステージングテーブルの 「[NULL の更新を許可する] プロパティ」 を無視します。代わりにプロセスは、ベースオブジェクトレコードの 「[NULL 値を適用する] プロパティ」 の設定を使用します。

アップグレード後に、廃止されたプロパティがプロパティファイルに残っていても無視されます。廃止されたプロパティは、ファイルから削除しても問題ありません。

Hub 状態インジケータが PUT 可能でない

バージョン 10.1 HF2 では、システムカラム HUB_STATE_IND を PUT 可能として設定することはできません。

第 8 章

新機能と変更（10.1 HotFix 1）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.1 HotFix 1）](#) , 47 ページ
- [変更内容（10.1 HotFix 1）](#) , 49 ページ

新機能（10.1 HotFix 1）

ここでは、バージョン 10.1 HotFix 1 の新しい機能について説明します。

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

ビジネスエンティティの読み取りサービスおよび一覧表示サービスの機能拡張

バージョン 10.1 HotFix 1 では、ビジネスエンティティの読み取りサービスを使用してルートレコードの詳細を取得する場合、子要素のソート順を指定できます。ビジネスエンティティの一覧表示サービスを使用してルックアップ値を取得する場合、ソート順を指定できます。

ソート順を指定するには、order パラメータを使用します。

order パラメータの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.1 HotFix 1* ビジネスエンティティサービスガイド』を参照してください。

ビジネスエンティティのサービス応答のリンクを非表示にするオプション

バージョン 10.1 HotFix 1 では、ビジネスエンティティの読み取りサービスおよび検索サービスの応答で親子リンクを非表示にできます。応答のリンクを非表示にするには、suppressLinks パラメータを使用します。

suppressLinks パラメータの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.1 HotFix 1* ビジネスエンティティサービスガイド』を参照してください。

[NULL の更新を許可する] プロパティ

バージョン 10.1 HotFix 1 では、提供されるステージングテーブルで [NULL の更新を許可する] プロパティの値が混在している場合、[NULL の更新を許可する] プロパティをロードプロセスが設定する方法を変更できま

す。同じソースシステムを持つ複数のステージングテーブルの場合、[NULL の更新を許可する] プロパティをロードプロセスが設定する方法を管理することもできます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 HotFix 1 設定ガイド*』の「[NULL の更新を許可する] プロパティの動作のカスタマイズ」を参照してください。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

グローバルプロパティ

バージョン 10.1 HotFix 1 では、Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を、次のグローバルプロパティで制御することができます。

showShadowColumns

相互参照ビューにシャドーカラムを表示するかどうかを指定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 HotFix 1 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

ユーザー認証とパスワード暗号化

バージョン 10.1 HotFix 1 では、Informatica Data Director の URL の認証を設定できます。認証が有効な場合、ユーザーがログインすると、そのユーザー名とパスワードが Informatica Data Director の URL の一部として渡されます。ユーザー名とパスワードを暗号化形式で渡すように Informatica Data Director を設定することもできます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 HotFix 1 Informatica Data Director 実装ガイド*』および『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

エンティティビューの機能拡張

次の機能拡張の追加により、エンティティビューのユーザビリティが向上しました。

- エンティティのルートレコードを含むセクションを縮小表示できます。
- フィールドをクリックして編集モードに切り替えることができます。
- 子レコードを含むセクションで、テーブルビュー内の場合にカラムをソートできます。

子レコードのテーブルビュー

バージョン 10.1 HotFix 1 では、子レコードおよび孫レコードのテーブルビューに表示するカラムの数を指定できます。

デフォルトでは、テーブルビューには、最大 20 個のカラムと 5 個の非表示カラムが含まれます。C_REPOS_DS_PREF_DETAIL の tableMaxColumns パラメータを設定して、グローバルなデフォルト値を変更できます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 HotFix 1 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

カスタムビュー

バージョン 10.1 HotFix 1 では、エンティティ 360 フレームワークでカスタムビューを作成して、ビジネスユーザーに役立つマスターデータのビューを表示することができます。カスタムビューを設定するには、プロビジョニングツールのレイアウトエディタを使用してビューレイアウトを設定し、そのカスタムビューをビューメニューに追加します。

カスタムビューの設定に関する詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 HotFix 1 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

変更内容（10.1 HotFix 1）

ここでは、バージョン 10.1 HotFix 1 の変更内容について説明します。

SAM 特権

バージョン 10.1 HotFix 1 で、[新規] ドロップダウンメニューを IDD で表示するには、関連するベースオブジェクトのサブジェクト領域に作成特権を割り当てる必要があります。特権を割り当てるには、Hub コンソールのセキュリティアクセスマネージャを使用します。

以前は、[新規] ドロップダウンメニューを IDD で表示するには、関連するベースオブジェクトのサブジェクト領域に読み取り特権のみを割り当てる必要がありました。

ギャップを埋める

バージョン 10.1 HotFix 1 では、タイムラインが有効なベースオブジェクトについて、Hub コンソールで **【ギャップを埋める】** プロパティを有効にできます。このベースオブジェクトのプロパティを関連するステージングテーブルに設定します。以前は、関連するステージングテーブルの C_REPOS_TABLE によってのみ、**【ギャップを埋める】** プロパティを有効にできました。

ソースシステムキーの保持

バージョン 10.1 HotFix 1 では、ソースシステムキーを保持するオプションが有効な場合、初期データロードと次回以降のすべてのデータロードでソースシステムキーが保持されます。

以前は、ソースシステムキーを保持するオプションが有効な場合、初期データロードのみでソースシステムキーが保持されていました。

INFA_MDM.zip ファイルの削除

バージョン 10.1 HotFix 1 では、廃止されたファイルである INFA_MDM.zip が削除されました。MDMWorkflow.zip ファイルには現在の ActiveVOS ワークフローが含まれます。

タスクマネージャの機能拡張

バージョン 10.1 HotFix 1 では、カラムデータを読みやすくするために、タスクマネージャ内でタスクインボックスがブラウザウィンドウの幅まで広がります。タスクを確認する場合、確認パネルがタスクインボックスの下に開きます。以前は、パネルが並んで表示されました。

マージタスクの機能拡張

バージョン 10.1 HotFix 1 では、[マージのプレビュー] のレコードをマージすると、マージの確認が表示されます。以前は、空白のページが表示されました。

一致ビューの機能拡張

バージョン 10.1 HotFix 1 では、一致ビューで **【一致した行を表示】** チェックボックスを選択すると、一致した属性を持つ行を強調表示できます。以前は、行は強調表示されませんでした。

ビジネスエンティティスキーマ

バージョン 10.1 HotFix 1 では、ソートされた検索結果のパジネーションをサポートするようにビジネスエンティティスキーマが更新されました。アップグレード後はビジネスエンティティスキーマを再生成する必要があります。

第 9 章

新機能と変更点（10.1）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.1）](#) , 51 ページ
- [変更内容（10.1）](#) , 57 ページ

新機能（10.1）

ここでは、バージョン 10.1 の新しい機能について説明します。

プロビジョニングツール

プロビジョニングツールは、ビジネスエンティティモデルを作成し、エンティティ 360 フレームワークを設定するためのツールです。ビジネスエンティティモデルを作成するには、ルートノードを作成し、ノード間のリレーションを確立する必要があります。このリレーションは、Hub コンソールを使用して定義した外部キー制約に基づきます。ビジネスエンティティモデルを作成してノードを設定したら、MDM Hub に設定をパブリッシュできます。

技術者はプロビジョニングツールを使用して次のタスクを実行できます。

- グラフィックユーザーインターフェースを使用してビジネスエンティティモデルを設定する。XML エディタが提供されるため、ビジネスエンティティに関連するすべての構成について直接 XML ファイルを設定できます。
- グラフィックユーザーインターフェースを使用して各ノードのプロパティを設定する。たとえば、検索プロパティと表示名を設定できます。
- XML 構成ファイルを MDM Hub にパブリッシュする。リポジトリマネージャによって構成とレポートにエラーがないか検証されます。BLOB ファイルを手動でリポジトリテーブルにアップロードする必要はありません。

Informatica MDM Multidomain Edition の技術者はプロビジョニングツールを使用して次のアクティビティを実行できます。

- ビジネスエンティティモデルを作成する。カスタムユーザーインターフェースを使用する実装のみが対象です。Informatica Data Director（IDD）にビジネスエンティティを実装する場合は、ビジネスエンティティモデルを作成できません。
- 参照エンティティを作成する。カスタムユーザーインターフェースを使用する実装のみが対象です。Informatica Data Director にビジネスエンティティを実装する場合は、参照エンティティを作成できません。
- ビジネスエンティティノードを設定する。

- ビジネスエンティティモデルの各ノードの検索プロパティを設定する。
- 次の構成の XML ファイルを生成する。
 - REST サービス
 - 書き込みビジネスエンティティサービス
 - 検索
- エンティティ 360 フレームワーク構成の XML ファイルを設定する。
- BPM タスクの XML ファイルを設定する。
- ビジネスエンティティビューおよびトランスフォーメーションサービスの XML ファイルを設定する。
- 構成ファイルを MDM Hub にパブリッシュする。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

設定ツールを使用する場合

環境に基づいて、異なるセットの設定ツールを使用します。

次の表に、環境のタイプと使用するツールを示します。

環境	説明	ツール
Informatica MDM	MDM コンポーネントを使用する。Informatica Data Director やビジネスエンティティサービスは使用しません。	Hub コンソール
Informatica MDM と Informatica Data Director	MDM コンポーネントを使用する。ビジネスユーザー向けの標準ユーザーインターフェースを作成する場合は、Informatica Data Director も使用します。 注: このオプションは、カスタムタブやユーザーイグジットなど、既存の IDD アプリケーションの動作を維持するユーザーをアップグレードするためにサポートされます。	1. Hub コンソール 2. IDD Configuration Manager
Informatica MDM と Informatica Data Director、およびエンティティ 360 フレームワーク	MDM コンポーネントを使用する。エンティティ 360 フレームワークが有効な Informatica Data Director も使用します。	1. Hub コンソール 2. IDD Configuration Manager 3. プロビジョニングツール
Informatica MDM と ビジネスエンティティサービス	MDM コンポーネントを使用する。カスタムアプリケーションから MDM Hub を呼び出すには、ビジネスエンティティサービスも使用します。	1. Hub コンソール 2. プロビジョニングツール

Informatica Data Director のバージョン間の差異

以前のバージョンの Informatica Data Director (IDD) では、データはサブジェクト領域を中心に構成され、サブジェクト領域グループに集計されていました。IDD は、サブジェクト領域定義を使用して、オペレーショナル参照ストア (ORS) 内の各外部キーリレーションをどう扱うかを決定していました。

最新バージョンの IDD では、データはビジネスエンティティを中心に構成されます。ビジネスエンティティは、組織にとって意味がある、どのようなものにでもできます。たとえば、組織で「Person」というビジネスエンティティタイプを定義できます。顧客 John Smith は、[Person] タイプのビジネスエンティティになります。MDM Hub Store では、ビジネスエンティティはベースオブジェクトテーブルのレコードに対応します。

次の表に、サブジェクト領域を使用するか、ビジネスエンティティを使用するかによる IDD のバージョン間の差異のいくつかを示します。

サブジェクト領域を使用する IDD	ビジネスエンティティを使用する IDD
サブジェクト領域の深度は 3 レベルに制限される	ビジネスエンティティの深度は無制限
なし	エンティティ 360 フレームワーク
IDD 構成ファイルによるカスタムワークスペース	エンティティ 360 フレームワークで使用可能なカスタム [開始] ワークスペース
静的ルックアップがサポートされる	ルックアップは参照エンティティによってサポートされる
ユーザーイグジットがサポートされる	サーバー側のクレンジングと検証
マスターデータのインポート	マスターデータのインポートはバージョン 10.1.0 では使用不可

ビジネスエンティティビューおよびトランスフォーメーション

ビジネスエンティティビューを使用して、ビジネスエンティティのデータを、ユーザーに適した複数の形式でユーザーに公開できます。ビジネスエンティティビューでは、低レベルのビジネスエンティティとユーザーインターフェースの関連ビューを分離できます。ビジネスエンティティをビジネスエンティティビューに変換でき、また、ビジネスエンティティビューをビジネスエンティティに戻すこともできます。

ビジネスエンティティビュー XML を使用してビジネスエンティティビューを定義したり、トランスフォーメーション構成 XML を使用してビジネスエンティティからビジネスエンティティビューへのトランスフォーメーション（およびその逆）を定義したりできます。プロビジョニングツールを使用して、ビジネスエンティティビューとトランスフォーメーション構成 XML を手動で定義できます。

ビジネスエンティティビューおよびトランスフォーメーションの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.1 プロビジョニングツールガイド』を参照してください。

REST API ビジネスエンティティサービス呼び出し

1 つの REST API ビジネスエンティティサービス要求でさまざまな深度の複数の子ブランチを操作できます。

次の URL サンプルは、REST API 読み取り要求を実行して行 ID 1242 の Person レコード、Address 子ブランチから住所の詳細、Email 子ブランチから電子メールレコードを取得する方法を示しています。

`http://localhost:8080/cmx/cs/localhost-ORCL-DS_UI1/Person/1242?children=Address/Address_Details_1,Email`

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.1 ビジネスエンティティサービスガイド』を参照してください。

リソースキット

データベースパフォーマンステストユーティリティを実行して、MDM Hub のデータベースパフォーマンスをテストできます。データベーステストユーティリティはリソースキットに含まれています。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.1 リソースキットガイド』を参照してください。

トークン化と一致プロセスのための Hub サーバーのプロパティ

次のプロパティを `cmxserver.properties` ファイルに追加して、トークン化と一致プロセスを設定できます。

`cmx.server.strp_clean.execution_mode`

一致キーテーブルに対するバックグラウンドクリーンアッププロセスの操作の範囲を設定します。

`cmx.server.strp_clean.ors`

バックグラウンドクリーンアッププロセスを実行して、無効な一致トークンを削除する必要があるオペレーショナル参照ストアの名前を指定します。

`cmx.server.strp_clean.strp`

バックグラウンドクリーンアッププロセスを実行して、一致キーテーブルをクリーンアップする必要があるオペレーショナル参照ストアとベースオブジェクトの組み合わせを指定します。

`cmx.server.strp_clean.delete_records_count`

一致キーテーブルからクリーンアップするレコードの数を指定します。

`cmx.server.strp_clean.retry_sec`

一致キーテーブル内にある無効な一致トークンを含むレコードを MDM Hub が検索する時間を、秒単位で指定します。

`cmx.server.strp_clean.threads_count`

一致キーテーブル内にある無効な一致トークンを含むレコードを MDM Hub が検索するときに使用するスレッドの数を指定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Configuration Guide*』を参照してください。

トークン化と一致プロセスのためのプロセスサーバーのプロパティ

次のプロパティを `cmxcleanse.properties` ファイルに追加して、トークン化と一致プロセスを設定できます。

`cmx.server.stripDML.blockSize`

各ブロックで MDM Hub が処理するレコードの数を設定します。

`cmx.server.stripDML.noOfThreadsForDelete`

MDM Hub が一致キーテーブルからレコードを削除するために使用するスレッドの数を指定します。

`cmx.server.stripDML.noOfThreadsForInsert`

MDM Hub が一致キーテーブルにレコードを挿入するために使用するスレッドの数を指定します。

`cmx.server.stripDML.noOfThreadsForUpdate`

MDM Hub が一致キーテーブルのレコードを更新するために使用するスレッドの数を指定します。

`cmx.server.stripDML.useUpdate`

一致トークンを削除するのではなく [無効] としてマークする必要があるかどうかを指定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Configuration Guide*』を参照してください。

Informatica Data Director の新機能

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

Informatica Data Director での [データ] ワークスペースの非表示

Informatica Data Director (IDD) アプリケーションでエンティティ 360 フレームワークを有効にすると、IDD ユーザーは [データ] ワークスペースではなくエンティティワークスペースからマスタデータを編集および管理します。すべての IDD アプリケーションの [データ] ワークスペースと関連するユーザーインターフェース要素を非表示にすることで、IDD ユーザーの混乱を抑えることができます。ワークスペースを非表示にするには、`cmx.dataview.enabled` を `cmxserver.properties` ファイル内に設定します。

新しいインストールでは、[データ] ワークスペースはデフォルトで非表示になっています。アップグレード時に `cmx.dataview.enabled` プロパティが指定されていなかった場合は、[データ] ワークスペースが表示されます。このプロパティが指定されていた場合、IDD アプリケーションは引き続きアップグレード前の設定を優先します。詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Configuration Guide*』の「Hub サーバーのプロパティ」を参照してください。

ワイルドカード検索

アスタリスクワイルドカード文字 (*) を検索文字列に使用してワイルドカード検索を実行できます。ワイルドカード文字は、検索文字列の末尾または中間に使用します。例えば、「John」を検索する場合は、「Jo*」または「J*n」と指定できます。

検索文字列の提案

入力した文字列に基づいて検索文字列を提案するスマート検索を設定できます。提案された値のいずれかを検索文字列として選択できます。

検索文字列を提案するスマート検索の設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 設定ガイド*』を参照してください。

[開始] ワークスペースの Jaspersoft レポート

ビジネスインテリジェンスツールの Jaspersoft を使用してレポートを開発および分析している場合、IDD のエンティティ 360 フレームワークにレポートを表示できます。Jaspersoft レポートを表示するように [開始] ワークスペースを設定できます。

Jaspersoft レポート設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

関連タスク

タスクマネージャのインボックスの [関連タスク] コンポーネントには、選択したタスクの関連タスクが表示されます。

注: 関連タスクには、BE-ActiveVOS アダプタで作成されたタスクのみが表示されます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

グローバルプロパティ

Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を、次のグローバルプロパティで制御することができます。

`maxXrefSearchReturnCount`

Informatica Data Director の検索要求で返される相互参照レコードの最大数を指定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

Zero Downtime を使用したアップグレード

Informatica MDM ソフトウェアをアップグレードする必要がある一方で、関係者が MDM Hub ストアのマスターデータに中断なくアクセスする必要がある場合に、Zero Downtime の機能を使用できます。プライマリ Hub ストアがソフトウェア更新のためにオフラインの間、セカンダリ複製 Hub ストアで変更したデータを保存し、マスターデータへの要求に応答します。

注: Informatica MDM ではデータベースレプリケーションに Oracle GoldenGate を使用します。

Zero Downtime は、IBM DB2 データベースまたは Oracle Database 内にある Hub ストアでサポートされません。

- IBM DB2。詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition for IBM DB2 バージョン 10.1 Zero Downtime インストールガイド*』を参照してください。
- Oracle。詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition for Oracle バージョン 10.1 Zero Downtime インストールガイド*』を参照してください。

ActiveVOS タスク移行スクリプト

移行スクリプトを実行して 10.1 より前の ActiveVOS タスクに正しいプレゼンテーションパラメータを入力できます。MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 より前に作成された ActiveVOS タスクを使用するには、定期的に移行スクリプトを実行します。移行スクリプトを実行しないと、タスクがタスクマネージャに表示されません。バージョン 10.1 にアップグレードする前に作成されたすべてのタスクが処理されるまで、定期的に移行スクリプトを実行します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 アップグレードガイド*』を参照してください。

[提案元] REST API

[提案元] REST API を使用して、データベースに存在するデータに基づいて検索文字列の関連用語のリストを返すことができます。API を使用して、ユーザーインターフェイスフィールドに入力された文字を受け入れ、入力内容をオートコンプリートする提案を返します。

[提案元] REST API の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

[ビジネスエンティティの検索] REST API の機能拡張

[ビジネスエンティティの検索] API を使用して、検索可能なルートビジネスエンティティおよびすべての子レコードのインデックスされた値に対してフィールド検索を実行できます。ファセットとフィルタを使用して検索結果のサブセットを表示できるようになりました。

[ビジネスエンティティの検索] REST API の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

IBM DB2 用の予約キーワード

IBM DB2 環境で、予約キーワード MDMNODE および MDMALIAS がデータベース作成に使用されます。IBM DB2 環境ではこれらの語をカラム名に使用できません。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.1 設定ガイド*』を参照してください。

変更内容（10.1）

このセクションでは、バージョン 10.1 における変更点について説明します。

Informatica LLC

2015 年 8 月から、すべての Informatica 製品およびマニュアルの「Informatica Corporation」という用語が「Informatica LLC」に置き換まりました。現在の製品またはマニュアルの「Informatica Corporation」という用語は、「Informatica LLC」と読み替える必要があります。

用語の変更

このリリースでは、一部の用語が変更されました。

次の表に、以前の用語と新しい用語の一覧を示します。

以前の用語	新しい用語
複合オブジェクト	ビジネスエンティティ
複合サービス	ビジネスエンティティサービス
エンティティ 360	エンティティ 360 フレームワーク
エンティティ 360 表示	エンティティビュー
360 表示	エンティティビュー

プロセスサーバーと Hub サーバー間の保護された接続

Hub コンソールでプロセスサーバーを設定するときに、Hub サーバーとの保護された接続を有効にするようにプロパティを設定できます。保護された接続を有効にするには、[プロセスサーバーの追加/編集] ダイアログボックスで、**保護された接続を有効にする (HTTPS)** を選択します。

以前のリリースでは、保護された接続を設定するために C_REPOS_CLEANSE_MATCH_SERVER テーブルで [セキュア] フィールドを 1 に設定する必要がありました。

トークン化プロセス

バージョン 10.1.0 では、ベースオブジェクトレコードが [未処理] とマークされると、MDM Hub が一致トークンを生成または更新します。

ベースオブジェクトレコードは、次の条件のすべてを満たすと [未処理] とマークされます。

- 更新がベースオブジェクトの一致カラムに影響を与える。
- 更新後の一致カラムのベストバージョン オブ トゥールズ (BVT) が以前の値と異なる。

これまで、ベースオブジェクトレコードは、更新されると常に [未処理] とマークされていました。

検索可能なフィールドのプロパティ

バージョン 10.1.0 では、プロビジョニングツールを使用して検索可能なフィールドのプロパティを設定できます。

これまでは、変更リストを使用するか、C_REPOS_CO_CS_CONFIG リポジトリデータベーステーブルを手動で更新していました。

Informatica Data Director の変更点

ここでは、Informatica Data Director の変更点について説明します。

メニューの変更点

エンティティ 360 フレームワークの導入に伴い、ヘッダ-のメニュー項目が変更されました。

バージョン 10.0 から、**【新規】** メニューの名前が **【新しい SA】** に変更され、**【新しい BE】** という名前の別のメニューが追加されました。バージョン 10.0.0 HotFix 3 から、これらのメニューの名前が変更されわかりやすくなりました。

次の表では、メニューの変更点をまとめています。

バージョン 10.0 より前のメニュー	バージョン 10.0 のメニュー	バージョン 10.0.0 HotFix 3 のメニュー	説明
なし	新しい BE	作成	エンティティビューにビジネスエンティティを作成する。
新規	新しい SA	データビューで 作成	データビューのサブジェクト領域にレコードを作成する。 バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、データビューが非表示の場合、このメニューも非表示になります。代わりに 【作成】 メニューを使用してください。
クエリ	クエリ	クエリ	データビューの検索機能を使用する。バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、データビューが非表示の場合、このメニューも非表示になります。代わりに 【検索】 ボックスを使用してください。

エンティティビューのナビゲーションメニュー

バージョン 10.0.0 HotFix 3 から、エンティティビューでビジネスエンティティを表示すると、左側にナビゲーションメニューが表示されます。ナビゲーションメニューのセクション名をクリックして、エンティティビューのそのセクションまでスクロールします。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.0.0 HotFix 3 *Informatica Data Director* ユーザーガイド』の「ビジネスエンティティの追加」を参照してください。

エンティティビューのセクションのフォームビュー

バージョン 10.0.0 HotFix 3 から、エンティティビューでビジネスエンティティを表示すると、ルートレコードがビューの上部、その子レコードがルートレコードの下にセクションに表示されます。ルートレコードはフォームビューに表示されます。セクションでは、子レコードのビューをテーブルビューまたはフォームビューに切り替えることができます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.0.0 HotFix 3 *Informatica Data Director* ユーザーガイド』の「ビジネスエンティティの追加」を参照してください。

階層キャンバス

バージョン 10.0.0 HotFix 3 から、有効な階層キャンバスでは、ノードテキストは切り捨てられるのではなく、次の行に折り返されます。



サービス URL

バージョン 10.0.0 HotFix 3 から、Informatica Data Director が SIF 呼び出しのために生成するサービス URL の形式を指定できます。

サービス URL を指定するには、cmxserver.properties ファイルに次のテキストを追加します。

referer.url=http://<local host: ローカルホスト>:<port number: ポート番号>

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

複数一致インデックス

バージョン 9.7.1 の HotFix で導入された複数一致インデックス機能は、バージョン 10.0.0 以降ではサポートされません。

スキーマの変更の検証

バージョン 10.0.0 HotFix 3 から、Hub コンソールでスキーマを変更すると（ベースオブジェクトへのカラムの追加など）、メタデータの検証で警告が生成されます。スキーマに変更を加えるたびにダミーのメタデータの検証が行われ、C_REPOS_MET_VALID_RESULT テーブルにエントリが追加されます。

Hub サーバーの廃止されたプロパティ

このリリースでは、Hub サーバーのいくつかのプロパティが使用されません。廃止されたプロパティがアップグレード後に cmxserver.properties ファイル内に残っている場合、それらのプロパティは無視されます。それらのプロパティはファイルから安全に削除できます。

次のプロパティが廃止されます。

プロパティ	置き換え
activevos.merge.workflow.operation.name	なし
activevos.workflow.basicSecure	ActiveVOS のセキュリティはアプリケーションサーバーレベルで処理されます。信頼されたユーザーによって、ActiveVOS と MDM Hub が安全に相互作用できるようにします。
cmx.idd.data_import_enabled	なし
solr.allNodesAliveSleepTimeout	なし
teamworks.merge.workflow.guid	なし
zk.allNodesAliveRetries	なし

パート III: バージョン 10.0.0

この部には、以下の章があります。

- [新機能と変更 \(10.0.0 HotFix 5\) , 62 ページ](#)
- [新機能と改良点 \(10.0.0 HotFix 4\) , 66 ページ](#)
- [新機能と改良点 \(10.0.0 HotFix 3\) , 68 ページ](#)
- [新機能と改良点 \(10.0.0 HotFix 2\) , 83 ページ](#)
- [新機能、変更点、リリースタスク \(10.0.0 HotFix 1\) , 96 ページ](#)
- [新機能、変更点、リリースタスク \(10.0.0\) , 99 ページ](#)

第 10 章

新機能と変更（10.0.0 HotFix 5）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.0.0 HotFix 5）](#) , 62 ページ
- [変更内容（10.0.0 HotFix 5）](#) , 64 ページ

新機能（10.0.0 HotFix 5）

ここでは、バージョン 10.0.0 HotFix 5 の新しい機能について説明します。

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

Hub サーバーとプロセスサーバーのグループ化

Hub サーバーとプロセスサーバーの論理グループを設定できます。一連の Hub サーバーとプロセスサーバーをまとめてグループ化すると、サーバー間の通信がすべてグループ内にとどまります。Hub サーバーとプロセスサーバーをまとめてグループ化するには、MDM Hub 実装で各 Java 仮想マシンにグループ ID を割り当てます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Installation Guide*』と『*Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Upgrade Guide*』を参照してください。

Informatica ActiveVOS バージョン 9.2.4.3

Informatica MDM バージョン 10.0.0 HotFix 5 では、Informatica ActiveVOS バージョン 9.2.4.3 がサポートされています。

Hub サーバーのプロパティ

次の Hub サーバープロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

cmxserver.properties ファイルの Hub サーバープロパティを設定します。

cmx.bes.write.alwaystokenize

デフォルトでは、MDM Hub は次のシナリオで更新されたレコードをトークン化しません。

- 完全一致カラムの親レコードまたは子レコードを更新する場合。

- 親テーブルの完全一致カラムとして設定されている子カラムを更新する場合。

これらのシナリオで MDM Hub が更新されたレコードを常にトークン化するように指定するには、このプロパティを true に設定します。デフォルトは false です。

`cmx.server.selective.bvt.enabled`

デフォルトでは、Put または Cleanse Put 呼び出しは、SIF 要求で指定されたフィールドのみを更新するのではなく、レコード内のすべてのフィールドに BVT 計算を適用します。MDM Hub が SIF 要求の一部であるフィールドにのみ BVT 計算を適用するように指定するには、このプロパティを true に設定します。デフォルトは false です。

`com.informatica.mdm.message.queue.max.bytes.threshold`

メッセージキューに送信されるメッセージの上限を作成できます。メッセージキューに送信されるメッセージの最大サイズをバイト単位で指定するには、このプロパティを設定します。メッセージが指定されたサイズを超えた場合、メッセージは送信されず、メッセージのステータスは [失敗] に設定されます。

Hub サーバプロパティの設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 5 設定ガイド*』を参照してください。

トークン化と一致ジョブのためのプロセスサーバーのプロパティ

多数のレコードに対して一致ジョブまたはトークン化 API 呼び出しがある場合に、MDM Hub がトークン化を実行するように指定できます。多数のレコードの一致ジョブ中にトークン化を実行するように `cmx.server.stripDML.useDeleteInsertLock` プロセスサーバプロパティを設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 5 設定ガイド*』を参照してください。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

保存ハンドラのユーザーイグジットの機能拡張

保存ハンドラのユーザーイグジットでは、`getChangedChildren` メソッドを使用して、指定したベースオブジェクト内の変更または追加された子レコードまたは孫レコードを返すことができます。

ユーザーイグジットは、追加、削除、または更新されたすべてのレコードを返します。ユーザーイグジットによって返される変更のタイプを選択できます。例えば、削除された子レコードと更新された子レコードの組み合わせを返すようにユーザーイグジットに要求することができます。

グローバルプロパティ

次のグローバルプロパティを使用して Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を制御することができます。

`deleteMovedRelInExplorerView`

階層マネージャのエクスプローラビューで新しいリレーションを作成するときに古いリレーションを削除するかどうかを決定します。リレーションに終了日を指定するには、false に設定します。

`enableSaveForPeriodDialogForHmRel`

IDD で階層マネージャが有効なレコードを更新するときに表示される有効期間のダイアログボックスを有効にします。有効期間のダイアログボックスを無効にするには、false に設定します。

hideSystemColumnsInResult

検索結果にシステムカラムを表示するかどうかを指定します。IDD 検索結果でシステムカラムを非表示にするには、true に設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 5 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

日付形式の機能拡張

エンティティ 360 フレームワークでは、カレンダーで使用されるデフォルトの日付形式を変更できます。

デフォルトの日付形式を変更するには、テキストエディタを使用して、プロパティ DATE_TIME_LONG_FORMAT を含む bundleE360.properties ファイルを作成します。次に、bundleE360.properties ファイルを以下の場所に追加します。

```
<distribution directory>\hub\server\resources\entityE360
```

注: 存在しない場合は、entityE360 ディレクトリを作成します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Informatica Provisioning Tool Guide*』を参照してください。

変更内容（10.0.0 HotFix 5）

ここでは、バージョン 10.0.0 HotFix 5 の変更内容について説明します。

プロキシロール

バージョン 10.0.0 HotFix 5 から、作成するオペレーショナルリファレンスストアには、プロキシロールが含まれます。

以前は、プロキシロールは廃止されていました。要求に応じて、プロキシロールは使用が再開されました。

ユーザーイグジットの機能拡張

バージョン 10.0.0 HotFix 5 では、階層マネージャのユーザーイグジットで有効期間を設定できます。

以前は、保存ハンドラのユーザーイグジットでのみ有効期間を設定できました。

ガイドへの変更

バージョン 10.0.0 HotFix 5 で、Informatica^(R) MDM Multidomain Edition ドキュメントセットのすべてのガイドには新しい Informatica ブランドが反映され、更新された著作権ページがあります。

以下のガイドには、このリリースの新機能と変更された機能に関連するコンテンツが含まれます。

- *Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Release Notes*
- *Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Release Guide*
- *Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Installation Guide*
- *Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Upgrade Guide*
- *Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 5 設定ガイド*

- *Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Provisioning Tool Guide*
- *Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 5 Informatica Data Director 実装ガイド*
- *Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 5 Resource Kit Guide*

ドキュメントセットの残りのガイドは以前のリリースから変更されず、バージョン番号が維持されています。

第 11 章

新機能と改良点（10.0.0 HotFix 4）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.0.0 HotFix 4）](#) , 66 ページ
- [変更内容（10.0.0 HotFix 4）](#) , 67 ページ

新機能（10.0.0 HotFix 4）

ここでは、バージョン 10.0.0 HotFix 4 の新しい機能について説明します。

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

バッチグループのジョブ履歴

Hub コンソールの [バッチグループ] ツールでは、バッチグループジョブログに対して処理する履歴の日数を指定できます。デフォルトでは、バッチジョブのログはすべての履歴を考慮しますが、考慮する日数を減らすことができます。

バッチグループジョブログに対して処理する履歴の日数を指定するには、cmxserver.properties ファイルに cmx.server.jobControl.noOfDays プロパティを設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 4 設定ガイド*』を参照してください。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

グローバルプロパティ

次のグローバルプロパティを使用して Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を制御することができます。

CompositePagerTotalRecords

Informatica Data Director が大文字小文字を区別せずにソートする ActiveVOS タスクの最大数。デフォルトでは、Informatica Data Director は ActiveVOS タスクケースをソートします。ソート対象が CompositePagerTotalRecords の値よりも多い場合、大文字小文字を区別するソートはデータベース依存です。

データベースが Microsoft SQL Server である場合、ソートは大文字小文字を区別します。データベースが Oracle または IBM DB2 の場合、ソートは大文字小文字を区別します。

convert2DigitYearTo4Digit

2 桁の年のエントリを 4 桁の年のエントリに調整できるようにします。

expandDropDownListShowFullValue

ルックアップレコードの **【検索】** タブでドロップダウンリストを展開できるようにします。

qrytaskidfromprocessidtotalretry

Informatica Data Director が ActiveVOS タスクの再ロードを試行する回数。

qrytaskidfromprocessidwaitintrvlmillis

Informatica Data Director が ActiveVOS タスクの再ロードを試行するまでに待機するミリ秒数。

proactiveMatchResultSort

一致候補が Informatica Data Director アプリケーションに表示されるソート順を設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 4 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

履歴ビューの改良点

レコードへの次のフィールドの追加により、履歴ビューのユーザビリティが向上しました。

最終更新日

レコードが最後に更新された日付が表示されます。

更新者

レコードを更新したユーザーの名前が表示されます。

[開始] ワークスペースの拡張

タスクの優先順位を付けるために、[開始] ワークスペースには、タスクが作成された日付を表示する **【作成日】** カラムがあります。[開始] ワークスペースには、タスクの現在の所有者を表示する **【所有者】** カラムもあります。

変更内容（10.0.0 HotFix 4）

バージョン 10.0.0 HotFix 4 の他の変更はありません。

第 12 章

新機能と改良点（10.0.0 HotFix 3）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.0.0 HotFix 3）](#) , 68 ページ
- [変更内容（10.0.0 HotFix 3）](#) , 76 ページ

新機能（10.0.0 HotFix 3）

ここでは、バージョン 10.0.0 HotFix 3 の新しい機能について説明します。

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

タイムライン抽出ジョブ

タイムライン抽出ジョブは、拒否されたレコードの履歴を保持できます。タイムライン抽出ジョブを実行すると、MDM Hub は拒否されたレコードを拒否テーブルに送信します。拒否されたレコードを処理するには、タイムライン抽出ジョブを再度実行します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 設定ガイド*』の「タイムライン抽出の使用」を参照してください。

クラウドデプロイメント用の Hub サーバープロパティ

クラウドデプロイメントで MDM Hub コンソールを起動する、Java ネットワーク起動プロトコル（JNLP）ファイルで使用する通信プロトコルを指定できます。通信プロトコルを指定するには、`cmx.appserver.jnlp.protocol` Hub サーバープロパティを設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 設定ガイド*』を参照してください。

物理削除の検出用のプライマリキーカラムの指定

複数のソースカラムからの値を連結して一意のプライマリキーを作成するときは、物理削除の検出（HDD）プロセスによって、関数への入力参照され、すべての入力ソースカラムが監視されます。この動作は、物理削

除の検出リポジトリテーブルで監視するカラムをリストすることにより、オーバーライドできるようになりました。

例えば、多くの入力を持つカスタム関数を作成します。カスタム関数内では、ソースカラムの一部は、一意のプライマリキーを作成する連結関数への入力です。その他のソースカラムは、カスタム関数を変更せずにパススルーします。HDD プロセスは、カスタム関数内で何が実行されているかを認識できません。したがって、HDD プロセスは、カスタム関数へのすべての入力を監視します。HDD プロセスには、プライマリキーに寄与するソースカラムのみを監視させることができます。

HDD プロセスをプライマリキーに寄与するソースカラムのサブセットに集中させるには、C_REPOS_EXT_HARD_DEL_DETECT リポジトリテーブルを設定します。HDD_LANDING_PKEY_COLUMNS カラムを追加し、カラム名のカンマ区切りのリストを挿入します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 設定ガイド*』の「物理削除の検出用のプライマリキーカラムの指定」を参照してください。

ビジネスエンティティの読み取りサービスおよび一覧表示サービスの機能拡張

ビジネスエンティティの読み取りサービスを使用してルートレコードの詳細を取得する場合、子要素のソート順を指定できます。ビジネスエンティティの一覧表示サービスを使用してルックアップ値を取得する場合、ソート順を指定できます。

ソート順を指定するには、order パラメータを使用します。

order パラメータの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

ビジネスエンティティのサービス応答のリンクを非表示にするオプション

ビジネスエンティティの読み取りサービスおよび検索サービスの応答で親子リンクを非表示にできます。応答のリンクを非表示にするには、suppressLinks パラメータを使用します。

suppressLinks パラメータの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

[NULL の更新を許可する] プロパティ

提供されるステージングテーブルで [NULL の更新を許可する] プロパティの値が混在している場合、[NULL の更新を許可する] プロパティをロードプロセスが設定する方法を変更できます。同じソースシステムを持つ複数のステージングテーブルの場合、[NULL の更新を許可する] プロパティをロードプロセスが設定する方法を管理することもできます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 設定ガイド*』の「[NULL の更新を許可する] プロパティの動作のカスタマイズ」を参照してください。

リソースキット

データベースパフォーマンステストユーティリティを実行して、MDM Hub のデータベースパフォーマンスをテストできます。データベーステストユーティリティはリソースキットに含まれています。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 3 Resource Kit Guide*』を参照してください。

トークン化と一致プロセスのための Hub サーバーのプロパティ

次のプロパティを `cmxserver.properties` ファイルに追加して、トークン化と一致プロセスを設定できます。

`cmx.server.strp_clean.execution_mode`

一致キーテーブルのバックグラウンドクリーンアッププロセスの操作範囲を設定します。

`cmx.server.strp_clean.ors`

無効な一致トークンを削除するために、バックグラウンドクリーンアッププロセスを実行する必要があるオペレーショナル参照ストアの名前を指定します。

`cmx.server.strp_clean.strp`

一致キーテーブルをクリーンアップするために、バックグラウンドクリーンアッププロセスを実行する必要があるオペレーショナル参照ストアとベースオブジェクトの組み合わせを指定します。

`cmx.server.strp_clean.delete_records_count`

一致キーテーブルからクリーンアップするレコード数を指定します。

`cmx.server.strp_clean.retry_sec`

MDM Hub が、一致キーテーブルで無効な一致トークンがあるレコードを検索する時間（秒）を指定します。

`cmx.server.strp_clean.threads_count`

MDM Hub が、一致キーテーブルで無効な一致トークンがあるレコードを検索するときに使用するスレッド数を指定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 設定ガイド*』を参照してください。

トークン化と一致プロセスのためのプロセスサーバーのプロパティ

次のプロパティを `cmxcleanse.properties` ファイルに追加して、トークン化と一致プロセスを設定できます。

`cmx.server.stripDML.blockSize`

各ブロックで MDM Hub が処理するレコードの数を設定します。

`cmx.server.stripDML.noOfThreadsForDelete`

MDM Hub が一致キーテーブルからレコードを削除するために使用するスレッド数を指定します。

`cmx.server.stripDML.noOfThreadsForInsert`

MDM Hub が一致キーテーブルにレコードを挿入するために使用するスレッドの数を指定します。

`cmx.server.stripDML.noOfThreadsForUpdate`

MDM Hub が一致キーテーブルのレコードを更新するために使用するスレッドの数を指定します。

`cmx.server.stripDML.useUpdate`

一致トークンを削除するのではなく [無効] としてマークする必要があるかどうかを指定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 設定ガイド*』を参照してください。

[提案元] REST API

[提案元] REST API を使用して、データベースに存在するデータに基づいて検索文字列の関連用語のリストを返すことができます。API を使用して、ユーザーインタフェースフィールドに入力された文字を受け入れ、入力内容をオートコンプリートする提案を返します。

[提案元] REST API の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

[ビジネスエンティティの検索] REST API の機能拡張

[ビジネスエンティティの検索] API を使用して、検索可能なルートビジネスエンティティおよびすべての子レコードのインデックスされた値に対してフィールド検索を実行できます。ファセットとフィルタを使用して検索結果のサブセットを表示できるようになりました。

[ビジネスエンティティの検索] REST API の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 ビジネスエンティティサービスガイド*』を参照してください。

IBM DB2 用の予約キーワード

IBM DB2 環境で、予約キーワード MDMNODE および MDMALIAS がデータベース作成に使用されます。IBM DB2 環境ではこれらの語をカラム名に使用できません。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 設定ガイド*』を参照してください。

プロビジョニングツール

プロビジョニングツールは、ビジネスエンティティモデルを作成し、エンティティ 360 フレームワークを設定するためのツールです。ビジネスエンティティモデルを作成するには、ルートノードを作成し、ノード間にリレーションを確立します。このリレーションは、Hub コンソールを使用して定義する外部キー制約に基づいています。ビジネスエンティティモデルを作成してノードを設定したら、MDM Hub に設定をパブリッシュできます。

技術者はプロビジョニングツールを使用して次のタスクを実行できます。

- グラフィックユーザーインタフェースを使用して、ビジネスエンティティモデルを設定します。XML エディタが提供されているため、ビジネスエンティティに関連するすべての設定について、XML ファイルを直接設定できます。
- グラフィックユーザーインタフェースを使用して各ノードのプロパティを設定する。たとえば、検索プロパティと表示名を設定できます。
- XML 構成ファイルを MDM Hub にパブリッシュする。リポジトリマネージャによって設定が検証され、エラーがあった場合には報告されます。BLOB ファイルをリポジトリテーブルに手動でアップロードする必要はありません。

Informatica MDM Multidomain Edition の技術者はプロビジョニングツールを使用して次のアクティビティを実行できます。

- ビジネスエンティティモデルを作成する。カスタムユーザーインタフェースを使用する実装のみが対象です。Informatica Data Director (IDD) でビジネスエンティティを実装している場合はビジネスエンティティモデルを作成できません。
- 参照エンティティを作成する。カスタムユーザーインタフェースを使用する実装のみが対象です。Informatica Data Director でビジネスエンティティを実装している場合は参照エンティティを作成できません。
- ビジネスエンティティノードを設定する。

- ビジネスエンティティモデルの各ノードの検索プロパティを設定する。
- 次の設定のために XML ファイルを生成する。
 - REST サービス
 - 書き込みビジネスエンティティサービス
 - 検索
- エンティティ 360 フレームワークの設定用の XML ファイルを設定する。
- BPM タスクの XML ファイルを設定する。
- ビジネスエンティティビューとトランスフォーメーションサービス用の XML サービスを設定する。
- 構成ファイルを MDM Hub へパブリッシュする。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

設定ツールを使用する場合

環境に基づいて、異なるセットの設定ツールを使用します。

次の表に、環境のタイプと使用するツールを示します。

環境	説明	ツール
Informatica MDM	MDM コンポーネントを使用する。Informatica Data Director やビジネスエンティティサービスは使用しません。	Hub コンソール
Informatica MDM と Informatica Data Director	MDM コンポーネントを使用する。ビジネスユーザー向けの標準ユーザーインターフェースを作成する場合は、Informatica Data Director も使用します。 注: このオプションは、カスタムタブやユーザーイグジットなど、既存の IDD アプリケーションの動作を維持するユーザーをアップグレードするためにサポートされます。	1. Hub コンソール 2. IDD Configuration Manager
Informatica MDM と Informatica Data Director、およびエンティティ 360 フレームワーク	MDM コンポーネントを使用する。エンティティ 360 フレームワークが有効な Informatica Data Director も使用します。	1. Hub コンソール 2. IDD Configuration Manager 3. プロビジョニングツール
Informatica MDM と ビジネスエンティティサービス	MDM コンポーネントを使用する。カスタムアプリケーションから MDM Hub を呼び出すには、ビジネスエンティティサービスも使用します。	1. Hub コンソール 2. プロビジョニングツール

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

Informatica Data Director のバージョン間の差異

以前のバージョンの Informatica Data Director (IDD) では、データはサブジェクト領域を中心に構成され、サブジェクト領域グループに集計されていました。IDD は、サブジェクト領域定義を使用して、オペレーショナル参照ストア (ORS) 内の各外部キーリレーションをどう扱うかを決定していました。

最新バージョンの IDD では、データはビジネスエンティティを中心に構成されます。ビジネスエンティティは、組織にとって意味がある、どのようなものにでもできます。たとえば、組織で「Person」というビジネスエンティティタイプを定義できます。顧客 John Smith は、[Person] タイプのビジネスエンティティになります。MDM Hub Store では、ビジネスエンティティはベースオブジェクトテーブルのレコードに対応します。

次の表に、サブジェクト領域を使用するか、ビジネスエンティティを使用するかによる IDD のバージョン間の差異のいくつかを示します。

サブジェクト領域を使用する IDD	ビジネスエンティティを使用する IDD
サブジェクト領域の深度は 3 レベルに制限される	ビジネスエンティティの深度は無制限
なし	エンティティ 360 フレームワーク
IDD 構成ファイルによるカスタムワークスペース	エンティティ 360 フレームワークで使用可能なカスタム [開始] ワークスペース
静的ルックアップがサポートされる	ルックアップは参照エンティティによってサポートされる
ユーザーイグジットがサポートされる	サーバー側のクレンジングと検証
マスタデータのインポート	マスタデータのインポートはバージョン 10.0.0 HotFix 3 では使用不可

ビジネスエンティティビューおよびトランスフォーメーション

ビジネスエンティティビューを使用して、ビジネスエンティティのデータを、ユーザーに適した複数の形式でユーザーに公開できます。ビジネスエンティティビューにより、低レベルのビジネスエンティティとユーザーインタフェース関連のビューを分離できます。ビジネスエンティティをビジネスエンティティビューに変換でき、また、ビジネスエンティティビューをビジネスエンティティに戻すこともできます。

ビジネスエンティティビュー XML を使用してビジネスエンティティビューを定義したり、トランスフォーメーション構成 XML を使用してビジネスエンティティからビジネスエンティティビューへのトランスフォーメーション（およびその逆）を定義したりできます。プロビジョニングツールを使用して、ビジネスエンティティビューとトランスフォーメーション構成 XML を手動で定義できます。

ビジネスエンティティビューおよびトランスフォーメーションの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.0.0 HotFix 3 プロビジョニングツールガイド』を参照してください。

REST API ビジネスエンティティサービス呼び出し

1 つの REST API ビジネスエンティティサービス要求でさまざまな深度の複数の子ブランチを操作できます。

次の URL サンプルは、REST API 読み取り要求を実行して行 ID 1242 の Person レコード、Address 子ブランチから住所の詳細、Email 子ブランチから電子メールレコードを取得する方法を示しています。

`http://localhost:8080/cmx/cs/localhost-ORCL-DS_UI1/Person/1242?children=Address/Address_Details_1,Email`

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.0.0 HotFix 3 ビジネスエンティティサービスガイド』を参照してください。

複数のタスクアクションのサポート

ActiveVOS ワークフローは、確認者が [タスク] タブを閉じずにタスクに対して複数のアクションを実行できるように設定できます。[タスク] タブを閉じずに複数のアクションをサポートする各タスクアクションに対して、closeTaskViewproperty を false に設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

Hub の設定プロパティ

enableCreateBEMenuGrouping Hub 設定プロパティを使用して、サブジェクト領域グループに基づいて論理作成メニューグループを設定できます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 Informatica Data Director 実装ガイド*』の「[作成] メニュー内のグループの追加」を参照してください。

検索クエリ

検索クエリを作成して、サブジェクト領域の一部ではないパッケージカラムを含めることができます。検索結果には、クエリの作成に使用するすべてのパッケージカラムを表示できます。

言語表示

Informatica Data Director は、**[その他のアクション]** メニューにカスタムアクション名がローカライズされた言語で表示されるように設定できます。カスタムアクション名をローカライズするには、カスタムアクション名とローカライズされた値のペアを国際化メッセージバンドルに追加します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

グローバルプロパティ

次のグローバルプロパティを使用して Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を制御することができます。

bulkexportloadsize

Microsoft Excel ファイルにデータをエクスポートするときの、各スレッドのロードの最大サイズを設定します。

exportusingmultithread

Microsoft Excel ファイルにデータをエクスポートするためのマルチスレッドを有効にします。

enableCreateBEMenuGrouping

ビジネスエンティティの [作成] メニューのサブジェクト領域に基づいて論理グループを定義できるかどうかを指定します。このプロパティは、多数のサブジェクト領域がある場合に必要です。

showShadowColumns

相互参照ビューにシャドウカラムを表示するかどうかを指定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

ユーザー認証とパスワード暗号化

Informatica Data Director の URL に認証を設定できます。認証が有効な場合、ユーザーがログインすると、そのユーザー名とパスワードが Informatica Data Director の URL の一部として渡されます。ユーザー名とパスワードを暗号化形式で渡すように Informatica Data Director を設定することもできます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 Informatica Data Director 実装ガイド*』および『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 設定ガイド*』を参照してください。

エンティティビューの機能拡張

次の機能拡張の追加により、エンティティビューのユーザビリティが向上しました。

- エンティティのルートレコードを含むセクションを縮小表示できます。
- フィールドをクリックして編集モードに切り替えることができます。
- 子レコードを含むセクションで、テーブルビュー内の場合にカラムをソートできます。

子レコードのテーブルビュー

子レコードおよび孫レコードのテーブルビューに表示するカラムの数を指定できます。

デフォルトでは、テーブルビューには、最大 20 個のカラムと 5 個の非表示カラムが含まれます。C_REPOS_DS_PREF_DETAIL の tableMaxColumns パラメータを設定して、グローバルなデフォルト値を変更できます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

カスタムビュー

エンティティ 360 フレームワークでカスタムビューを作成して、ビジネスユーザーに役立つマスターデータのビューを表示することができます。カスタムビューを設定するには、プロビジョニングツールのレイアウトエディタを使用してビューレイアウトを設定し、そのカスタムビューをビューメニューに追加します。

カスタムビューの設定に関する詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

Informatica Data Director での [データ] ワークスペースの非表示

Informatica Data Director (IDD) アプリケーションでエンティティ 360 フレームワークを有効にすると、IDD ユーザーは [データ] ワークスペースではなくエンティティワークスペースからマスターデータを編集および管理します。すべての IDD アプリケーションの [データ] ワークスペースと関連するユーザーインタフェース要素を非表示にすることで、IDD ユーザーの混乱を抑えることができます。ワークスペースを非表示にするには、cmx.dataview.enabled を cmxserver.properties ファイル内に設定します。

新しいインストールでは、[データ] ワークスペースはデフォルトで非表示になっています。アップグレード時に cmx.dataview.enabled プロパティが指定されていなかった場合は、[データ] ワークスペースが表示されます。このプロパティが指定されていた場合、IDD アプリケーションは引き続きアップグレード前の設定を優先します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 設定ガイド*』の「Hub サーバーのプロパティ」を参照してください。

ワイルドカード検索

アスタリスクワイルドカード文字（*）を検索文字列に使用してワイルドカード検索を実行できます。ワイルドカード文字は、検索文字列の末尾または中間に使用します。例えば、「John」を検索する場合は、「Jo*」または「J*n」と指定できます。

検索文字列の提案

入力した文字列に基づいて検索文字列を提案するスマート検索を設定できます。提案された値のいずれかを検索文字列として選択できます。

検索文字列を提案するスマート検索の設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 設定ガイド*』を参照してください。

【開始】 ワークスペースの Jaspersoft レポート

ビジネスインテリジェンスツールの Jaspersoft を使用してレポートを開発および分析している場合、IDD のエンティティ 360 フレームワークにレポートを表示できます。Jaspersoft レポートを表示するように【開始】ワークスペースを設定できます。

Jaspersoft レポート設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

関連タスク

タスクマネージャのインボックスの【関連タスク】コンポーネントには、選択したタスクの関連タスクが表示されます。

注: 関連タスクには、BE-ActiveVOS アダプタで作成されたタスクのみが表示されます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 プロビジョニングツールガイド*』を参照してください。

変更内容（10.0.0 HotFix 3）

ここでは、バージョン 10.0.0 HotFix 3 の変更内容について説明します。

Informatica LLC

2015 年 8 月から、すべての Informatica 製品およびマニュアルの「Informatica Corporation」という用語が「Informatica LLC」に置き換わりました。現在の製品またはマニュアルの「Informatica Corporation」という用語は、「Informatica LLC」と読み替える必要があります。

用語の変更

このリリースでは、一部の用語が変更されました。

次の表に、以前の用語と新しい用語の一覧を示します。

以前の用語	新しい用語
複合オブジェクト	ビジネスエンティティ
複合サービス	ビジネスエンティティサービス
エンティティ 360	エンティティ 360 フレームワーク
エンティティ 360 表示	エンティティビュー
360 表示	エンティティビュー

ビジネスエンティティサービスガイド

バージョン 10.0.0 HotFix 3 で、『*Informatica MDM Multidomain Edition Composite Services Guide*』の名前は『*Informatica MDM Multidomain Edition ビジネスエンティティサービスガイド*』に変更されました。

メニューの変更点

エンティティ 360 フレームワークの導入に伴い、ヘッダ-のメニュー項目が変更されました。

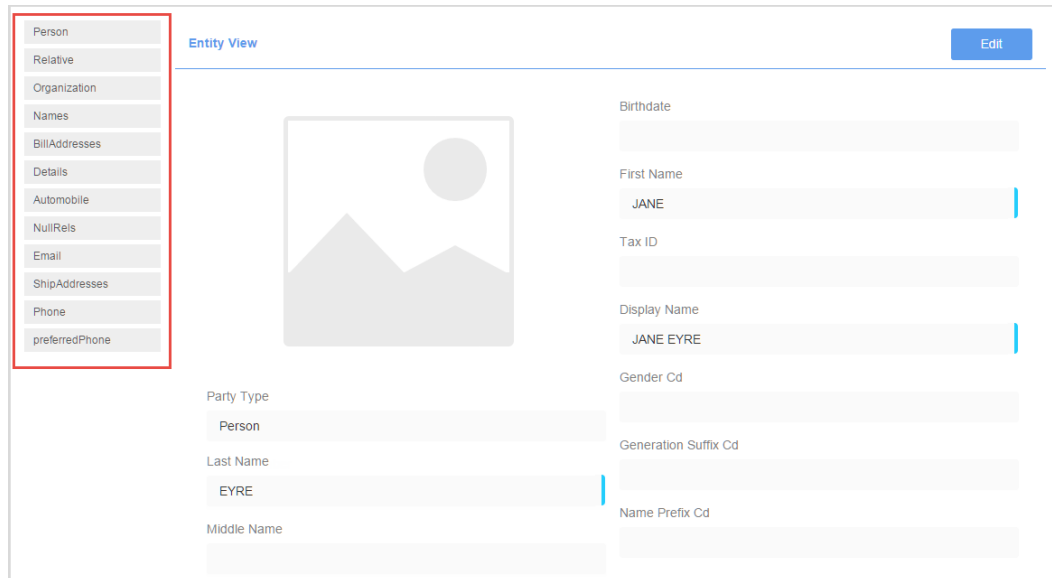
バージョン 10.0 から、**【新規】** メニューの名前が **【新しい SA】** に変更され、**【新しい BE】** という名前の別のメニューが追加されました。バージョン 10.0.0 HotFix 3 から、これらのメニューの名前が変更されわかりやすくなりました。

次の表では、メニューの変更点をまとめています。

バージョン 10.0 より前のメニュー	バージョン 10.0 のメニュー	バージョン 10.0.0 HotFix 3 のメニュー	説明
なし	新しい BE	作成	エンティティビューにビジネスエンティティを作成する。
新規	新しい SA	データビューで作成	データビューのサブジェクト領域にレコードを作成する。バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、データビューが非表示の場合、このメニューも非表示になります。代わりに 【作成】 メニューを使用してください。
クエリ	クエリ	クエリ	データビューの検索機能を使用する。バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、データビューが非表示の場合、このメニューも非表示になります。代わりに 【検索】 ボックスを使用してください。

エンティティビューのナビゲーションメニュー

バージョン 10.0.0 HotFix 3 から、エンティティビューでビジネスエンティティを表示すると、左側にナビゲーションメニューが表示されます。ナビゲーションメニューのセクション名をクリックして、エンティティビューのそのセクションまでスクロールします。



詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 Informatica Data Director ユーザーガイド*』の「ビジネスエンティティの追加」を参照してください。

エンティティビューのセクションのフォームビュー

バージョン 10.0.0 HotFix 3 から、エンティティビューでビジネスエンティティを表示すると、ルートレコードがビューの上部、その子レコードがルートレコードの下にセクションに表示されます。ルートレコードはフォームビューに表示されます。セクションでは、子レコードのビューをテーブルビューまたはフォームビューに切り替えることができます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 Informatica Data Director ユーザーガイド*』の「ビジネスエンティティの追加」を参照してください。

サービス URL

バージョン 10.0.0 HotFix 3 から、Informatica Data Director が SIF 呼び出しのために生成するサービス URL の形式を指定できます。

サービス URL を指定するには、cmxserver.properties ファイルに次のテキストを追加します。

referer.url=http://<local host: ローカルホスト>:<port number: ポート番号>

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

階層キャンバス

バージョン 10.0.0 HotFix 3 から、有効な階層キャンバスでは、ノードテキストは切り捨てられるのではなく、次の行に折り返されます。



BeMDMWorkflow ActiveVOS プロジェクト

バージョン 10.0 HotFix 3 から、リソースキットの BeMDMWorkflow プロジェクトは、タスクインボックスのフィルタリングに関する問題を解決するために変更されました。

以前は、リソースキットの BeMDMWorkflow プロジェクトによって、タスクインボックスのフィルタリングに問題が発生しました。

以前のバージョンからアップグレードする場合は、アップグレード後に BeMDMWorkflow プロジェクトを再デプロイします。ワークフローをカスタマイズした場合は、ActiveVOS Designer を使用して、cs.wsdl ファイルの TaskFilter 複合型内に次のコードを追加します。

```
<xsd:element minOccurs="0" name="overdueOnly" type="xsd:boolean" />
```

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 アップグレードガイド*』を参照してください。

[NULL の更新を許可する] プロパティ

バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、ベストバージョンオブトゥールズを計算するすべてのプロセスが同じ方法で NULL 値を処理します。以前は、プロセスによっては、ステージングテーブルの **[NULL の更新を許可する]** プロパティを無視して、ベースオブジェクトテーブルの **[NULL 値を適用する]** プロパティを使用するものがありました。

ソースシステムがカラムに NULL 値を提供すると、プロセスは、ステージングテーブルにあるそのカラムの **[NULL の更新を許可する]** プロパティの設定を参照します。

- カラムで **[NULL の更新を許可する]** プロパティが有効の場合、プロセスは、ベースオブジェクトレコードに NULL 値を書き込むことができます。
- カラムで **[NULL の更新を許可する]** プロパティが無効の場合、プロセスは、NULL 値の信頼をダウングレードします。
- ステージングテーブルの **[NULL の更新を許可する]** プロパティの設定を解決できない場合、プロセスは、ベースオブジェクトテーブルの **[NULL 値を適用する]** プロパティの設定を使用します。

[NULL の更新を許可する] プロパティの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 3 設定ガイド*』を参照してください。

廃止されたプロパティ

バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、Hub サーバーの次のプロパティが廃止されています。

廃止されたプロパティ	バージョン 10.0.0 HotFix 3 の動作の変更点
cmx.server.batch.load.analyze_threshold_rate	このバージョンには相当するものではありません。
activevos.merge.workflow.operation.name	なし
activevos.workflow.basicSecure	ActiveVOS のセキュリティはアプリケーションサーバーレベルで処理されます。信頼されたユーザーによって、ActiveVOS と MDM Hub が安全に相互作用できるようにします。
cmx.idd.data_import_enabled	なし
solr.allNodesAliveSleepTimeout	なし
teamworks.merge.workflow.guid	なし
zk.allNodesAliveRetries	なし

バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、プロセスサーバーの次のプロパティが廃止されています。

廃止されたプロパティ	バージョン 10.0.0 HotFix 3 の動作の変更点
com.informatica.mdm.overrideNullable	ソースシステムが NULL 値を提供した場合、最も信頼できる値をプロセスが計算する方法を上書きできません。NULL 値を処理する際にプロセスが使用する方法が変更されました。詳細については、 「[NULL の更新を許可する] プロパティ」 (ページ 79) を参照してください。
com.informatica.mdm.promoteNullable	カラムに NULL 値を提供するソースシステムが複数のステージングテーブルを持っている場合、プロセスは、すべてのステージングテーブルの 「[NULL の更新を許可する] プロパティ」 を無視します。代わりにプロセスは、ベースオブジェクトレコードの 「[NULL 値を適用する] プロパティ」 の設定を使用します。

アップグレード後に、廃止されたプロパティがプロパティファイルに残っていても無視されます。廃止されたプロパティは、ファイルから削除しても問題ありません。

SAM 特権

バージョン 10.0.0 HotFix 3 で、[新規] ドロップダウンメニューを IDD で表示するには、関連するベースオブジェクトのサブジェクト領域に作成特権を割り当てる必要があります。特権を割り当てるには、Hub コンソールのセキュリティアクセスマネージャを使用します。

以前は、[新規] ドロップダウンメニューを IDD で表示するには、関連するベースオブジェクトのサブジェクト領域に読み取り特権のみを割り当てる必要がありました。

ギャップを埋めるプロパティ

バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、タイムラインが有効なベースオブジェクトについて、Hub コンソールで [「ギャップを埋める」](#) プロパティを有効にできます。このベースオブジェクトのプロパティを関連するステージ

ングテーブルに設定します。以前は、関連するステージングテーブルの C_REPOS_TABLE によってのみ、**【ギャップを埋める】** プロパティを有効にできました。

ソースシステムキーの保持

バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、ソースシステムキーを保持するオプションが有効な場合、初期データロードと次回以降のすべてのデータロードでソースシステムキーが保持されます。

以前は、ソースシステムキーを保持するオプションが有効な場合、初期データロードのみでソースシステムキーが保持されていました。

INFA_MDM.zip ファイルの削除

バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、廃止されたファイルである INFA_MDM.zip が削除されました。MDMWorkflow.zip ファイルには現在の ActiveVOS ワークフローが含まれます。

タスクマネージャの機能拡張

バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、カラムデータを読みやすくするために、タスクマネージャ内でタスクインボックスがブラウザウィンドウの幅まで広がります。タスクを確認する場合、確認パネルがタスクインボックスの下に開きます。以前は、パネルが並んで表示されました。

マージタスクの機能拡張

バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、**【マージのプレビュー】** のレコードをマージすると、マージの確認が表示されます。以前は、空白のページが表示されました。

一致ビューの機能拡張

バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、一致ビューで**【一致した行を表示】** チェックボックスを選択すると、一致した属性を持つ行を強調表示できます。以前は、行は強調表示されませんでした。

ビジネスエンティティスキーマ

バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、ソートされた検索結果のパジネーションをサポートするようにビジネスエンティティスキーマが更新されました。アップグレード後はビジネスエンティティスキーマを再生成する必要があります。

プロセスサーバーと Hub サーバー間の保護された接続

バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、Hub コンソールでプロセスサーバーを設定するときに、Hub サーバーとの保護された接続を有効にするようにプロパティを設定できます。保護された接続を有効にするには、**【プロセスサーバーの追加/編集】** ダイアログボックスで、**【保護された接続を有効にする (HTTPS)】** を選択します。

以前のリリースでは、保護された接続を設定するために C_REPOS_CLEANSE_MATCH_SERVER テーブルで**【セキュア】** フィールドを 1 に設定する必要がありました。

トークン化プロセス

バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、ベースオブジェクトレコードが「未処理」とマークされると、MDM Hub が一致トークンを生成または更新します。

ベースオブジェクトレコードは、次の条件のすべてを満たすと「未処理」とマークされます。

- 更新がベースオブジェクトの一致カラムに影響を与える。
- 更新後の一致カラムのベストバージョンオブトゥールズ（BVT）が古い値と異なる。

これまで、ベースオブジェクトレコードは、更新されると常に「未処理」とマークされていました。

検索可能なフィールドのプロパティ

バージョン 10.0.0 HotFix 3 では、プロビジョニングツールを使用して検索可能なフィールドのプロパティを設定できます。

これまでは、変更リストを使用するか、C_REPOS_CO_CS_CONFIG リポジトリデータベーステーブルを手動で更新していました。

複数一致インデックス

バージョン 9.7.1 の HotFix で導入された複数一致インデックス機能は、バージョン 10.0.0 以降ではサポートされません。

スキーマの変更の検証

バージョン 10.0.0 HotFix 3 から、Hub コンソールでスキーマを変更すると（ベースオブジェクトへのカラムの追加など）、メタデータの検証で警告が生成されます。スキーマに変更を加えるたびにダミーのメタデータの検証が行われ、C_REPOS_MET_VALID_RESULT テーブルにエントリが追加されます。

第 13 章

新機能と改良点（10.0.0 HotFix 2）

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能（10.0.0 HotFix 2）, 83 ページ](#)
- [変更内容（10.0.0 HotFix 2）, 90 ページ](#)
- [リリースタスク（10.0.0 HotFix 2）, 93 ページ](#)

新機能（10.0.0 HotFix 2）

ここでは、バージョン 10.0.0 HotFix 2 の新しい機能について説明します。

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

バッチジョブ

MDM Hub バッチジョブは、親ベースオブジェクトのマッチパスにあるすべての子ベースオブジェクトで同時に実行できます。

バッチジョブの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 2 設定ガイド*』を参照してください。

Representational State Transfer 複合サービス呼び出し

Representational State Transfer（REST）複合サービス呼び出しを行い、ハブ関連の操作やタスク管理を行うことができます。

REST API は以下の操作に使用します。

- 複合オブジェクトのメタデータ、コンテンツメタデータ、ルックアップデータの取り出し。
- レコードのマージおよびマージ解除。
- 関連するレコードおよび一致するレコードの取り出し。
- 一致するレコードの更新および削除。
- タスクの作成、更新、検索、および実行。

REST API の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.0.0 HotFix 2 複合サービスガイド*』を参照してください。

Simple Object Access Protocol 複合サービス呼び出し

Simple Object Access Protocol (SOAP) API を使用すると、どの複合サービスでも Web サービスとしてアクセスできます。SOAP 呼び出しを介して、複合オブジェクト内にレコードを作成したり、複合オブジェクト内のレコードを更新、削除、検索したりできます。複合オブジェクトのメタデータ、コンテンツメタデータ、ルックアップデータなどを取り出すこともできます。レコードのマージ、マージ解除、照合などの操作も実行できます。SOAP 呼び出しは、タスクの作成、更新、検索、実行にも利用できます。

SOAP API の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.0.0 HotFix 2 複合サービスガイド*』を参照してください。

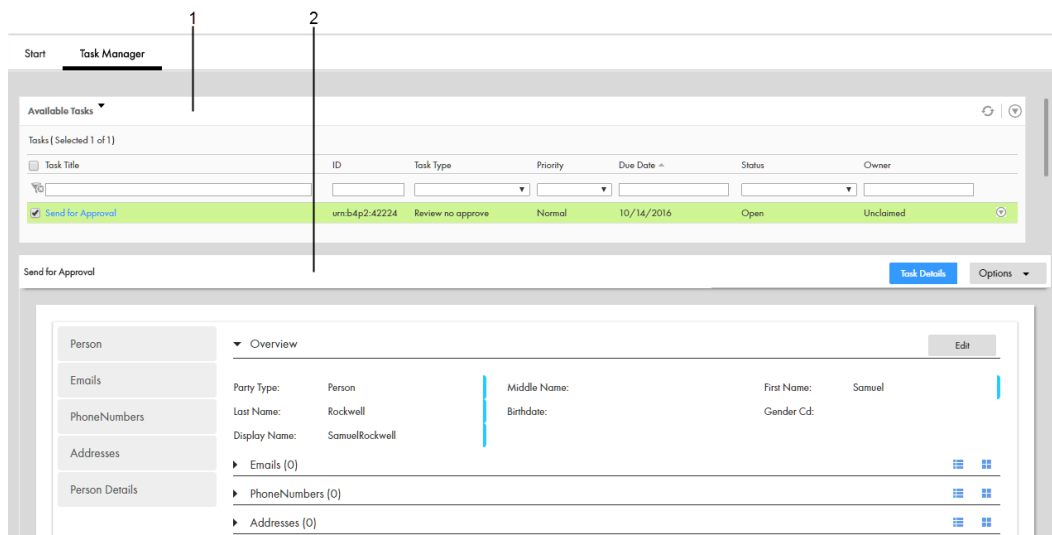
Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

タスクマネージャ

タスクマネージャは、タスクの編成、引き受け、確認、解決などに使用できます。タスクインボックスでは、タスクと、引き受けが解除されたすべてのタスクを確認できます。関連付けられたビジネスエンティティをタスクインボックスの右にある確認パネルで開くには、タスクをクリックします。確認パネルでは、保留中の変更を確認したり、確認タスクに対してアクションを実行したりできます。以前のバージョンで存在したタスクワークスペースは、タスクマネージャによって置き換えられます。

次の図は、タスクが選択された**タスクマネージャ**を示しています。



1. タスクインボックス。
2. 確認パネル。

タスクマネージャはエンティティ 360 フレームワークの一部です。Informatica Data Director でエンティティ 360 フレームワークを有効にするには、`cmxserver.properties` の `cmx.e360.view.enabled` パラメータを `true` に設定します。エンティティ 360 フレームワークの有効化の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.0.0 HotFix 2 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

タスクマネージャの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.0.0 HotFix 2 Informatica Data Director ユーザーガイド*』を参照してください。

タスクインボックス

新しいタスクインボックスは、エンティティ 360 ページへの追加または削除が可能な複合オブジェクトコンポーネントです。デフォルトでは、タスクインボックスは [開始] ワークスペース内とタスクマネージャ内に表示されます。タスクインボックスは、BE-AVOS アダプタまたは SA-AVOS アダプタを介して到着するタスクをサポートします。BE-AVOS アダプタは、複合オブジェクトモデルをサポートする新しい BPM アダプタです。SA-AVOS アダプタは、サブジェクト領域モデルをサポートする従来の BPM アダプタです。

タスクインボックスフィルタ

タスクインボックスでは、フィルタに基づいてタスクを表示できます。[マイタスク] と [実行可能なタスク] を切り替えるには、先頭にあるクイックフィルタを使用します。属性（タスクタイプ、優先度、期限、ステータス、または所有者）でリストをフィルタリングするには、カラムフィルタを使用します。

ビジネスエンティティ

ビジネスエンティティの作成と編集は、エンティティ 360 表示で行うことができます。

ビジネスエンティティを追加または編集するときには、設定したビジネスルールに従って入力するデータが Hub サーバーによって検証されます。

例えば、住所を不正な形式で入力すると、MDM Hub によってその住所が検証され、正しい形式の住所に置き換えられます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.0.0 HotFix 2 Informatica Data Director ユーザーガイド*』を参照してください。

リンクされた画像

リンクされた画像は、エンティティ 360 ビューで表示できます。画像の URL をエンティティ 360 ビューで更新し、リンクされた画像を変更できます。

次の図は、エンティティ 360 ビューにおける画像 URL と、リンクされた画像を示しています。



詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.0.0 HotFix 2 Informatica Data Director User Guide*』を参照してください。

ロギング

メッセージ、エラー、およびフルスタックトレースは、アプリケーションサーバーの cmxserver.log に格納されます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.0.0 HotFix 2 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

スマート検索

検索文字列は、英語、日本語、韓国語、または中国語で入力できます。スマート検索では、検索文字列の言語に一致するフィールドが検索されます。

スマート検索の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10 0.0 HotFix 2 設定ガイド*』を参照してください。

ActiveVOS

このセクションでは、バージョン 10.0.0 HotFix 2 における新しい ActiveVOS 機能について説明します。

自動的なタスクの割り当て

複合オブジェクトに基づく ActiveVOS ワークフローアダプタのタスク割り当てを設定するには、Informatica Data Director 構成ファイルでタスク割り当てを設定します。タスクを直接割り当てることも、タスクマネージャによってタスクがユーザーに割り当てられるようにすることも可能です。

次の図は、[タスクの編集] ダイアログボックス内の自動タスク割り当てオプションを示しています。

The screenshot shows a dialog box titled "Edit Task: Review changes in RED,ANNA". It contains several fields for task configuration:

- Task Title:** Review changes in RED,ANNA
- Priority:** Normal (dropdown menu)
- Due Date:** 2015/08/10 (calendar icon)
- Task Type:** Review No approve
- Subject Area:** Person
- Assign to:** (Auto assign) (dropdown menu, highlighted with a red box)
- Add Comment:** Type Comment (text area)
- All Comments(1):** A list of comments, including one from "admin" dated "Mon, 10 Aug 2015 02:30:57 GMT" with the text "Created a basic business entity for this customer."
- Buttons:** Save and Cancel

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.0.0 HotFix 2 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

自動タスク割り当ての設定パラメータ

MDM Hub の初期化が完了してから自動タスク割り当てが始まるまでの待機時間は、設定が可能です。待機時間を設定しないと、タスクの作成時にエラーが発生する可能性があります。

次のパラメータが `cmxserver.properties` に追加されました。

```
sip.task.assignment.start.delay=10
```

値 `sip.task.assignment.start.delay` は、MDM Hub の初期化が完了してから自動タスク割り当てが始まるまでの待機時間を分単位で表したものです。デフォルトは 10 分です。

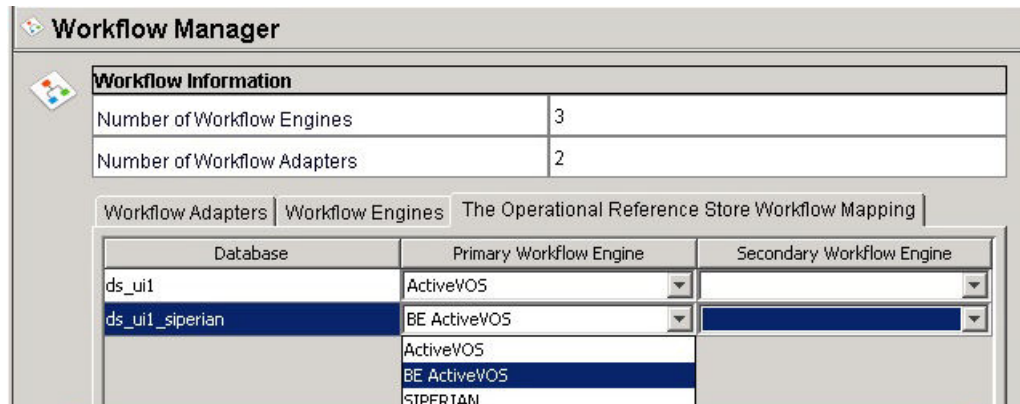
詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.0.0 HotFix 2 設定ガイド*』を参照してください。

複合オブジェクトに基づく ActiveVOS ワークフローアダプタ

ワークフローエンジンは、複合オブジェクトに基づく ActiveVOS ワークフローアダプタを使用するように設定できます。複合オブジェクトに基づく ActiveVOS ワークフローアダプタは、複合サービスを利用して動作します。自動タスク割り当てと直接のタスク割り当てを設定するには、複合オブジェクトに基づく ActiveVOS ワークフローアダプタをプライマリワークフローエンジンとして使用する必要があります。複合オブジェクトに基づく ActiveVOS ワークフローアダプタの名前は、BE ActiveVOS です。

複合オブジェクト ActiveVOS ワークフローエンジンをプライマリワークフローエンジンとして使用することをお勧めします。サードパーティ BPM アダプタまたは Siperian アダプタに基づくワークフローエンジンは非推奨扱いとなっています。非推奨扱いのアダプタは、Informatica によってサポートが継続されますが、今後のリリースで廃止され、サポートされなくなります。

次の図は、`ds_ui1_siperian` ORS のプライマリワークフローとして選択された、複合オブジェクトに基づく ActiveVOS ワークフローアダプタを示しています。



詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.0.0 HotFix 2 設定ガイド*』と『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.0.0 HotFix 2 アップグレードガイド*』を参照してください。

直接のタスク割り当て

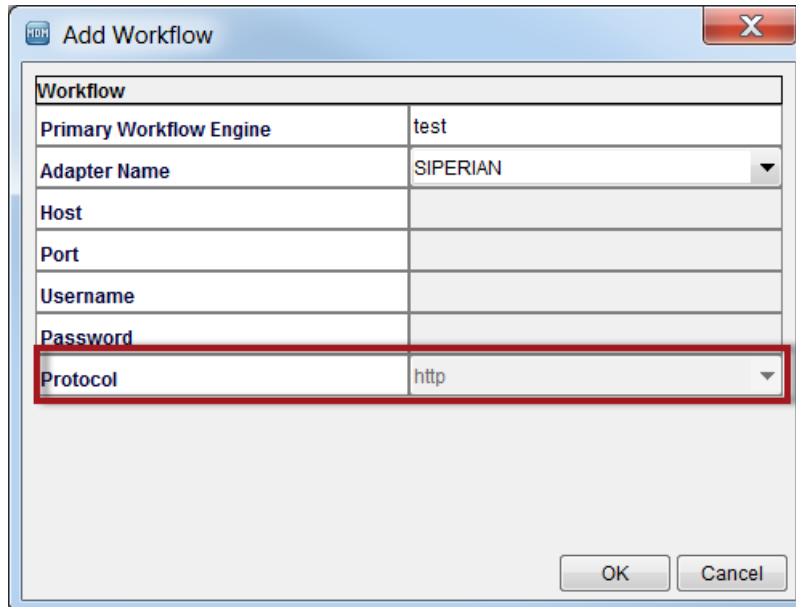
特定のユーザーにタスクを割り当てることができます。タスクを割り当てるときには、タスクの割り当て先として選択できるユーザーのリストが Informatica Data Director によって表示されます。直接のタスク割り当てを有効にするには、複合オブジェクトに基づく ActiveVOS ワークフローアダプタを使用します。直接のタスク割り当ては、サブジェクト領域に基づく ActiveVOS ワークフローアダプタに対しては実行できません。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.0.0 HotFix 2 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

安全な通信

ActiveVOS は、MDM Hub と安全に通信するために HTTP Secure (HTTPS) プロトコルを使用できます。ワークフローエンジン通信プロトコルを http または https に設定するために使用できる新しいパラメータが、Hub コンソールの Workflow Manager に追加されました。

次の図は、[ワークフローの追加] ダイアログボックスのプロトコルパラメータを示しています。



The screenshot shows a dialog box titled "Add Workflow". It contains several input fields: "Primary Workflow Engine" (text: test), "Adapter Name" (dropdown: SIPERIAN), "Host" (empty), "Port" (empty), "Username" (empty), "Password" (empty), and "Protocol" (dropdown: http). The "Protocol" field is highlighted with a red rectangle. At the bottom are "OK" and "Cancel" buttons.

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10 0.0 HotFix 2 アップグレードガイド*』を参照してください。

Informatica Data Director 構成ファイルでのタスク割り当て設定

各サブジェクト領域のタスク割り当ては、Informatica Data Director 構成ファイルで設定できます。

次のコードサンプルは、サブジェクト領域のタスク割り当て設定を示しています。

```
<taskAssignmentConfig task="Update">
  <securityRole roleUid="DataSteward" />
</taskAssignmentConfig>
<taskAssignmentConfig task="ReviewNoApprove">
  <securityRole roleUid="Manager" />
</taskAssignmentConfig>
<taskAssignmentConfig task="FinalReview">
  <securityRole roleUid="SrManager" />
</taskAssignmentConfig>
<taskAssignmentConfig task="Notification">
  <securityRole roleUid="DataSteward" />
</taskAssignmentConfig>
<taskAssignmentConfig task="Merge">
  <securityRole roleUid="DataSteward" />
</taskAssignmentConfig>
<taskAssignmentConfig task="Unmerge">
  <securityRole roleUid="DataSteward" />
</taskAssignmentConfig>
```

Resource Kit

このセクションでは、バージョン 10.0.0 HotFix 2 における新しい Resource Kit 機能について説明します。

Informatica Data Director の設定例

<MDM Hub installation directory: MDM Hub のインストールディレクトリ>\hub\resourcekit\samples\BDD\にある IDConfig_ActiveVOS_BE.xml ファイルは、Informatica Data Director アプリケーションの設定に使用できます。このファイルには、複合オブジェクトに基づく Informatica ActiveVOS ワークフローアダプタのタスク設定が含まれています。このファイルは、Resource Kit に含まれているサンプルスキーマ用に設定されています。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.0.0 HotFix 2 Resource Kit Guide*』を参照してください。

ActiveVOS プロジェクト

BPM サンプルフォルダには、複合オブジェクトに基づく ActiveVOS ワークフローアダプタの ActiveVOS プロジェクトが含まれています。

フォルダ<MDM Hub installation directory: MDM Hub のインストールディレクトリ>\hub\resourcekit\samples\BPM 内のファイル BeMDMWorkflow.zip には、BeMDMWorkflow プロジェクトと BeCommonMDM プロジェクトが含まれています。BeMDMWorkflow プロジェクトには、定義済みの Business Process Execution Language (BPEL) 定義と定義済みのロールが含まれています。BeCommonMDM プロジェクトには、サポート用のリソースが含まれています。これらのプロジェクトは、複合オブジェクトに基づく ActiveVOS ワークフローアダプタに使用されます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Informatica Data Director - Informatica ActiveVOS 統合ガイド*』を参照してください。

変更内容（10.0.0 HotFix 2）

ここでは、バージョン 10.0.0 HotFix 2 の変更内容について説明します。

スキーマツールユーザーインターフェイス

バージョン 10.0.0 HotFix 2 では、子ベースオブジェクト内のレコードの存在に基づいて親レコードをマッチングすべきかどうかを示す手段として、**【子レコードの欠如を許可する】** オプションを使用します。このオプションは、スキーマツールの **【パスコンポーネントの追加】** ダイアログボックスにあります。

以前は、子ベースオブジェクト内のレコードの存在に基づいて親レコードをマッチングすべきかどうかを示すのに、**【子の有無を確認する】** オプションが使用されました。

エンティティ 360 のデフォルト設定

エンティティ 360 ビューのレイアウトまたはコンポーネントを設定しないと、Informatica Data Director によってデフォルトの設定が生成されます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.0.0 HotFix 2 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

承認のために送信

バージョン 10.0 HotFix 2 では、ユーザーはビジネスエンティティの作成または更新時に [承認のために送信] をクリックする必要がありません。ユーザーがビジネスエンティティを作成または更新するとき、[保存] をクリックするとデフォルトの承認ワークフローがトリガされます。

以前は、ユーザーが [保存] をクリックするか [承認のために送信] をクリックするかを判断する必要がありました。

ActiveVOS

このセクションでは、バージョン 10.0.0 HotFix 2 における ActiveVOS の変更点について説明します。

Informatica Data Director 構成ファイルでのタスク設定

バージョン 10.0.0 HotFix 2 では、Informatica Data Director 構成ファイル内のタスク設定パラメータの機能が変更されました。ActiveVOS ワークフローアダプタを使用する場合は、アップグレードの後で IDD 構成ファイルを更新してください。

Informatica Data Director の構成ファイルで以下のタスクパラメータを設定できます。

taskType

タスクタイプを示します。

taskTypeID

プロセス名です。

name

taskType の名前です。この名前は、ActiveVOS ワークフロー設定内のタスクの名前と同じにする必要があります。

次のコードを使用し、サブジェクト領域に基づく ActiveVOS アダプタのタスクを Informatica Data Director 構成ファイル内に設定できます。

```
<tasks includeUnassignedTasks="true">
<!-- Task Definitions -->
  <taskType taskTypeID="IDDMergeTask" name="AVOSMerge" displayName="Merge" creationType="MERGE">
    <description>Merge two records together.</description>
  </taskType>

  <taskType taskTypeID="IDDUUnmergeTask" name="AVOSUnmerge" displayName="Unmerge" creationType="UNMERGE">
    <description>Unmerge an XREF record from a Base Object record.</description>
  </taskType>

  <taskType taskTypeID="IDDOneStepApprovalTask" name="AVOSFinalReview" displayName="Final review"
creationType="NONE">
    <description>Update a record and require the user to go through an approval process before completing the
task.
    </description>
  </taskType>

  <taskType name="Notification" displayName="Notification" creationType="NONE">
    <description>Notification step in the workflow</description>
  </taskType>

  <taskType taskTypeID="IDDTwoStepApprovalTask" name="AVOSReviewNoApprove" displayName="Review no approve"
creationType="NONE" defaultApproval="true">
    <description>Update a record and require the user to go through an approval process before completing the
task.
    </description>
  </taskType>

  <taskType taskTypeID="IDDUUpdateWithApprovalTask" name="Update" displayName="Update" creationType="CREATE">
```

```

        <description>Update a record and do not require the user to go through an approval process before
completing
the task. The approval step is optional.
    </description>
</taskType>
</tasks>

```

次のコードを使用し、複合オブジェクトに基づく ActiveVOS タスクを Informatica Data Director 構成ファイル内に設定できます。

```

<tasks includeUnassignedTasks="true">
<!-- Task Definitions -->
    <taskType taskTypeId="BeMergeTask" name="AVOSBeMerge" displayName="Merge" creationType="MERGE">
        <description>Merge two records together.</description>
    </taskType>

    <taskType taskTypeId="BeUnmergeTask" name="AVOSBeUnmerge" displayName="Unmerge" creationType="UNMERGE">
        <description>Unmerge an XREF record from a Base Object record.
    </description>
    </taskType>

    <taskType taskTypeId="BeOneStepApprovalTask" name="AVOSBeFinalReview" displayName="Final review"
creationType="NONE">
        <description>Update a record and require the user to go through an approval process before completing the
task.
    </description>
    </taskType>

    <taskType name="AVOSBeNotification" displayName="Notification" creationType="NONE">
        <description>Notification step in the workflow</description>
    </taskType>

    <taskType taskTypeId="BeTwoStepApprovalTask" name="AVOSBeReviewNoApprove" displayName="Review no approve"
creationType="NONE" defaultApproval="true">
        <description>Update a record and require the user to go through an approval process before completing the
task.
    </description>
    </taskType>

    <taskType taskTypeId="BeUpdateWithApprovalTask" name="AVOSBeUpdate" displayName="Update"
creationType="CREATE">
        <description>Update a record and do not require the user to go through an approval process before
completing
the task. The approval step is optional.
    </description>
    </taskType>
</tasks>

```

以前は、次のコードを使用してサブジェクト領域に基づく ActiveVOS タスクを Informatica Data Director 構成ファイル内に設定できました。

```

<tasks includeUnassignedTasks="true">
    <taskType creationType="MERGE" dataUpdateType="ACTIVE" defaultApproval="false" displayName="Merge Workflow"
displayType="NORMAL" name="MergeWorkflow" pendingBVT="false" taskTypeId="IDDMergeTask">
        <description>Merge two records together.</description>
    </taskType>

    <taskType creationType="UNMERGE" dataUpdateType="ACTIVE" defaultApproval="false" displayName="Unmerge
Workflow" displayType="NORMAL" name="UnmergeWorkflow" pendingBVT="false" taskTypeId="IDDUUnmergeTask">
        <description>Unmerge an XREF record from a Base Object record.</description>
    </taskType>
</tasks>

<taskType creationType="NONE" dataUpdateType="ACTIVE" defaultApproval="false" displayName="One Step Approval
Workflow" displayType="NORMAL" name="OneStepApprovalWorkflow" pendingBVT="false"
taskTypeId="IDDOneStepApprovalTask">
    <description>Update a record and require the user to go through an approval process before completing the
task.</description>
</taskType>

<taskType creationType="NONE" dataUpdateType="ACTIVE" defaultApproval="false" displayName="Two Step Approval

```

```
Workflow" displayType="NORMAL" name="TwoStepApprovalWorkflow" pendingBVT="false"
taskTypeId="IDDTwoStepApprovalTask">
  <description>Update a record and require the user to go through an approval process before completing the
task.</description>
</taskType>

  <taskType creationType="CREATE" dataUpdateType="ACTIVE" defaultApproval="true" displayName="Update With
Approval Workflow" displayType="NORMAL" name="UpdateWithApprovalWorkflow" pendingBVT="false"
taskTypeId="IDDUpdateWithApprovalTask">
  <description>Update a record and do not require the user to go through an approval process before
completing the task. The approval step is optional.</description>
</taskType>
```

信頼されたユーザー

10.0.0 HotFix 2 で、信頼されたユーザーを介して MDM Hub と ActiveVOS 間の安全な通信を容易に実現できるようになりました。MDM Hub が ActiveVOS に要求を送信するときに、その要求には信頼されたユーザーの資格情報が含まれます。

以前は、MDM Hub はタスクを実行した MDM Hub ユーザーの資格情報が含まれる要求を ActiveVOS に送信しました。

スマート検索

バージョン 10.0 HotFix 2 では、検索ワークスペースに入力するフィルタ値は大文字/小文字の区別がなされません。

以前は、大文字/小文字を区別してフィルタ値を入力する必要がありました。

アップグレード

このセクションでは、バージョン 10.0.0 HotFix 2 におけるアップグレード動作の変更点について説明します。

build.properties ファイル

バージョン 10.0.0 HotFix 2 では、アップグレードプロセスによって、<MDM Hub installation directory: MDM Hub のインストールディレクトリ>\hub\server\bin に置かれた build.properties ファイルが更新されます。

以前は、アップグレードプロセスによって build.properties ファイルが更新されることはありませんでした。

廃止された SIF API

バージョン 10.0 HotFix 2 で、次の SIF API が廃止されました。

- リンク
- Link2

リリースタスク (10.0.0 HotFix 2)

ここでは、バージョン 10.0.0 HotFix 2 のリリースタスクについて説明します。

エンティティ 360

このセクションでは、バージョン 10.0.0 HotFix 2 におけるエンティティ 360 のリリースタスクについて説明します。

パフォーマンス最適化

エンティティ 360 と Informatica Data Director のパフォーマンスを大幅に向上させるには、アプリケーションサーバーの Java 仮想マシンに次のパラメータを追加します。

- JBoss では、JIT コードキャッシュサイズを指定する次のオプションを追加します。
-XX:ReservedCodeCacheSize=256m
- WebLogic では、JIT コードキャッシュサイズを指定する次のオプションを追加します。
-XX:ReservedCodeCacheSize=256m
- WebSphere では、予約コードキャッシュサイズを指定する次のオプションを追加します。
-XX:codecachetotal=256m

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition 10.0.0 HotFix 2 インストールガイド*』を参照してください。

ActiveVOS

このセクションでは、バージョン 10.0.0 HotFix 2 における ActiveVOS のリリースタスクについて説明します。

信頼されたユーザーの作成

10.0.0 HotFix 2 で、信頼されたユーザーを介して MDM Hub と ActiveVOS 間の安全な通信を容易に実現できるようになりました。MDM Hub が ActiveVOS に要求を送信するときに、その要求には信頼されたユーザーの資格情報が含まれます。

MDM Hub サーバーをアップグレードする前に、abTrust ロールを持つユーザーをアプリケーションサーバーに作成する必要があります。abTrust ロールを持つユーザーは、MDM Hub と ActiveVOS によって信頼されます。信頼されるユーザーを設定しないと、ActiveVOS は MDM Hub からの要求を認証できません。

abTrust ロールを持つユーザーをアプリケーションサーバーに追加する方法については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 2 アップグレードガイド*』を参照してください。

サブジェクト領域に基づく ActiveVOS アダプタの IDD 設定の更新

サブジェクト領域に基づく ActiveVOS ワークフローアダプタをタスクマネージャで使用するには、Informatica Data Director 構成ファイルを更新します。Informatica Data Director 構成ファイルを更新しないと、タスクの作成にタスクマネージャを使用できません。

次のコードサンプルは、サブジェクト領域に基づく ActiveVOS タスクを Informatica Data Director 構成ファイルで設定する方法を示しています。

```
<tasks includeUnassignedTasks="true">
<!-- Task Definitions -->
<taskType taskTypeId="IDDMergeTask" name="AVOSMerge" displayName="Merge" creationType="MERGE">
  <description>Merge two records together.</description>
</taskType>

<taskType taskTypeId="IDDUnergeTask" name="AVOSUnmerge" displayName="Unmerge" creationType="UNMERGE">
  <description>Unmerge an XREF record from a Base Object record.</description>
</taskType>

<taskType taskTypeId="IDDOneStepApprovalTask" name="AVOSFinalReview" displayName="Final review"
creationType="NONE">
  <description>Update a record and require the user to go through an approval process before completing the
```

```

task.
  </description>
</taskType>

<taskType name="Notification" displayName="Notification" creationType="NONE">
  <description>Notification step in the workflow</description>
</taskType>

<taskType taskTypeId="IDDTwoStepApprovalTask" name="AVOSReviewNoApprove" displayName="Review no approve"
creationType="NONE" defaultApproval="true">
  <description>Update a record and require the user to go through an approval process before completing the
task.
  </description>
</taskType>

<taskType taskTypeId="IDDUUpdateWithApprovalTask" name="Update" displayName="Update" creationType="CREATE">
  <description>Update a record and do not require the user to go through an approval process before
completing
the task. The approval step is optional.
  </description>
</taskType>
</tasks>

```

第 14 章

新機能、変更点、リリースタスク (10.0.0 HotFix 1)

- [新機能 \(10.0.0 HotFix 1\)](#) , 96 ページ

新機能 (10.0.0 HotFix 1)

ここでは、バージョン 10.0.0 HotFix 1 の新しい機能について説明します。

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

製品使用ツールキット

MDM 環境についての情報を含むカスタマサポート管理ファイルを Informatica に送信するように、MDM Multidomain Edition を設定できます。

MDM 環境情報収集用に製品使用ツールキットを設定する方法の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.0.0 HotFix 1 設定ガイド』を参照してください。

注: Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.0 HotFix 2 では、製品使用ツールキットは DiscoveryIQ と呼ばれていました。

タイムラインのルール

データ変更イベントを追跡するベースオブジェクトに対してロードまたは入力操作を使用する際、MDM Hub によって次の新しいタイムラインのルールが適用されます。

- 既存の相互参照レコード内のデータが変更されると、レコードは更新されますが、新しいレコードバージョンは生成されません。
- 既存の相互参照レコードの有効期間が変更されると、レコードは更新されますが、新しいレコードバージョンは生成されません。
- レコードに新しい有効期間の相互参照レコードが追加されると、新しいレコードバージョンが生成されます。

タイムラインのルールの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.0.0 HotFix 1 設定ガイド』を参照してください。

バッチジョブでの複数のレコードバージョンのロード

複数のレコードバージョンをステージングテーブルからベースオブジェクトの相互参照テーブルに、1つのバッチジョブでロードできます。

複数のレコードバージョンをロードするには、ベースオブジェクトでレコードの有効期間の連続性を設定します。さらに、`cmx.server.batch.load.smart_resequencing` プロパティを `true` に設定して、ベースオブジェクトにロードする際にレコードバージョンが正しい順番でロードされるようにします。

`cmx.server.batch.load.smart_resequencing` プロパティは、`cmxserver.properties` ファイルで設定します。

バッチジョブで複数のレコードバージョンをロードする方法の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

バッチジョブでのレコードバージョンの有効期間の短縮

バッチジョブでレコードバージョンの連続性を保持することで、レコードバージョンの有効期間を短縮できます。

レコードバージョンの有効期間の短縮の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

ステージングテーブルのシステムカラム

バージョン 10.0.0 HotFix 1 では、データ変更イベントを追跡する MDM Hub 機能を拡張するために、ステージングテーブルにシステムカラムが追加されました。

ステージングテーブルに、次のシステムカラムが追加されました。

`PERIOD_REFERENCE_TIME`

更新が必要なレコードバージョンを識別するために、有効期間内の参照日付を指定します。

`TIMELINE_ACTION`

ロードプロセス中にレコードバージョンに対して実行するアクションを指定します。

SIF の API

バージョン 10.0.0 HotFix 1 では、Put および cleansePut SIF の API に要素が追加されました。要素により、タイムラインアクション、有効期間の参照時間が指定され、レコードバージョン間のギャップが埋まります。

以前は、タイムラインアクション、有効期間の参照時間を指定し、レコードバージョン間のギャップを埋める要素は使用できませんでした。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

Informatica Data Director のユーザーインターフェース

Informatica Data Director のユーザーインターフェースには、**【アクション】** メニューにレコードバージョンを編集および追加するための次の新規オプションがあります。

データの編集

既存のレコードのデータを編集します。レコードの有効期間は変更できません。

期間の日付の編集

レコードの有効期間を編集する際に使用します。

新しい期間の作成

新しい有効期間に該当するレコードバージョンを追加する際に使用します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Version 10.0.0 HotFix 1 Informatica Data Director User Guide*』を参照してください。

スマート検索

スマート検索では、Apache Solr の SolrCloud 機能を使用して検索要求のパフォーマンスを向上させます。SolrCloud は、Solr サーバーのクラスタを使用して分散インデックス処理および検索を可能にします。パフォーマンスの結果は、お使いの環境およびスマート検索設定によって異なります。

スマート検索の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 HotFix 1 設定ガイド*』を参照してください。

エンティティ 360 ルックアップリンク

エンティティ 360 データビューでは、ルックアップ複合オブジェクトにリンクするルックアップ値を設定できます。ユーザーはルックアップ値をクリックして、ルックアップ複合オブジェクトを表示できます。

ルックアップリンクの設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Informatica Data Director バージョン 10.0.0 HotFix 1 実装ガイド*』を参照してください。

第 15 章

新機能、変更点、リリースタスク (10.0.0)

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能 \(10.0.0\)](#) , 99 ページ
- [変更内容 \(10.0.0\)](#) , 101 ページ
- [タスクの解放 \(10.0.0\)](#) , 102 ページ

新機能 (10.0.0)

ここでは、バージョン 10.0.0 の新しい機能について説明します。

Informatica MDM Hub

このセクションでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

言語

言語に関連する以下の新機能が使用可能になりました。

- Hub コンソールを起動後、ローカライズ、サポートされている任意の言語でユーザーインターフェースの要素を表示できる。
- スペイン語とブラジルポルトガル語でユーザーインターフェースの全要素を表示するように、MDM Hub を設定できる。

言語の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.0.0 インストールガイド』を参照してください。

複数の MDM Hub マスターデータベース

単一のデータベースインスタンスで複数の MDM Hub マスターデータベースを設定できます。複数の MDM Hub マスターデータベースを設定する際には、MDM Hub マスターデータベースごとに MDM Hub インスタンスをインストールします。

複数の MDM Hub マスターデータベース設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.0.0 インストールガイド』を参照してください。

Informatica プラットホームステージング

MDM Hub と Informatica プラットフォームを統合することで、データ統合サービスを使用してステージプロセスを実行することができます。

Informatica プラットホームステージングの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.0.0 設定ガイド』を参照してください。

Informatica ActiveVOS サーバー

ActiveVOS サーバーをワークフローエンジンとしてインストールし、使用することができます。受注処理の電子メールにはインストーラへのリンクが記載され、MDM Multidomain Edition パッケージには ActiveVOS サーバーのライセンスが同梱されています。ActiveVOS サーバーを Hub サーバーの一部としてインストールすると、組み込みの ActiveVOS サーバーとしてインストールされます。埋め込みインストールでは、ActiveVOS 用の MDM Identity Service が設定され、事前定義された MDM ワークフローとロールが ActiveVOS サーバーにデプロイされます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* インストールガイド』を参照してください。

複合オブジェクト

複合オブジェクトは、ベースオブジェクトをネストした構造体で構成されます。複合オブジェクトは、ルートベースオブジェクトに関連するすべての情報をエンティティ 360 表示で表示するのに必要です。MDM Hub の複合オブジェクトは、Informatica Data Director のサブジェクト領域と概念的に同じです。

複合サービス

複合オブジェクトレコードを作成、更新、削除、および検索する複合サービス呼び出しを行うことができます。Representational State Transfer（表現状態転送: REST）複合サービス呼び出しまたは Enterprise JavaBean (EJB) 複合サービス呼び出しを行うことができます。

複合サービスの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.0.0 設定サービスガイド』を参照してください。

Dynamic Data Masking

Dynamic Data Masking は、MDM Hub とデータベースの間で動作して、機密情報への不正アクセスを防止するデータセキュリティ製品です。Dynamic Data Masking は、データベースに送信された要求をインターセプトし、その要求にデータマスキングルールを適用して、データをマスクしてから MDM Hub に返送します。

Dynamic Data Masking の詳細については、Informatica MySupport ポータル <https://mysupport.informatica.com/product-documents.jspx?containerType=14&containerID=2333> にある「Dynamic Data Masking」のドキュメントを参照してください。

セキュリティガイド

『*Informatica MDM Multidomain Edition* セキュリティガイド』には MDM Hub のセキュリティに関する情報が掲載されています。前バージョンまでは、MDM Hub のセキュリティは『*Informatica MDM Multidomain Edition* 設定ガイド』で説明されていました。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

スマート検索

スマート検索を実行することにより、複合オブジェクトの特定コレクションまたは全コレクション内のデータを検索文字列で検索することができます。Informatica Data Director アプリケーションにより、マッチングされたフィールドが表示されるので、さらにそれを検索して詳細に表示することができます。結果は、検索文字列とのマッチング程度の近さに基づいてランク付けされます。フィルタを適用して結果を絞り込むことができます。結果の詳細はエンティティ 360 表示、データビュー、および階層ビューで表示できます。

言語

スペイン語とブラジルポルトガル語でユーザーインターフェースの全要素を表示するように、Informatica Data Director を設定することができます。

エンティティ 360 表示

エンティティ 360 表示を使用すると、複合オブジェクトのレコードを表示できます。また、あらゆるレベルのレコードも表示できます。さらに、コンポーネントのレイアウトを設定することもできます。複合オブジェクトのレコードに関連する追加情報（マッチや関連するレコードなど）を表示するように、エンティティ 360 表示を設定することも可能です。エンティティ 360 表示はデフォルトでは無効化されています。

グローバルプロパティ

次のグローバルプロパティを使用して Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を制御することができます。

IDD2COCSCConverter.prefixCoNames

Informatica Data Director 設定を複合オブジェクト設定に変換する際に、複合オブジェクト名にプレフィックス付きのサブジェクト領域名が使用されているかどうかを判別します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

Resource Kit

この節では、Resource Kit の新機能および改良点について説明します。

複合サービス呼び出しを行うための Java および JavaScript コードサンプル

Java コードサンプルでは、Enterprise JavaBean (EJB) 複合サービス呼び出しを実行することができます。一方、JavaScript コードサンプルでは、Representational State Transfer (表現状態転送: REST) 複合サービス呼び出しを実行することができます。

これらのコードサンプルは次の Resource Kit の場所にあります。MDM Hub installation directory: MDM Hub のインストールディレクトリ

コードサンプルの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10.0.0 Resource Kit ガイド*』を参照してください。

変更内容 (10.0.0)

このセクションでは、バージョン 10.0.0 における変更点について説明します。

Informatica MDM Hub

このセクションでは、バージョン 10.0.0 における Informatica MDM Hub の変更点について説明します。

アプリケーションサーバーのメモリ設定

バージョン 10.0 では、MDM Multidomain Edition のインストールまたはアップグレードを行う前に、すべてのアプリケーションサーバーのアプリケーションサーバーメモリ設定を以下のパラメータに設定する必要があります。

注: バージョン 10.2 では、廃止された Java オプション（-XX:PermSize および -XX:MaxPermSize）を省略できます。

JBoss および Weblogic

```
-Xms2048m -Xmx4096m -Xss2000k -XX:PermSize=256m -XX:MaxPermSize=1024m
```

WebSphere

```
-Xms2048m -Xmx4096m -Xmso2048m -Xss2000k -XX:PermSize=256m -XX:MaxPermSize=1024m
```

以前は、アプリケーションサーバーのメモリ設定は、以下のパラメータに設定されていました。

JBoss

```
-Xms1024m -Xmx4096m -XX:PermSize=256m -XX:MaxPermSize=1024m
```

WebLogic

```
-Xmx4096m -XX:PermSize=256m -XX:MaxPermSize=1024m
```

WebSphere

```
-XX:MaxPermSize=512m -XX:PermSize=128m -Xss2000k
```

カスタムの MDM Hub マスターデータベースユーザー名

バージョン 10.0.0 から、カスタム MDM Hub マスターデータベースのユーザー名を作成できます。デフォルトは cmx_system です。

以前は、カスタム MDM Hub マスターデータベースのユーザー名は、IBM DB2 環境でしか作成できませんでした。

カスタムの MDM Hub マスターデータベースユーザー名の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 10.0.0 インストールガイド』を参照してください。

タスクの解放（10.0.0）

このセクションでは、バージョン 10.0.0 におけるリリースタスクについて説明します。

Informatica MDM Hub

このセクションでは、バージョン 10.0.0 における Informatica MDM Hub のリリースタスクについて説明します。

プロキシロール

バージョン 10.0.0 から、オペレーショナルリファレンスストアを作成しても、プロキシロールが含まれなくなりました。

バージョン 10.0.0 にアップグレードすると、既存のプロキシロールは削除可能な通常のロールに変換されます。

Siperian BPM ワークフローエンジン

バージョン 10.0.0 から、Siperian BPM ワークフローエンジンが廃止されました。以前は、Siperian BPM ワークフローエンジンが MDM Hub のデフォルトのワークフローエンジンでした。Hub サーバーインストールの環境として、ActiveVOS サーバーをインストールすることをお勧めします。ActiveVOS サーバーは新しいデフォルトのワークフローエンジンです。

このリリースでは、Siperian BPM を引き続き使用できます。アップグレードする前に、Siperian BPM ワークフローエンジンに定義されている設定を書き留めてください。アップグレード後、前のリリースで使用していたのと同じ名前および設定で Siperian BPM ワークフローエンジンを定義します。オペレーショナル参照ストアで Siperian BPM ワークフローエンジンが使用されていることを確認します。

ワークフローエンジンを切り替える場合は、まず開いているタスクを閉じる必要があります。開いているタスクをワークフローエンジン間で移行することはできません。

Siperian BPM から ActiveVOS サーバーに移動する際、次のオプションがあります。

- このリリースにアップグレードする前に、開いているすべてのタスクを閉じます。アップグレード後、アップグレードしたすべてのオペレーショナル参照ストアは ActiveVOS サーバーをワークフローエンジンとして使用します。ActiveVOS サーバーのタスク定義を使用するには、IDD アプリケーションを更新する必要があります。
- このリリースにアップグレードした後に ActiveVOS サーバーに移動する場合、アップグレード後にワークフローエンジンを切り替えることができます。切り替える準備ができれば、開いているすべてのタスクを閉じます。オペレーショナル参照ストアごとに、ワークフローエンジンを Siperian BPM から ActiveVOS サーバーに変更します。ActiveVOS サーバーのタスク定義を使用するには、IDD アプリケーションを更新します。

手順については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 10 HotFix 1 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

サービス統合フレームワーク要求用 EJP プロトコル

バージョン 10.0.0 から、EJB2 プロトコルが廃止されたため、EJB3 プロトコルを使用し、サービス統合フレームワーク（SIF）要求を通じて MDM Hub と通信する必要があります。この EJB プロトコルを使用し、サービス統合フレームワーク（SIF）要求を介して MDM Hub と通信するには、以下のタスクを実行します。

1. 既存の SiperianClient ライブラリクラスを最新バージョンの SiperianClient ライブラリクラスに置き換えます。
SiperianClient ライブラリクラスは、以下のディレクトリにある siperian-api.jar ファイルに含まれています。
 - <Resource Kit のインストールディレクトリ>\sdk\sifsdk\lib
 - <MDM Hub のインストールディレクトリ>\hub\server\lib
2. カスタムの JNDI ルックアップメソッドを使用する場合は、EJB3 の規則に準拠するようにそのメソッドを更新してください。

Informatica Data Director

このセクションでは、バージョン 10.0.0 における Informatica Data Director のリリースタスクについて説明します。

グラフ

バージョン 10.0.0 では、新規顧客またはすでに IBM ILOG グラフソフトウェアのライセンスを保有している既存の顧客に対して、ILOG グラフはサポートされません。

Jaspersoft ソフトウェアを使用して、Informatica Data Director でグラフィカルにデータを表示することをお勧めします。

パート IV: バージョン 9.7.1

この部には、以下の章があります。

- [新機能と改良点 \(9.7.1\) , 106 ページ](#)
- [Informatica MDM Hub の変更点 \(9.7.1\) , 120 ページ](#)
- [Informatica Data Director の変更点 \(9.7.1\) , 128 ページ](#)

第 16 章

新機能と改良点 (9.7.1)

この章では、以下の項目について説明します。

- [バージョン 9.7.1 HotFix 8, 106](#) ページ
- [バージョン 9.7.1 HotFix 7, 108](#) ページ
- [バージョン 9.7.1 HotFix 6, 109](#) ページ
- [バージョン 9.7.1 HotFix 5, 109](#) ページ
- [バージョン 9.7.1 HotFix 4, 111](#) ページ
- [バージョン 9.7.1 HotFix 3, 113](#) ページ
- [バージョン 9.7.1 HotFix 2, 114](#) ページ
- [バージョン 9.7.1 HotFix 1, 116](#) ページ
- [バージョン 9.7.1, 118](#) ページ

バージョン 9.7.1 HotFix 8

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

マージ解除バッチジョブのパフォーマンスの最適化

マージ解除バッチジョブ時には、MDM Hub は子の外部キーレコードの BVT 計算を制限します。

以前は、大量の相互参照レコードと複数の子レコードを持つ基本オブジェクトのマージ解除バッチジョブにより、メモリ不足エラーメッセージが出されて失敗することがありました。

SearchQuery 要求のパフォーマンス最適化

SearchQuery 要求は、保留中のデータ変更を含む結果を基本オブジェクトに返すことができます。

以前は、基本オブジェクトに保留中の変更が含まれている場合に、クエリ結果がタイムアウトしました。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 8 サービス統合フレームワークガイド*』を参照してください。

レガシー XML JMS メッセージのメッセージ ID

レガシー XML 形式の JMS メッセージには、MESSAGE_ID 属性が含まれています。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 8 設定ガイド*』を参照してください。

Informatica AddressDoctor バージョン 5.10

Informatica MDM Multidomain Edition は Informatica AddressDoctor バージョン 5.10 をサポートしています。

Hub サーバーのプロパティ

次の Hub サーバープロパティを使用して、MDM Hub の実行時の動作を制御できます。

cmxserver.properties ファイルの Hub サーバープロパティを設定します。

cmx.server.selective.bvt.enabled

デフォルトでは、Put または Cleanse Put 呼び出しは、レコード内のすべてのフィールドに BVT 計算を適用します。MDM Hub が SIF 要求の一部であるフィールドにのみ BVT 計算を適用するように指定するには、このプロパティを true に設定します。デフォルトは false です。

cmx.server.override_orstyle

Informatica Data Director (IDD) にログインすると、現在のユーザーのタスクがあるすべてのサブジェクト領域の長いタイトルがダッシュボードに表示されます。IDD にログインするときに優先するデフォルトのタイトルを表示するには、cmxserver.properties ファイルで cmx.server.override_orstyle プロパティを優先するタイトルに設定します。

例えば、プロパティを [すべてのサブジェクト領域] に設定した場合、画面上のタイトルは **[すべてのサブジェクト領域のタスク]** として表示されます。

Hub サーバープロパティの設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 8 設定ガイド*』を参照してください。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

検索結果から 1 つのレコードをエクスポートするオプション

Informatica Data Director の [検索結果] ページからは、1 つのレコードのみをエクスポートできます。

以前は、選択した行またはすべての行をエクスポートできました。低レベルのユーザーが一度に 1 つのレコードのみをエクスポートするように制限すると、データセット全体がエクスポートされるのを防ぐことができます。

1 つのレコードのエクスポートを有効にするには、Hub コンソールの [セキュリティアクセスマネージャ] の [ロール] ツールを使用します。選択したロールに対して特権 EXPORT_PROFILE/ExecuteSingleRow を有効にします。

ロールとユーザーの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 8 設定ガイド*』を参照してください。

履歴ビューの改良点

履歴ビューで変更の詳細を表示すると、詳細には変更を行ったユーザーの姓と名が含まれます。

以前は、Hub コンソールで設定されたユーザー名のみが変更の詳細に表示されていました。変更の詳細にわかりやすい名前を表示するには、Hub コンソールを起動し、ユーザー定義を更新して姓と名を含めます。

ユーザーの設定の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 8 設定ガイド*』を参照してください。

グローバルプロパティ

Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を、次のグローバルプロパティで制御することができます。

maxXrefSearchReturnCount

カラムをサブジェクト領域のテキスト領域として設定すると、テキスト領域カラムはカラムの順序に関係なく常にレイアウトの下部に表示されます。

レイアウト内でテキスト領域のカラムが指定された順序で表示されるようにするには、false に設定します。サブジェクト領域のテキスト領域のカラムがカラムの順序に関係なくレイアウトの下部に表示されるようにするには、true に設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 8 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

バージョン 9.7.1 HotFix 7

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

WebSphere アプリケーションサーバー V8.5.5 Fix Pack 8 のサポート

WebSphere アプリケーションサーバー V8.5.5 Fix Pack 8 に MDM Multidomain Edition をデプロイできます。

Oracle GoldenGate 12 のサポート

Oracle GoldenGate バージョン 12.1.2.1 は、MDM Multidomain Edition とともに使用します。

Oracle 環境があって、9.0.1 または 9.1.0 からより新しいバージョンの MDM Multidomain Edition にアップグレードする場合は、Oracle GoldenGate ソフトウェアを更新する必要があります。詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 7 Zero Downtime を使用したアップグレードガイド*』を参照してください。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

グローバルプロパティ

Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を、次のグローバルプロパティで制御することができます。

maxXrefSearchReturnCount

Informatica Data Director の検索要求で返される相互参照レコードの最大数を指定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 7 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

バージョン 9.7.1 HotFix 6

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

マージタスク

- マージタスクの一致プレビュー画面が使いやすくなりました。以前は、一致プレビュー画面は読みにくいものでした。
- マージタスクを実行すると、Informatica Data Director によって、マージされたレコードが表示されます。以前は、空白の画面のみが表示されました。

トルコ語の文字

Microsoft SQL Server 環境で検索クエリのトルコ語の文字を照合するように、MDM Hub を設定できます。

以前は、検索にトルコ語の文字が含まれると、MDM Hub は誤った結果を返していました。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 6 Informatica Data Director 実装ガイド*』の「トルコ語の文字」と『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 6 設定ガイド*』の「Hub サーバーのプロパティ」を参照してください。

バージョン 9.7.1 HotFix 5

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

JMS メッセージの並行処理

JMS メッセージを並行で処理し、パブリッシュプロセスのパフォーマンスを強化するように、パブリッシュプロセスを設定できます。

JMS メッセージの並行処理を設定するには、次のプロパティを `cmxserver.properties` ファイルに追加します。

mq.data.change.threads

パブリッシュプロセス中に JMS メッセージを処理するために使用するスレッドの数。

mq.data.change.batch.size

パブリッシュプロセスの各バッチで処理する JMS メッセージの数を指定します。

mq.data.change.timeout

JMS メッセージの処理が許可される時間を指定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 5 設定ガイド*』を参照してください。

トークン化プロセスのパフォーマンス最適化

トークン化プロセスのパフォーマンスを最適化するには、JDBC ローダーに関連する次のプロパティを cmxcleanse.properties ファイルに設定します。

com.informatica.mdm.loader.JdbcLoader.noOfThreads

JDBC ローダーがトークン化プロセス中に使用できるスレッドの数を指定します。

com.informatica.mdm.loader.LoaderThread.insertBlockSize

JDBC ローダーの各スレッドがトークン化プロセス中に処理できるブロックサイズを指定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 5 設定ガイド*』を参照してください。

SearchMatch 要求のパフォーマンス最適化

SearchMatch 要求のパフォーマンスを最適化するには、<MDM Hub Installation Directory>\hub\cleanse\resources\cmxcleanse.properties ファイルで次のプロパティを最適な値に設定します。

cmx.server.match.searcher.database.worker.multithreaded

複数の並行スレッドを使用して検索範囲を処理するには、プロパティを true に設定します。

cmx.server.match.searcher_thread_count

SearchMatch API のスレッド数を設定します。

cmx.server.match.searcher.dbfiltered.max.key.size

DBFILTERED しきい値を指定します。SearchMatch レコードに

cmx.server.match.searcher.dbfiltered.max.key.size プロパティで指定されたキーサイズ値以下の SSA_KEY がある場合に、DBFILTERED 機能が起動されます。

cmx.server.match.searcher.resultset.size

SearchMatch データベースクエリの ResultSet サイズを指定します。

Informatica AddressDoctor バージョン 5.8

Informatica MDM バージョン 9.7.1 HotFix 5 では、Informatica AddressDoctor バージョン 5.8 がサポートされています。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

グローバルプロパティ

次のグローバルプロパティを使用して Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を制御することができます。

proactiveMatchResultSort

一致候補が Informatica Data Director アプリケーションに表示されるソート順を設定します。

showShadowColumns

相互参照ビューにシャドーカラムを表示するかどうかを指定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 5 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

ユーザー認証とパスワード暗号化

Informatica Data Director の URL に認証を設定できます。認証が有効な場合、ユーザーがログインすると、そのユーザー名とパスワードが Informatica Data Director の URL の一部として渡されます。ユーザー名とパスワードを暗号化形式で渡すように Informatica Data Director を設定することもできます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 5 Informatica Data Director 実装ガイド*』および『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 5 設定ガイド*』を参照してください。

バージョン 9.7.1 HotFix 4

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

Oracle Database 12c JDBC ドライバのサポート

Oracle Database 12c JDBC ドライバを使用して、MDM Multidomain Edition のデータベース設定ができます。

JBoss Enterprise Application Platform 6.2.4 のサポート

MDM Hub を JBoss Enterprise Application Platform 6.2.4 にデプロイできます。

WebSphere Application Server V8.5.5 Fix Pack 5 のサポート

WebSphere Application Server V8.5.5 Fix Pack 5 に MDM Multidomain Edition をデプロイできます。

オペレーティングシステムへのサポート

MDM Multidomain Edition は、Intel x86-64（64 ビット）の Windows Server 2012 R2 でサポートされています。

AddressDoctor バージョン 5.7.0 のサポート

MDM Hub で AddressDoctor バージョン 5.7.0 を使用できます。

IBM DB2 データベースのバックアップ

オンラインデータベースバックアップ中に次のタスクを実行するように、MDM Multidomain Edition for IBM DB2 を設定できます。

- オンラインバックアップの間、TRUNCATE 文を DELETE 文でオーバーライドすることで、バッチジョブをオンラインデータベースバックアップと同時に実行する。
- オペレーショナル参照ストアで行レベルのロックが有効な場合、TRUNCATE 文を DELETE 文でオーバーライドすることで、トークン化されたバッチジョブを SIF API と並行して実行する。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 4 設定ガイド*』を参照してください。

バッチジョブ

MDM Hub バッチジョブは、親ベースオブジェクトのマッチパスにあるすべての子ベースオブジェクトで同時に実行できます。

バッチジョブの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 4 設定ガイド*』を参照してください。

メッセージトリガ

メッセージトリガを設定するには、[データをマージしています。ベースオブジェクトが更新されました。] イベントを選択するときに、変更されたらメッセージをトリガする特定の列を選択できます。

メッセージトリガの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 4 設定ガイド*』を参照してください。

IBM DB2 でのジョブのロード

IBM DB2 環境で、複数のルックアップテーブルを使用したジョブのロードを設定して実行を高速化できます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 4 設定ガイド*』を参照してください。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

グローバルプロパティ

次のグローバルプロパティを使用して Informatica Data Director アプリケーションの実行時の動作を制御することができます。

force_https

事前設定済みの負荷分散されたサービス URL が、http ではなく https を使用してサービスを呼び出すかどうかを指定します。

<IDD application name>.orsDefaultCalendarTime

Informatica Data Director アプリケーションのカレンダーのデフォルト時間（24 時間形式）を指定します。

isEffectiveDateIncluded

Informatica Data Director での検索クエリに「有効日付」フィールドを含めるかどうかを指定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 4 Informatica Data Director 実装ガイド*』および『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 4 設定ガイド*』を参照してください。

リソースキット

この節では、リソースキットの新機能および改良点について説明します。

ActiveVOS プロジェクト

BPM サンプルフォルダに新規 ActiveVOS プロジェクトが含まれています。

ファイル MDMWorkflow.zip（フォルダ <MDM Hub installation directory: MDM Hub のインストールディレクトリ>\hub\resourcekit\samples\BPM\ActiveVOS 内）には、MDMWorkflow プロジェクトと CommonMDM プロジェクトが含まれています。MDMWorkflow プロジェクトには、定義済みの Business Process Execution Language (BPEL) 定義と定義済みのロールが含まれています。CommonMDM プロジェクトには、サポート用のリソースが含まれています。

重要: 同じフォルダにあるファイル INFA_MDM.zip は使用しないでください。INFA_MDM プロジェクトは廃止されており、Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 4 では機能しません。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 4 Informatica Data Director - Informatica ActiveVOS 統合ガイド*』を参照してください。

バージョン 9.7.1 HotFix 3

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

Zero Downtime を使用したアップグレード

Zero Downtime を使用してプロダクション環境をアップグレードできます。

Zero Downtime を使用したアップグレードの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 3 Zero Downtime を使用したアップグレードガイド*』を参照してください。

Oracle Database 12c のサポート

Oracle Database 12c で MDM Multidomain Edition を使用できます。

Oracle WebLogic Server 12c のサポート

Oracle WebLogic Server 12c に MDM Multidomain Edition をデプロイできます。

カスタムの MDM Hub マスタデータベースユーザー名

IBM DB2 環境で、カスタムの MDM Hub マスタデータベースユーザー名を作成できます。デフォルトは cmx_system です。

カスタムの MDM Hub マスタデータベースユーザー名の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 3 インストールガイド*』を参照してください。

カスタムのオペレーショナル参照ストアユーザー名

IBM DB2 環境で、カスタムのオペレーショナル参照ストアユーザー名を作成できます。デフォルトは、オペレーショナル参照ストアのスキーマ名と同じです。

カスタムのオペレーショナル参照ストアユーザー名の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 9.7.1 HotFix 3 インストールガイド』を参照してください。

セキュリティアクセスマネージャ

セキュリティアクセスマネージャでユーザーを特定のグループに割り当てると、ユーザーリストがアルファベット順で表示されます。

トークン化

トークン化をマルチスレッドモードで実行できます。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

Microsoft Internet Explorer 11 のサポート

Microsoft Windows 8.1 の Microsoft Internet Explorer 11 で Informatica Data Director アプリケーションを実行できます。

階層ビュー

階層ビュー内のすべてのエンティティの非アクティブなリレーションがユーザーに表示されるよう、階層ビューを設定できます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 9.7.1 HotFix 1 *Informatica Data Director* 実装ガイド』を参照してください。

マルチスレッドクエリ

マルチスレッドを使用してロードされるようにクエリを設定できます。マルチスレッドクエリではロードが速くなるため、検索も速くなります。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition* バージョン 9.7.1 HotFix 3 *Informatica Data Director* 実装ガイド』を参照してください。

バージョン 9.7.1 HotFix 2

Informatica MDM Hub

ここでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

MDM 環境情報の収集

MDM 環境についての情報を含むカスタマサポート管理ファイルを Informatica に送信するように、MDM Multidomain Edition を設定できます。

MDM 環境情報収集用に Informatica DiscoveryIQ を設定する方法の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 2 設定ガイド*』を参照してください。

タイムラインのルール

データ変更イベントを追跡するベースオブジェクトに対してロードまたは入力操作を使用する際、MDM Hub によって次の新しいタイムラインのルールが適用されます。

- 既存の相互参照レコード内のデータが変更されると、レコードは更新されますが、新しいレコードバージョンは生成されません。
- 既存の相互参照レコードの有効期間が変更されると、レコードは更新されますが、新しいレコードバージョンは生成されません。
- レコードに新しい有効期間の相互参照レコードが追加されると、新しいレコードバージョンが生成されます。

タイムラインのルールの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 2 設定ガイド*』を参照してください。

バッチジョブでの複数のレコードバージョンのロード

複数のレコードバージョンをステージングテーブルからベースオブジェクトの相互参照テーブルに、1 つのバッチジョブでロードできます。

複数のレコードバージョンをロードするには、ベースオブジェクトでレコードの有効期間の連続性を設定します。さらに、`cmx.server.batch.load.smart_resequencing` プロパティを `true` に設定して、ベースオブジェクトにロードする際にレコードバージョンが正しい順番でロードされるようにします。

`cmx.server.batch.load.smart_resequencing` プロパティは、`cmxserver.properties` ファイルで設定します。

バッチジョブで複数のレコードバージョンをロードする方法の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 2 設定ガイド*』を参照してください。

バッチジョブでのレコードバージョンの有効期間の短縮

バッチジョブでレコードバージョンの連続性を保持することで、レコードバージョンの有効期間を短縮できます。

レコードバージョンの有効期間の短縮の詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 2 設定ガイド*』を参照してください。

リポトリテーブルのカラム

バージョン 9.7.1 HotFix 2 では、`TIMELINE_FILL_ON_GAP` カラムがオペレーショナル参照ストアの `C_REPOS_TABLE` に追加されました。`TIMELINE_FILL_ON_GAP` 値は、ロードジョブ中にレコードバージョンの連続性を保持します。

物理削除の検出

Microsoft SQL Server 環境で物理削除を検出できます。

物理削除の検出の詳細については、『*MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 2 設定ガイド*』を参照してください。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

Informatica Data Director のユーザーインターフェース

Informatica Data Director のユーザーインターフェースには、**【アクション】** メニューにレコードバージョンを編集および追加するための次の新規オプションがあります。

データの編集

既存のレコードのデータを編集します。レコードの有効期間は変更できません。

期間の日付の編集

レコードの有効期間を編集する際に使用します。

新しい期間の作成

新しい有効期間に該当するレコードバージョンを追加する際に使用します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 2 Informatica Data Director ユーザーガイド*』を参照してください。

ユーザーイグジット

承認操作のために保存または送信中にユーザーイグジットを使用する際、タイムラインの編集モードを決定できます。承認操作のために保存または送信中にユーザーイグジットを使用する際、**【既存の期間の更新】** チェックボックスの状態を決定することもできます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 2 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

バージョン 9.7.1 HotFix 1

ここでは、バージョン 9.7.1 HotFix 1 の新機能および改良点について説明します。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

言語表示

インターフェースの要素がすべてロシア語で表示されるよう Informatica Data Director を設定できます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 1 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

子オブジェクトのデータセキュリティフィルタ

1 対多の子オブジェクトおよび多対多の子オブジェクトに対応するように、BDDConfig.xml ファイル内の dataSecurity パラメータを設定できます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 1 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

継承されたロールのデータセキュリティフィルタ

親ロールから派生した、継承されたロールに対応するようにデータセキュリティフィルタを設定できます。継承されたロールに対応するデータセキュリティフィルタを設定するには、BDDConfig.xml ファイルで securityFilter パラメータの affectFilter 属性を設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 1 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

データビュー

tabsExpandByDefault プロパティを設定すると、データビューで子の詳細ビューを拡張することができます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 1 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

階層ビュー検索ページ

データビューの [検索] ページでは、表示するレコード数をリストから選択できます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 1 Informatica Data Director ユーザーガイド*』を参照してください。

階層ビュー

階層ビュー内のすべてのエンティティの非アクティブなリレーションがユーザーに表示されるよう、階層ビューを設定できます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 1 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

一致ビュー

一致ビューでレコードを開いたときに [リレーション] タブに子レコードが表示されないように needLoadChildOnOpen プロパティを設定して、パフォーマンスを高めることができます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 1 Informatica Data Director 実装ガイド*』を参照してください。

ActiveVOS の統合

9.7.1 HotFix 1 では、ナレッジベース記事 KB280396 に最新バージョンの MDMWorkflow.zip ファイルが添付されています。KB280396 に添付された MDMWorkflow.zip ファイルには、タスク名が更新されている CommonMDM プロジェクトおよび MDMWorkflow プロジェクトが含まれています。

以前は、最新バージョンの MDMWorkflow.zip ファイルはリソースキットに含まれて提供されていました。ナレッジベース記事 KB280396 の KB280396_MDMWorkflow.zip ファイルには、最新バージョンの MDMWorkflow.zip ファイルが含まれています。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 1 Informatica Data Director - Informatica ActiveVOS 統合ガイド*』を参照してください。

バージョン 9.7.1

このセクションでは、バージョン 9.7.1 の新機能および改良点について説明します。

Informatica MDM Hub

このセクションでは、Informatica MDM Hub の新機能および改良点について説明します。

データ暗号化

MDM Hub 実装内の機密データをセキュアに保つために、データ暗号化を設定できます。機密データを暗号化された形式でデータベースに保存し、Hub サーバー、Process サーバー、Informatica Data Director に転送できます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 設定ガイド*』を参照してください。

近接検索

近接検索を実行して、指定するジオコード半径内のレコードを検索できます。近接検索を設定するために、MDM Hub では、あいまい一致カラムにジオコードフィールド名が提供されます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 設定ガイド*』を参照してください。

ORS 固有の API

API を生成するリポトリオブジェクトのステータスを SIF マネージャツールで確認できます。API を生成する特定のリポトリオブジェクトを選択することもできます。MDM Hub は ORS 固有の API を生成およびデプロイするときに、一意のバージョン ID を生成します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 設定ガイド*』を参照してください。

Hub コンソールに対応する複数の EJB クライアント

Hub コンソールに使用する JBoss EJB クライアントを選択できます。cmxserver.properties ファイルで EJB クライアントを設定します。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 インストールガイド*』を参照してください。

ロック

Hub コンソールを使用して、MDM Hub でロックを取得しているユーザーを特定できます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 設定ガイド*』を参照してください。

WebSphere 管理セキュリティ

WebSphere 管理セキュリティを設定して、MDM Hub による WebSphere 管理コンソールへのアクセスを制御できます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 インストールガイド*』を参照してください。

WebSphere アプリケーションサーバーのバージョン 8.5.5 のサポート

WebSphere アプリケーションサーバーバージョン 8.5.5 に MDM Multidomain Edition をデプロイできます。

バッチマージ解除

ExecuteBatchUnmerge SIF API を実行することでバッチマージ解除を実施できます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition サービス統合フレームワークガイド*』を参照してください。

Informatica Data Director

ここでは、Informatica Data Director の新機能および改良点について説明します。

タイムラインが有効なエンティティのマージ

現在の日付以外の有効日に対してタイムラインが有効なエンティティをマージできます。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 Informatica Data Director ユーザーガイド*』を参照してください。・

第 17 章

Informatica MDM Hub の変更点 (9.7.1)

この章では、以下の項目について説明します。

- [BeMDMWorkflow ActiveVOS プロジェクト, 121 ページ](#)
- [\[NULL の更新を許可する\] プロパティ, 121 ページ](#)
- [プロセスサーバーの廃止されたプロパティ, 122 ページ](#)
- [MDM Multidomain Edition 用の iPad アプリの廃止, 122 ページ](#)
- [ギャップを埋める, 122 ページ](#)
- [AddressDoctor フィールド \[都道府県項目 1|ISO\] , 122 ページ](#)
- [ソースシステムキーの保持, 123 ページ](#)
- [\[NULL の更新を許可する\] プロパティ, 123 ページ](#)
- [INFA_MDM.zip ファイルの削除, 123 ページ](#)
- [廃止された SIF API, 123 ページ](#)
- [トークン化およびマージプロセス最適化のプロパティ, 123 ページ](#)
- [DiscoveryIQ, 124 ページ](#)
- [MDM の PowerCenter のカスタムトランスフォーム, 124 ページ](#)
- [データベースプロキシロール, 124 ページ](#)
- [プロキシロール, 125 ページ](#)
- [SIF の API, 125 ページ](#)
- [ステージングテーブルのシステムカラム, 125 ページ](#)
- [バッチマージ解除, 125 ページ](#)
- [IBM DB2 セットアップ, 126 ページ](#)
- [SIF マネージャのユーザーインタフェース, 126 ページ](#)
- [ユーザーイグジットサービス統合フレームワーク API, 126 ページ](#)
- [アドレスフィールドのあいまい一致, 126 ページ](#)
- [マージ後ユーザーイグジット, 126 ページ](#)
- [マージ解除前ユーザーイグジット, 127 ページ](#)
- [マージ解除後ユーザーイグジット, 127 ページ](#)
- [WebSphere 用 Secure Sockets Layer プロトコル, 127 ページ](#)
- [PUT 要求での検証, 127 ページ](#)

BeMDMWorkflow ActiveVOS プロジェクト

バージョン 9.7.1 HotFix 8 から、リソースキットの BeMDMWorkflow プロジェクトは、タスクインボックスのフィルタリングに関する問題を解決するために変更されました。アップグレード後に BeMDMWorkflow プロジェクトを再デプロイする必要があります。

ワークフローをカスタマイズした場合は、ActiveVOS Designer を使用して、cs.wsdl ファイルの TaskFilter 複合型内に次のコードを追加します。

```
<xsd:element minOccurs="0" name="overdueOnly" type="xsd:boolean" />
```

コードを追加したら、プロジェクトを再デプロイします。

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 8 アップグレードガイド*』を参照してください。

[NULL の更新を許可する] プロパティ

バージョン 9.7.1 HotFix 8 では、ベストバージョンオブトゥールズを計算するすべてのプロセスが同じ方法で NULL 値を処理します。以前は、プロセスによっては、ステージングテーブルの **[NULL の更新を許可する]** プロパティを無視して、ベースオブジェクトテーブルの **[NULL 値を適用する]** プロパティを使用するものがありました。

ソースシステムがカラムに NULL 値を提供すると、プロセスは、ステージングテーブルにあるそのカラムの **[NULL の更新を許可する]** プロパティの設定を参照します。

- カラムで **[NULL の更新を許可する]** プロパティが有効の場合、プロセスは、ベースオブジェクトレコードに NULL 値を書き込むことができます。
- カラムで **[NULL の更新を許可する]** プロパティが無効の場合、プロセスは、NULL 値の信頼をダウングレードします。
- ステージングテーブルの **[NULL の更新を許可する]** プロパティの設定を解決できない場合、プロセスは、ベースオブジェクトテーブルの **[NULL 値を適用する]** プロパティの設定を使用します。

[NULL の更新を許可する] プロパティの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 8 設定ガイド*』を参照してください。

プロセスサーバーの廃止されたプロパティ

バージョン 9.7.1 HotFix 8 では、プロセスサーバーの次のプロパティが廃止されています。

廃止されたプロパティ	バージョン 9.7.1 HotFix 8 の動作の変更点
com.informatica.mdm.overrideNullable	ソースシステムが NULL 値を提供した場合、最も信頼できる値をプロセスが計算する方法を上書きできません。NULL 値を処理する際にプロセスが使用する方法が変更されました。詳細については、 「[NULL の更新を許可する] プロパティ」 (ページ 121) を参照してください。
com.informatica.mdm.promoteNullable	カラムに NULL 値を提供するソースシステムが複数のステージングテーブルを持っている場合、プロセスは、すべてのステージングテーブルの [NULL の更新を許可する] プロパティを無視します。代わりにプロセスは、ベースオブジェクトレコードの [NULL 値を適用する] プロパティの設定を使用します。

アップグレード後に、廃止されたプロパティがプロパティファイルに残っていても無視されます。廃止されたプロパティは、ファイルから削除しても問題ありません。

MDM Multidomain Edition 用の iPad アプリの廃止

バージョン 9.7.1 HotFix 8 から、Informatica MDM Multidomain Edition の iPad アプリは廃止されました。デバイスが多様化する中で、お客様やパートナー様がモバイル MDM サイトまたはアプリを容易に作成できるようにするために、Informatica では、HTML5、Angular.js、Bootstrap などの最新の Web 標準に準拠した、応答性の良いインターフェースを開発しています。

ギャップを埋める

バージョン 9.7.1 HotFix 6 では、タイムラインが有効なベースオブジェクトについて、Hub コンソールで **「ギャップを埋める」** プロパティを有効にできます。このベースオブジェクトのプロパティに関連するステージングテーブルに設定します。

以前は、関連するステージングテーブルの C_REPOS_TABLE によってのみ、**「ギャップを埋める」** プロパティを有効にできました。

AddressDoctor フィールド **「都道府県項目 1|ISO」**

バージョン 9.7.1 HotFix 6 では、AddressDoctor フィールド **「都道府県項目 1|ISO」** を Hub コンソールのクレンジング関数ツールのカラムとして追加できます。

「都道府県項目 1|ISO」 フィールドを使用するには、Hub コンソールの AddressDoctor 関数を更新します。

ソースシステムキーの保持

バージョン 9.7.1 HotFix 5 では、ソースシステムキーを保持するオプションが有効な場合、初期データロードと次回以降のすべてのデータロードでソースシステムキーが保持されます。

以前は、ソースシステムキーを保持するオプションが有効な場合、初期データロードのみでソースシステムキーが保持されていました。

[NULL の更新を許可する] プロパティ

バージョン 9.7.1 HotFix 5 では、1 つのソースシステムが複数のステージングテーブルに値を提供し、それらのステージングテーブルで NULL 更新を許可するすべてのオプションが有効であるとは限らない場合、信頼計算時に NULL 値を含める必要があるかどうかを設定できます。

以前は、1 つのソースシステムが複数のステージングテーブルに値を提供し、それらのステージングテーブルで NULL 更新を許可するすべてのオプションが有効であるとは限らない場合、NULL ではない値が勝つ可能性がありました。

INFA_MDM.zip ファイルの削除

バージョン 9.7.1 HotFix 5 では、廃止されたファイルである INFA_MDM.zip が削除されました。MDMWorkflow.zip ファイルには現在の ActiveVOS ワークフローが含まれます。

廃止された SIF API

バージョン 9.7.1 HotFix 4 で、次の SIF API が廃止されます。

- リンク
- Link2

トークン化およびマージプロセス最適化のプロパティ

バージョン 9.7.1 HotFix 4 で、トークン化およびマージプロセスを最適化するには、cmxcleanse.properties ファイルの次の最適化プロパティを設定します。

`cmx.server.stripDML.blockSize`

トークン化プロセス中に各ブロックで MDM Hub が処理するレコードの数。

`cmx.server.stripDML.noOfThreadsForInsert`

MDM Hub が一致キーテーブルにレコードを挿入するために使用するスレッドの数。

cmx.server.stripDML.noOfThreadsForUpdate

MDM Hub が一致キーテーブルのレコードを更新するために使用するスレッドの数。

cmx.server.stripDML.noOfThreadsForDelete

MDM Hub が一致キーテーブルからレコードを削除するために使用するスレッドの数。

これまでは、トークン化およびマージプロセスを最適化する場合、cmxcleanse.properties ファイルの次の最適化プロパティを設定することができました。

- cmx.server.batch.sql.block_size
- cmx.server.batch.strp_ins_threads_per_job
- cmx.server.batch.strp_upd_threads_per_job
- cmx.server.batch.strp_del_threads_per_job

トークン化プロセスの詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition バージョン 9.7.1 HotFix 4 設定ガイド*』を参照してください。

DiscoveryIQ

バージョン 9.7.1 HotFix 3 では、DiscoveryIQ は「製品使用ツールキット」という名前に変更されます。

MDM の PowerCenter のカスタムトランスフォーム

バージョン 9.7.1 HotFix 3 では、MDM の PowerCenter のカスタムトランスフォームを使用できます。

バージョン 9.6.1 HotFix では、MDM の PowerCenter のカスタムトランスフォームが要求に応じて Oracle でのみ使用できました。

データベースプロキシロール

バージョン 9.7.1 HotFix 3 では、MDM Multidomain Edition for IBM DB2 で、スキーマオブジェクトの作成および削除権限を持つデータベースプロキシロールを作成できます。

バージョン 9.7.1 HotFix 2 では、データベースプロキシロールにスキーマオブジェクトの作成および削除権限がありませんでした。

プロキシロール

バージョン 9.7.1 HotFix 2 では、MDM Multidomain Edition for IBM DB2 にプロキシロールを使用できます。オペレーショナル参照ストアユーザーではない代替データベースユーザーを使用して、MDM Hub のメタデータにアクセスして変更できます。

バージョン 9.6.1 では、プロキシロールはサポートされていませんでした。バージョン 9.6.1 より前は、IBM DB2 データベースで IBM DB2 のプロキシロールを作成できました。以前は、MDM Hub のメタデータにアクセスして変更できるのは、オペレーショナル参照ストアユーザーのみでした。

SIF の API

バージョン 9.7.1 HotFix 2 では、Put および cleansePut SIF の API に要素が追加されました。要素により、タイムラインアクション、有効期間の参照時間が指定され、レコードバージョン間のギャップが埋まります。

以前は、タイムラインアクション、有効期間の参照時間を指定し、レコードバージョン間のギャップを埋める要素は使用できませんでした。

ステージングテーブルのシステムカラム

バージョン 9.7.1 HotFix 2 では、データ変更イベントを追跡する MDM Hub 機能を拡張するために、ステージングテーブルにシステムカラムが追加されました。

ステージングテーブルに、次のシステムカラムが追加されました。

PERIOD_REFERENCE_TIME

更新が必要なレコードバージョンを識別するために、有効期間内の参照日付を指定します。

TIMELINE_ACTION

ロードプロセス中にレコードバージョンに対して実行するアクションを指定します。

バッチマージ解除

バージョン 9.7.1 では、バッチマージ解除ジョブは Java コードに基づきます。バッチマージ解除を実施するには、ExecuteBatchUnmerge SIF API を実行する必要があります。

これまでは、バージョン 9.6.0、9.6.1、9.7.0 でバッチマージ解除ジョブを利用できませんでした。バージョン 9.5.1 以前では、バッチマージ解除ジョブは PL/SQL ストアドプロシージャに基づいていました。

IBM DB2 セットアップ

バージョン 9.7.1 では、IBM DB2 を MDM Hub で使用する場合、Oracle 互換モードを有効にしません。

これまでは、IBM DB2 を MDM Hub で使用するには、Oracle 互換モードを有効にする必要がありました。

SIF マネージャのユーザーインタフェース

バージョン 9.7.1 では、生成された ORS 固有の API と同期されていないオブジェクトを検索する場合は、SIF マネージャツールの **[SIF API マネージャ]** タブにある **[オブジェクトステータスの更新]** ボタンを使用します。

これまでは、**[非同期オブジェクトの検出]** ボタンを使用して、生成された ORS 固有の API と同期されていないオブジェクトを検索していました。

ユーザーイグジットサービス統合フレームワーク API

バージョン 9.7.1 では、オペレーショナル参照ストア ID とユーザー名を指定しなくてもユーザーイグジットサービス統合フレームワーク API 要求を作成できます。

これまでは、ユーザーイグジットサービス統合フレームワーク API 要求を作成する場合は、オペレーショナル参照ストア ID とユーザー名を指定する必要がありました。

アドレスフィールドのあいまい一致

バージョン 9.7.1 では、一致過多を防ぐために、照合プロセスは Address_Part1 フィールドに 10 文字以上が含まれる場合にのみ転置エラーを考慮します。例えば、'PO Box 38'は'PO Box 83'と一致しませんが、'13 Capital Street'は'31 Capital Street'と一致します。

以前は、アドレスフィールド内の文字数に関係なく、照合プロセスは転置エラーを考慮していました。

マージ後ユーザーイグジット

バージョン 9.7.1 では、マージ後ユーザーイグジットで以下のメソッドが使用されます。

```
void processUserExit(UserExitContext userExitContext, Map<String, List<String>> baseObjectRowIds) throws Exception;
```

これまでは、マージ後ユーザーイグジットで以下のメソッドが使用されていました。

```
void processUserExit(UserExitContext userExitContext, List<String> baseObjectRowIds) throws Exception;
```

マージ解除前ユーザーイグジット

バージョン 9.7.1 では、マージ解除前ユーザーイグジットで以下のメソッドが使用されます。

```
void processUserExit(UserExitContext userExitContext, Set<UnmergeKey> unmergeKeys) throws Exception;
```

これまでは、マージ解除前ユーザーイグジットで以下のメソッドが使用されていました。

```
void processUserExit(UserExitContext userExitContext, String rowidSystem, String pkeySourceObject) throws Exception;
```

マージ解除後ユーザーイグジット

バージョン 9.7.1 では、マージ解除後ユーザーイグジットで以下のメソッドが使用されます。

```
void processUserExit(UserExitContext userExitContext, Set<PostUnmergeResponse> responses) throws Exception;
```

これまでは、マージ解除後ユーザーイグジットで以下のメソッドが使用されていました。

```
void processUserExit(UserExitContext userExitContext, String rowidObject) throws Exception;
```

WebSphere 用 Secure Sockets Layer プロトコル

バージョン 9.7.1 では、`https://<Hub host>:<port>/cmx/` の URL を指定して Hub コンソールを起動できます。これにより、Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルで、Hub コンソールと Hub サーバー間の WebSphere ネットワーク接続のセキュリティが確保されます。`http://<Hub host>:<port>/cmx/` の URL を指定して Hub コンソールを起動すると、SSL プロトコルは無効になります。

これまでは、SSL プロトコルで Hub コンソールと Hub サーバー間の WebSphere ネットワーク接続のセキュリティを確保するには、`cmxserver.properties` ファイルで `cmx.websphere.ssl.enabled` を `true` に設定する必要がありました。`cmx.websphere.ssl.enabled` パラメータはバージョン 9.7.1 で廃止されました。

PUT 要求での検証

バージョン 9.7.1 では、PUT 要求を使用してカラムを信頼できないと指定すると、MDM Hub はベースオブジェクト内の他のすべての相互参照カラムの信頼を再計算します。

以前は、MDM Hub は PUT 要求で指定されたベースオブジェクトのカラムの信頼のみを引き下げていました。

第 18 章

Informatica Data Director の変更点 (9.7.1)

この章では、以下の項目について説明します。

- [有効期間の更新, 128 ページ](#)
- [タスクの詳細の編集, 128 ページ](#)
- [MDM Hub Sample for ActiveVOS Workflow, 129 ページ](#)
- [タスクの引き受け, 129 ページ](#)
- [ActiveVOS の統合, 129 ページ](#)
- [Informatica Data Director のユーザーインターフェース, 130 ページ](#)
- [有効日フィールド, 130 ページ](#)
- [一致比較パネル, 130 ページ](#)

有効期間の更新

バージョン 9.7.1 HotFix 8 から、**[有効期間を更新できません]** ラベルがチェックボックスに追加されました。これはプライマリオブジェクトまたはエンティティの子レコードあるいは孫レコードを更新せずに、エンティティの有効期間を更新するために使用できます。

以前は、チェックボックスにはラベルはありませんでした。

タスクの詳細の編集

バージョン 9.7.1 HotFix 6 では、ActiveVOS タスクを引き受けると、タスクの所有者のみがタスクの詳細を編集できます。タスクの所有者が対応できない場合、ActiveVOS Central を使用してタスクを再割り当てできます。ActiveVOS Central にログインするには、ActiveVOS ロールの abAdmin と、セキュリティアクセスマネージャの適切なロールがユーザーに必要です。

以前は、ユーザーがタスクを引き受けずに、タスクに割り当てられたタスクの詳細を編集できました。

MDM Hub Sample for ActiveVOS Workflow

Effective in version 9.7.1 HotFix 6, the IDConfigAV.xml configuration file in the Resource Kit enables you to use the MDM Hub sample with the ActiveVOS workflow.

For more information, see the *Informatica MDM Multidomain Edition Version 9.7.1 HotFix 6 Resource Kit Guide*.

タスクの引き受け

バージョン 9.7.1 HotFix 5 では、ユーザーがタスクを引き受けて、タスクの承認、拒否、またはキャンセルを行う必要があります。

以前は、ユーザーがタスクを引き受けずにタスクの承認、拒否、またはキャンセルを行うことができました。

ActiveVOS の統合

9.7.1 HotFix 4 では、ファイル MDMWorkflow.zip (<MDM Hub installation directory: MDM Hub のインストールディレクトリ>resourcekit\samples\BPM\ActiveVOS 内) のプレゼンテーションパラメータが変更されました。

次の表に、変更されたプレゼンテーションパラメータを示します。

パラメータ	タイプ	式
title	文字列	<pre>let \$in := \$ProcessTaskRequest/mdavxsd:INFATask/mdavxsd:taskData/ mdavxsd:title/text() let \$out := abxht:getOutput('processTaskResponse')/mdavxsd:INFATask/ mdavxsd:taskData/mdavxsd:title/text() return substring(concat(\$in, \$out), (1 + (string-length(\$in)) * xsd:int((string- length(\$out) > 0))), string-length(\$out) + (string-length(\$in)) * xsd:int((string-length(\$out) = 0)))</pre>
duedate	文字列	<pre>let \$in := \$ProcessTaskRequest/mdavxsd:INFATask/mdavxsd:taskData/ mdavxsd:dueDate/text() let \$out := abxht:getOutput('processTaskResponse')/mdavxsd:INFATask/ mdavxsd:taskData/mdavxsd:dueDate/text() return xsd:dateTime(substring(concat(\$in, \$out), (1 + (string-length(\$in)) * xsd:int((string-length(\$out) > 0))), string-length(\$out) + (string-length(\$in)) * xsd:int((string-length(\$out) = 0))))</pre>
mdmtasktype	文字列	<pre>\$ProcessTaskResponse/mdavxsd:INFATask/mdavxsd:taskType/mdavxsd:name/text()</pre>

次の表に、新規プレゼンテーションパラメータを示します。

パラメータ	タイプ	式
taskDataPriority	文字列	<pre>let \$in := \$ProcessTaskRequest/mdmavxsd:INFATask/mdmavxsd:taskData/ mdmavxsd:priority let \$out := abxht:getOutput('processTaskResponse')/mdmavxsd:INFATask/ mdmavxsd:taskData/mdmavxsd:priority return substring(concat(\$in, \$out), (1 + (string-length(\$in)) * xsd:int((string- length(\$out) > 0))), string-length(\$out) + (string-length(\$in)) * xsd:int((string-length(\$out) = 0)))</pre>
workflowVersion	文字列	<pre>\$StartRequest/mdmavxsd:INFATask/mdmavxsd:workflowVersion/text()</pre>

詳細については、『*Informatica MDM Multidomain Edition Upgrade Guide*』を参照してください。

Informatica Data Director のユーザーインタフェース

バージョン 9.7.1 HotFix 2 では、エンティティのデータを編集するには、**【アクション】** メニューの **【データの編集】** オプションを使用します。

以前は、**【アクション】** メニューの **【編集】** オプションを使用してデータを編集していました。

有効日フィールド

バージョン 9.7.1 HotFix 2 では、データ変更イベントを追跡するエンティティを開いたときに表示される、有効日フィールドのデフォルト値は、現在の日付です。

以前は、有効日フィールドのデフォルト値は null でした。

一致比較パネル

バージョン 9.7.1 では、以下の状況において **【一致比較】** パネルが **【一致】** ビュー内に表示されます。

- 作成したエンティティを保存するとき。
- 検索結果を比較するとき。
- 【階層】** ビューに重複が見つかったとき。
- 【階層】** ビュー内のエンティティをマージするためにドラッグするとき。
- マージタスクを表示するとき。

これまでは、**【一致候補】** ダイアログボックスが表示されていました。

索引

I
informatica-mdm-platform.log
説明 [31](#)

Informatica プラットフォーム
informatica-mdm-platform.log [31](#)